

# モニターメッセ20周年記念集

モニターメッセ・レビュー集

モニターメッセ 2011

第1回 JUDI パブリックデザイン賞



JAPAN URBAN DESIGN INSTITUTE

都市環境デザイン会議・事業委員会



## 目次

■ 20周年記念集発刊にあたって	2
------------------	---

### モニターメッセ・レビュー集

■ 出展企業からみたモニターメッセ	6
■ モニターメッセ20年の足跡	9
■ 事業委員会・歴代委員名簿	20

### モニターメッセ 2011

■ 基調講演『ストリートファニチャーからパブリックデザインへの歩み』	22
■ シンポジウム テーマ『パブリックデザインの今後の展望』	35
■ モニターメッセ	43
プレゼンテーション	
ポスターセッション	

### 第1回 JUDI パブリックデザイン賞

■ 開催趣旨・選考結果	76
■ 受賞作品	78
大賞（製品部門・空間部門）	
製品賞	
空間賞	
ブロック賞	
審査員特別賞	

## 20周年記念集発刊にあたって

都市環境デザイン会議 事業委員会委員長 横川 昇二  
(株)横川環境デザイン事務所 代表  
東京工科大学デザイン学部 教授

### 1. 20年の重み

事業委員会は、収益事業を中心にモニターメッセ事業をはじめ、出版事業やシンポジウム開催、他団体への協力などの活動を行って参りました。JUDI創設20周年を迎えるにあたり、恒例のモニターメッセとともに記念事業として過去19回に及ぶモニターメッセに焦点を当て、その成果を「モニターメッセ・レビュー集」としてまとめるとともに、過去に発表されたもの及び会員が関係した施工実績を対象に「JUDIパブリックデザイン賞」という顕彰事業を実施しました。また、総会とは別にモニターメッセ及び記念シンポジウム、JUDIパブリックデザイン賞の授賞式を開催致しました。

モニターメッセ事業は、1991年5月にJUDIが発足、その翌年に都市環境デザインモニター・プレメッセを試行し、1993年より毎年総会時にモニターメッセを開催してきました。今年で19回目を数えますが、これまでモニターメッセの参加企業と発表された製品は250余に及んでおります。各社が開発された製品は、現在も高く評されるものもあり、モニターメッセの時に交わされた意見交換や議論が有意義なものであったことが分かり、レビュー集ではその経過と実績を伺い知ることが出来ます。

次に、「JUDIパブリックデザイン賞」は、これまで19回のモニターメッセ参加企業に対する支援になると同時に、都市デザインにとって公共事業の意義と重要性を示す機会として事業委員会が中心となって推進してきました。過去20年間に発表されたもの及び会員が関係



ポスターセッション風景

した施工実績を対象に顕彰事業を実施する事になり、2011年早々にホームページに掲載し広報と公募を開始しました。公共事業関係予算が減少する中、都市環境を構成する施設や単位となる空間の新しいものだけでなく、時間を経過したものの持続性や定着性を評価する場を設け顕彰することで、“パブリックデザイン”の意義と重要性を明確にし、JUDIが都市環境形成や景観づくりに大きく貢献していることを示す機会にしたいと考えました。3.11の東日本大震災の影響もあり、応募総数は当初の予測よりも少なかったことは残念でしたが、会員や関係者の協力により26点の応募がありました。審査結果は製品部門大賞、空間部門大賞に各1点、製品賞3点、空間賞3点、ブロック賞3点、審査員特別賞3点という結果になりました。



モニターメッセ・メーカー発表風景



モニターメッセ・質問風景





懇親会風景

この審査を通して、安全施設から修景施設まで、都市空間の社会基盤を形成するパブリックデザインは、機能性や安全性、景観形成のための審美性、重要性と同時に、時間経過の中での評価が大きなポイントになることを再確認する機会となりました。新しさや個性が重視される一般的な商品のデザインとは異なり、パブリックデザインは時間的な評価と環境や地域性との関係が評価の対象となるのが大きな特徴であることを再認識しました。この事業にご応募及びご協力いただきました関係者には、心より感謝申し上げますとともに、第2回、第3回と継続させることをお約束したいと思います。

## 2. 今後に向けて

記念事業の一つとして基調講演とシンポジウムを開催しましたが、都市環境デザインの中で今後のパブリックデザインを考える有意義な機会となりました。基調講演をお願いした田中一雄氏には「ストリートファニチャー

からパブリックデザインへ」というテーマでお話し頂きました。

詳しい内容は記録をお読み頂きますが、1983年に発行された故西沢健氏の著書「ストリートファニチャー」に触れながら、ストリートファニチャーとの関わりやその源流、そしてその後の経緯や展開を貴重な資料を交えた内容でした。話は「ストリートファニチャーとは」から始まり、「モダンデザインとストリートファニチャー」、「ヒューマンスケールのストリートファニチャー」へと展開し、その中でEvery thing Through Industrial designを標榜してきた「G Kは何をつくってきたか」という内容でG Kの歴史を見るような国内外の実績の紹介と解説がありました。そして「あぶないストリートファニチャー」に触れながら、「これからのパブリックデザイン」について話され、最後の「これから何をしていくべきか」では、パブリックデザインは価値創造産業であり、今、社会的価値を経済的価値や文化的価値につなげていくということを思い返さなければならないこと、故西沢健氏の遺志を継ぐとともに、今回の大震災を超えていく中で新しい社会をつくっていかうことを、もう一度原点に戻って考え直していきたいと講演を締めくくられました。私の先輩であり環境デザインを志向する上で大きな影響を受けた西沢氏を思い浮かべながら、後輩の田中氏の熱の入った話の中に確実に継承、展開されていることを実感し、心が熱くなるものを感じました。

次に「パブリックデザインの今後の展望」をテーマとしたシンポジウムは、私がコーディネーター役で会員の 中野恒明氏、天野光一氏、長町志穂氏、企業から藪本浩次氏をパネリスト、そして基調講演者の田中氏も加って



基調講演風景



シンポジウム・会場風景



シンポジウム・パネリスト

展開されました。詳しくはシンポジウムの記録に譲るとして、話題は各パネリストそれぞれの立場から「パブリックデザインとの関わりや想い」と3.11東日本大震災を受けて「今後のパブリックデザインへの想いと提案」をお話し頂きました。

それぞれの立場からの話は興味深いものでしたが、とくに田中氏が「長い時間の中で導いてきたデザインが大切であること、そして主張していることも大切であること、組織や団体による運動も大切であること、つまり何が大切か、何のためにやるのか、本質が重要であること、そして続けること、また、領域を超えた専門性を活かしていくことが重要である」という話は、20周年を迎えたJUDIにとって原点を考え、次の活動に向かわなければならないことを痛感させられるものでした。なお、このシンポジウムのパネリストであった薮本浩次氏が約3週間後に急逝されたことは極めて残念であり、この場を借りてご冥福をお祈りします。



パブリックデザイン賞・選考会風景



パブリックデザイン賞・授賞式風景

終わりにあたり、私事になりますが1985年ドイツのフランクフルトで開催された「パブリックデザイン・メッセ」を4年続けて関連企業の方々を引率して視察し、その後、ヨーロッパを始め、アメリカや東南アジアへパブリックデザイン視察旅行を実施、仕事や研究に活かすことが出来たことを思い出します。また、1991年には「パブリックデザイン事典」の編集出版に参加、執筆者や関係者との交流を通して多くのことを学び、大きな刺激を受けたことが今でも思い出されます。パブリックデザインに関わり30年近く経過した現在、「コンクリートから人へ」という考えの下で公共事業が悪者のように言われ、関連事業費は年々減少していることに憂慮していますが、公共事業は国として社会基盤、社会資本となるものであり、その代表的なものがパブリックデザインであり、安全で安心できるだけでなく、快適かつ魅力あるまちづくりの中心的役割を担うものであります。景観法が施行され7年程経過しましたが、地方性や地域性を活かした景観づくりやまちづくりの成果が上がっているかは疑問であります。

そこで、自動車や家電製品などの個人消費に関わる企業だけでなく、新しいパブリックデザインの施設や製品の生産に関わる企業に対しても国や自治体の理解と支援を要請しながら、景観の課題をはじめエコやエネルギー等の環境問題、防災や防犯等の安全や安心の課題に取り組んでいる企業や製品への理解を深めて頂き、「成熟した都市は、公共空間が美しい」をスローガンにパブリックデザインの普及と支援に積極的に取り組んでいきたいと考えていますので、JUDI会員並びにモニターメッセ参加協力企業の関係者のご協力とご支援を今後ともよろしくお願い致し発刊にあたっての言葉とします。

# モニターメッセ・レビュー集

～モニターメッセ20年の足跡～

■ 出展企業からみたモニターメッセ

■ モニターメッセ20年の足跡

■ 事業委員会・歴代委員名簿



JAPAN URBAN DESIGN INSTITUTE



## ■ 出展企業からみたモニターメッセ

### 1. JUDIモニターメッセとの20年

株式会社コトブキ  
敷本 浩次



JUDIモニターメッセに出展を始めたのはおそらく、20年ほど前ではないかと記憶しています。天王洲で開催されていたところです。モニターメッセの記憶をたどってみたいと思います。

#### (1) フラワーポール

おそらく初回のモニターメッセの出展が「フラワーポール」ではなかったかと思います。「フラワーポール」は、立体植栽的な開発意図で作った自動灌水式の空中フラワーポットです。出展での批評は、デザインが悪い等かなり酷評であったと思います。

当時としては自動灌水の装置を収納するための筐体はどうしてもゴツクなる事が克服できず、無骨な意匠になったのが標的にされたのではないのでしょうか。しかし、モニターメッセのように率直に指摘を受ける機会が無いメーカーにとっては貴重な時間であったようにも記憶しています。そのような経験が、新鮮であったことも確かです。

#### (2) 仙台でのモニターメッセ

地方開催の仙台市でのモニターメッセも印象深いものでした。地元のデザイナーによるシンポジウムも刺激的で大変参考になりました。また、この頃からでしょうか、企業プレゼンに対する辛辣なコメントが少なくなり、好意的なコメントが多く見られるようになったと感じました。

JUDIのモニターメッセというと、辛口の意見が多く、緊張する時間でしたが、雰囲気は柔らかくなりました。昔が懐かしいと感じる部分もありました。これは、経済成長がある時代と現在のような社会状況では違いが出るのも当然かもしれません。しかし、日本を代表する都市デザイナーの貴重な意見をいただける場でもあるので、昔のようにとは言いませんが、メーカーに対する率直な意見が伺えるような機会であることも必要だと感じています。

最後に、これから東日本大震災の復興に際して、都市デザインが軽視されないように、私たちJUDIの関係者ががんばることも大切であると感じています。

### 2. モニターメッセでの叱咤激励が新製品を生み出すバネに

日本興業株式会社  
藤谷 康



日本興業は四国、高松に1956年に誕生。間知ブロック・空洞ブロックといったコンクリートの2次製品の製造メーカーとしてスタート。1980年代後半、特殊インターロッキングブロックの販売開始から、本格的にまちづくりに貢献する景観資材の開発に取り組むようになりました。同時期よりモニターメッセに参加、様々な製品について評価・アドバイスをいただきました。その中には厳しい評価の製品もあり、開発スタッフの一員として悔しい思いをしたこともあります。先生方からの貴重なアドバイスはその後のニッコーのものづくりの中に生かされています。

#### (1) メーカーの自己満足でモノをつくらない

時としてメーカーは新製品を作り出すこと自体が目的となり、自己満足に陥ることがあります。「美しく豊かな環境づくりに貢献する」ことが日本興業の理念であり、ペイメントという景観のベースを彩る製品を生み出してきましたが、その過程には様々な葛藤や失敗作と呼ばれるものもありました。明確なコンセプトのないモノづくり、意匠だけがむやみに自己主張をするモノなど、モニターメッセの中で酷評された製品の殆どはその後カタログから姿を消していく結果となりました。そういった試行錯誤を繰り返す中で、モニターメッセを通じて学んだスタンダードなモノづくり（製品づくり）への思想はニッコーの遺伝子に組み込まれていくこととなります。

#### (2) これからのまちづくりに向けて

2011年3月11日の東日本大震災以後、これからのまちづくりに向けてメーカーとして何ができるのか、何をやらなくてはならないのか、社内でも様々な議論が続いています。モノづくりに関する技術は日々進歩していますが、新しい技術をこれからのまちづくりにどう活かしていくのか、モニターメッセにおいて様々な視点から議論していくことが更に重要になっていくことと考えています。

### 3. 出展企業からみたモニターメッセ

ヨシモトポール株式会社  
丸山 浩二



ヨシモトポールは景観関連の製品を扱うメーカーとして都市環境デザイン会議・モニターメッセに1993年より参加させて頂き、今年2011年で17回目の企業製品の発表を迎えます。

発表してきた製品の中にはその後大きな広がりをもったデザインコンクリート製品や異種材料の組み合わせ製品、新規事業参入を目指した風力発電用の避雷針柱、ガラスのリサイクル製品、基礎技術となる素材や構造、塗装技術も含まれます。

企業にとって、都市環境デザインに携わる発注者や設計者、メーカーの方々を迎えたモニターメッセのような製品発表の機会を得られることは、企業として製品開発に力を注ぎ、これから営業的な展開をしていこうとする中で、直接仕事につながるか否かに拘わらず、世の中に発信するという大きな意味を担うとともに、企業開発製品の意見の集約が難しい中で、発表に対してのモニターのご意見・感想を伺うことは、発表した製品内容の客観的な見直しや元を正せば基礎技術の見直しにもつながると考えております。

直近では出展企業数の減少も見受けられますが、再度出展企業数を増やす努力とともに、活発なモニターメッセであり続けることに期待をします。また、世代を広げる意味でも未来を担う若い発注者、設計者、メーカー担当者やこれから都市環境デザインに携わっていく学生世代の参加にも期待したいと思います。

今後の課題として、モニターメッセで発表した各企業の製品および技術提案を是非、JUDI会員の皆様と一緒に具体的な件名で設計協力していけるよう企業としても引き続き尽力していきたいと思っておりますので宜しくお願いします。

### 4. モニターメッセ初出展の感想

株式会社アーテック  
小早谷 信之



弊社アーテックは2009年に初めてモニターメッセに出展し、弊社独自のEBAS（電子線硬化型樹脂塗装）コーティングを施したサインパネルの特徴や事例を通して、まちづくりに携わる先生方、JUDI会員の方々にプレゼンテーションさせていただきました。

#### (1) モニターメッセへの初出展

一般にサインという存在自体、まちなみや景観を構成する上では小さな存在ですが、弊社のEBパネルは情報の変化に対応しやすいフレキシビリティよりも、耐久性・耐候性に特化した、長期間にわたる表示を優先した製品といえます。そのような場所を選ぶ製品ではありませんが、責任コメンテーターを努めてくださった埒先生をはじめ、多くの先生方がこの製品の特長を生かすために今後どのように製品開発をするべきか議論いただき、多くのヒントを与えていただいたと思っております。そして、コストの問題、加工形状・サイズの問題など、設計者側の要望とのギャップも改めて感じた次第ですが、課題が明確になった分、改善目標として持ち帰ることができたことも大きな成果だったと感じています。また、会場もコンパクトでしたので、モニターメッセに出展されている同業種、異業種の企業様との情報交換も貴重な体験でした。普段は聞けないような他社様の製品開発への取り組みや考え方に接することができ、大変視野が広がる思いでした。

#### (2) さらに品質向上と新製品の開発を目指して

続けて2010年はポスターセッションへの出展となりましたが、続けて出展したことで製品が少し認知していただけかなという思いと同時に、モニターメッセは毎年の開催ゆえに「今、まちづくりには何が必要か、どんな技術・提案が求められているのか」というテーマに日々向き合う設計者の現場感覚あふれた意見を拝聴できる貴重な場と実感した次第です。今後も機会があればモニターメッセへ参画したいと思っておりますが、まずはJUDIの皆様にごぞって提案していただけるよう、頂いたご意見を参考に既製品のブラッシュアップと新製品の開発をさらに進めたいと存じます。次回出展する際には、忌憚のないご意見を宜しくお願い申し上げます。

## 5. 出展企業からみたモニターメッセ

三協立山アルミ株式会社  
篠島 幹裕



弊社三協立山アルミが、初めてモニターメッセに出展し、川崎駅西口交通広場において施工致しました、高強度アルミ構造シェルターフォルメスのプレゼンテーションを実施させていただきましたのは、今から5年前の2007年になります。

アルミを他の金属素材と比較した場合の優位性は、経年劣化に強い、特に耐候性・耐食性に優れるという性質にあります。また、フリーメンテ、リサイクルが可能であるという点もアルミ素材の優れた点であると言えます。

フォルメスは、海から非常に近い位置にある川崎駅周辺における設置が条件であったことから、特に構造部に新開発のアルミ構造材を使い、より高い耐食性の向上を図りながら、従来の規格製品にはない高強度な製品作りを目指しました。今まで納めた製品について元請の業者様や販売窓口の商社様から講評をいただくという機会はありませんでしたが、自らがコーディネーターとして設計に携わり、具現化まで導く立場の方々から製品について講評と指導をいただく経験が皆無に等しかった弊社にとって、周囲の景観との調和の重要性と提案における基本的な考え方、商品開発のポイントにおいて、様々なレクチャーを頂戴できたことは、その後の商品開発への大きな足掛かりになったと思っております。

現代におけるキーワードはECOです。弊社は、環境に配慮し、安全・安心で快適な空間と生活づくりに役立ち、また長く満足していただける商品の提案を進めています。省エネ・省資源・資源有効活用・環境保全、この4つをキーワードに、様々な景観にマッチする、より高機能で環境にやさしい製品の開発に更に力を注いでまいります。引き続き、JUDI会員の皆様方からのご指導・ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

## 6. モニターメッセに参加して

宮崎高砂工業株式会社  
仙臺 真理



弊社は九州の陸の孤島ともいわれる宮崎で、地域資源を活用するために誘致され、地域の粘土を使った瓦やレンガといった商品づくりをしてきました。今年がちょうど40周年になります。この地に粘土がなければ、出会う事がなかった人や誕生していない商品の数々。そうした事を思うと何気ない物にも未来を拓くチャンスが秘められているのではないかと思います。JUDIモニターメッセで商品のPRをさせて頂きましたのも、京都の方から東京の方をご紹介頂き、レンガをPRしている中で出会った方のご縁からでした。プレゼンは普段からしていましたが、モニターメッセの案内を聞きました時、10分のPR費用が10万と聞いて、正直驚きました。また同時に10分の価値を真剣に考えました。宮崎にはそうした時間の価値を考える機会はなく、同じ時間の、1分1秒が日本の中心の東京では経済と直結している事を実感しました。ですから、「行く」と決断するまでにはやはり即決とはいきませんでした。こうして私達のもとに来たということは、なにか意味があつての事だと思ひ、ありのままの姿を見て頂き評価頂こうと決心しました。

プレゼンするにあたり、参加頂きました先生方にどのように感じて頂けるのか、大変緊張した記憶があります。レンガという魅力を知っておられる先生方も多い中で、プレゼンしてみて、弊社の「リサイクル」、「国産」というキーワードから広げたレンガのプレゼンの評価は厳しい面があったと感じた一方で、レンガ素材の良さをもう一度きちんと、広く伝えたいと感じました。

レンガは、世の中になくはならない消耗品でもなく、代わりの素材が多く存在する物です。しかし、今尚こうして日本でレンガの製造が続いているという事は、時を超えて「いい」と感じていただける方がいるという事だと思ひます。人の命がはかなく必ず終わりがあると認識する中で、永遠に有り続ける素材をこうして作れる喜びは感謝につきるものです。

モニターメッセに参加して、宮崎と東京の距離を忘れて伝わる場、繋がる場として体験できたこと、聞いて頂いた方々の記憶の片隅で「レンガ」、「高砂」と記憶のかけらが残って頂いた事は大きな一歩であったと思っております。



## ■ モニターメッセ20年の足跡

都市環境デザイン・モニターメッセは、都市環境デザイン会議のメンバーが自ら社会的、専門的なモニターとなり、都市環境製品の開発、素材の供給、技術の開発などに関与される産業界の方々のご協力を得て、双方向型の情報交換の場として開催してまいりました。

都市環境デザイン会議20周年にあたり、これまでに出展いただいた製品を当時の社会経済情勢や都市環境デザインに関わる世の中の動きの中で捉えたレビューを行い、次代に果たすべき役割を展望する契機とすることを企図いたしました。

### 1. モニターメッセ創成期（1992年～1996年）

都市環境デザイン会議が1991年5月に発足、その翌年に都市環境デザインモニター・プレメッセを試行した。

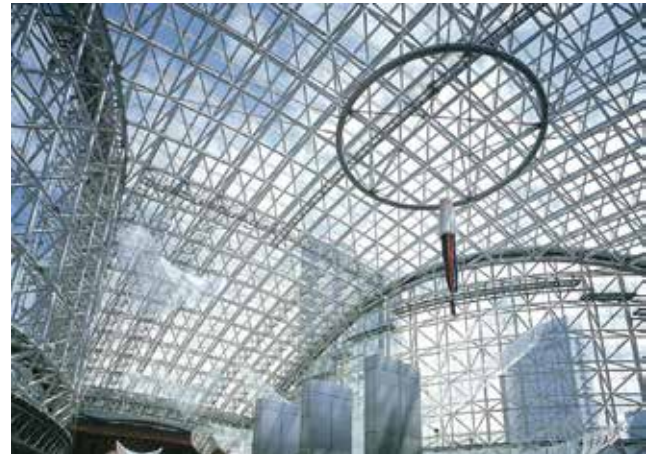
参加企業は、都市環境製品メーカー3社、ゼネコン3社、鉄鋼関連企業2社、プラントメーカー1社、ガス会社1社の合計10社であった。プレメッセということもあり、参加企業のみならず主催者側も手探りの状況であった。



1993年からは、本格的なメッセの開催となった。参加企業は24社、会場は天王洲の宇部興産ビルUBEホールを利用し、盛大に開催された。会場を3つのゾーンに区切り、3つのセッションを同時進行するという、現在では想像し難いほどの盛況振りであり、誰しもが都市環境デザインの明るい将来を確信していた時代でもあった。参加企業の内訳は、都市環境製品メーカー20社、ゼネコン2社、プラントメーカー1社、機械系メーカー1社である。

現在でもさまざまな場面で利用されることが多いアル

ミニウムの立体トラス（スペースフレーム）とハニカムパネルは、この年に住友軽金属工業(株)によって発表された（現在この製品は、(株)住軽日軽エンジニアリングに継承されている）。また、この年に早くも東芝ライテック(株)がLEDを利用した製品発表を行った。



■住友軽金属工業(株)：アルミニウムトラス

### 1993年

開催日：1993年7月23日  
開催場所：天王洲アイル・宇部興産ビルUBEホール

参加企業	発表製品等
岩崎電気(株)	2色発光型HIDランプ～EYE TWIN ARC
(株)ヤマウ	スレッドピカコン・HAMMYO (フェライト磁気誘導システム)
内外テクニカ(株)	和風立体駐車場「京の庫」
(株)クボタ	都市水施設の微気象形成機能 (噴水等による空間の冷却効果)
(株)サンポール	街路用ベンチ、フラワーポット付車止め、小鳥付車止め
東芝ライテック(株)	LED埋込コンクリート製品
金門電気(株)	照明、電話、時計、分電盤、サイン等の複合化
住友軽金属工業(株)	アーバンスペースフレーム（立体トラス）、アルミハニカムパネル（接着パネル、ろう付パネル）
小糸工業(株)	道路照明における景観対応
(株)コトブキ	景観づくりと都市サイン
大成建設(株)	新宿の都市環境調査分析結果
奥アンツーカ(株)	バイオコンポシステム (微生物発酵システム機械による廃棄物リサイクル)
日本軽金属(株)	アルミパイプ製立体トラス
(株)日東建材工業	40mm厚共通企画商品（セラミックス）
アートファクトリー玄(株)	アートオブジェやモニュメント（米子市・ふれあい橋他）
ヨシモトポール(株)	ストリートファニチャー表面処理、コンクリート素材の評価
アイエルビー(株)	タイル・天然石の乾式舗装材（タイル・天然石複合ILB）
カネソウ(株)	車止め「アーバンブラード」
(株)INAX	自然と調和するタイル等の建材製品について
(株)大林組	全自動ビル建設システム
日本興業(株)	部材の整合による景観に配慮した商品
リョウワ工業(株)	磁器質タイルブロック
伊藤鉄工(株)	鋳物の製作方法と製品紹介
日本鑄造(株)	消失模型鋳型のアーバンファニチャーへの応用

### 1992年

開催日：1992年5月23日  
開催場所：東海大学友好会館

参加企業	発表製品等
東京ガス(株)	都市を彩るガスアート (ガス燈籠の環境演出の提案)
住友軽金属工業(株)	ニューアーバンファニチャー (ストリートファニチャー)
(株)神戸製鋼所	スカイレール
(株)竹中工務店	街路デザイン (横浜・イセザキモール、日比谷シャンテ)
清水建設(株)	片面吊り橋梁
(株)クボタ	水景観施設（噴水）
川崎製鉄(株)／川鉄機材(株)	ユニット式立体駐車場KP/パーク (1層2段自走式自動車車庫)
大成建設(株)	緑と風と水の都市づくり (自然との共存、エコロジカル・インフラ)
積水樹脂(株)	天津橋（大阪・牧方市）の橋梁
東芝ライテック(株)	メーカーのデザイナーの立場から



1994年は、都市環境デザイン・モニターメッセ史上最大の25社の参加を得て、UBEホールにて開催された。参加企業の内訳は、都市環境製品メーカー18社、ゼネコン4社、プラントメーカー1社、機械系メーカー1社、セメントメーカー1社である。

この年には、透水性舗装がアイエルビー(株)により、はじめてモニターメッセで発表された(アイエルビー(株)は企業合併により現在太平洋プレコン工業(株)となる)。また、ゼネコン各社は、技術や自社研究、プロジェクト紹介などを行っている。ヨシモトポール(株)は、その後の同社の主力製品のひとつとなるデザインコンクリートポールをはじめてモニターメッセで紹介している。



1995年は20社の参加を得た。参加企業の内訳は、都

### 1994年

開催日：1994年7月9日  
開催場所：天王洲アイル・宇部興産ビルUBEホール

参加企業	発表製品等
(株)クボタ	水施設による都市の微気象形成～第2報(人工的な霧の発生)
(株)竹中工務店	竹中エコロジカルサポートシステム・TESS-R
アイエルビー(株)	目詰まり再生可能な透水性ILB(透水性舗装材)
(株)コトブキ	灌水システムを導入したフラワーポール
小糸工業(株)	照明柱と交通信号柱との統合柱
積水樹脂(株)	美しい道づくり、街づくりに貢献する(高速道路内の防音壁、トンネル部の内装板などの施工例)
(株)ホクショウ	パブリックトイレ「ハグ、シルクロ」
カネソウ(株)	植樹耕グリ「ガーデングレード」
伊藤鉄工(株)	鋳物を景観材として利用した施工例
ダイモス(株)/富士川機械(株)	音楽噴水「ティアン」
ヨシモトポール(株)	コンクリート製のポールや景観製品
住友鋼材工業(株)	石と鉄の長所を組み合わせた景観商品「アダントレル」
(株)大林組	手造りの保存建築「ブラッケンハウス再生プロジェクト(ロンドン)」
(株)サンポール	ダクタイル鋳鉄製ボラードの防錆対策、車椅子ゲート
鹿島建設(株)	ビル群故紙リサイクルシステム
(株)フロムトゥ	アーバンファニチャー
(株)ヤマウ	「クリーン・ライト」ソーラーシステム・フットライト
住友軽金属工業(株)	ハニカムパネル、スペースフレーム
大林道路(株)	プランニングから施工・メンテ、イベント企画まで
(株)INAX	公共エクステリア空間の舗装床材ほか
大成建設(株)	都市デザイン手法「FCI」と新宿でのケーススタディ
東芝ライテック(株)	ヒューマンスケールライティング「プレアシリーズ」
日本興業(株)	街路樹を保護するツリーサークル「ツリーズ」
秩父セメント(株)	ポリマー含浸コンクリート製埋設型枠「PICフォーム」
日本電池(株)	環境を創る新しい光「LIGHT PIPE」

※透水性舗装 ☞

市環境製品メーカー16社、ゼネコン4社である。この年、阪神淡路大震災があったことから、地元の(株)栗本鐵工所が「阪神大震災の私達のものづくりへの教訓」と題する発表が印象的であった。



1996年は、都市環境製品メーカー15社、ゼネコン2社、行政1団体の合計18社の参加を得た。特筆すべき



地球環境にやさしい透水性のブロックです

### ■アイエルビー(株)：透水性舗装グランパム

### 1995年

開催日：1995年7月15日  
開催場所：天王洲アイル・宇部興産ビルUBEホール

参加企業	発表製品等
(株)旭ダンケ	レンガ、フローティングクーゲル、御影石のストリートファニチャー
小糸工業(株)	歩道路照明とそのあり方
岩崎電気(株)	HIDランプ「ハイラックス」「ツインアーク」「FECサンルクスエース」
日本興業(株)	舗装面緑化用「グラススパーサー」、PC土留めブロック「プランツウォール」
住友軽金属工業(株)	アルミハニカムパネル、アルミスペースフレームとその応用例
黒崎窯業(株)	耐火レンガ「ニューブリック」
東芝ライテック(株)	都市景観照明制御システム
(株)サンポール	ベンチSP-600シリーズの施工例と使用方法
鹿島建設(株)	コンクリート構造物の照り返しと防止方法
金門電気(株)	装置類を一体化した道路照明KX
日本軽金属(株)	アルミ大型形材「日軽システムピラー」
(株)INAX	ガイアEXシリーズの新製品、公共トイレのアーバントイレSP
大成建設(株)	サッポロファクトリーと歴史的建築物保存
(株)大林組	環境共生システムによる大規模開発計画手法
(株)竹中工務店	緑化コンクリート
(株)クボタ	水施設による都市の微気象形成～第3報(水景を兼ねた冷却装置の提案)
日本電池(株)	都市景観照明用ポールライト「ルミオーブ」
大林道路(株)	自然石舗装の施工例と補修状況について
カネソウ(株)	歩行者のための横断防止柵、ベンチ柵、ベンチ
(株)栗本鐵工所	阪神大震災の私達のものづくりへの教訓

※阪神淡路大震災



は、新島村役場によるコーガ石の出展であり、後にも先にも行政による出展はこれだけである。また、黒崎窯業(株)が、モニターメッセでは初となるリサイクル製品(クリスタルロード)の発表を行った。ゼネコンにおいては、鹿島建設(株)の技術研究所がその後数年に渡りユニークな技術発表を行うことになった最初の出展として、コンクリートの表面パック洗浄を発表した。この年を契機とする鹿島建設(株)の技術発表は、モニターメッセ参加会員が期待するものとなっていった。



乾燥して皮膜となったパック剤を手で剥がす  
(汚れも一緒に除去)

■鹿島建設(株)：コンクリートの表面パック洗浄

## 1996年

開催日：1996年7月13日  
開催場所：天王洲アイル・宇部興産ビルUBEビル

参加企業	発表製品等
岩崎電気(株)	高演色彩コンパクト光源ハイラックス250・400W
(株)INAX	土からの新素材・ソイルセラミックス
黒崎窯業(株)	クリスタルロード (廃ガラスを再資源化し舗装用レンガとした)
(株)栗本鐵工所	工事現場仮囲い用竹フェンス
日本電池(株)	GSソーラーライト
(株)竹中工務店	人工地盤植栽設計技術
(株)大林組	グリーン・エンジニアリング(汚染土浄化技術)
(株)リョーフ	透水性セラミックブロックと植栽グリエの紹介
ヨシモトポール(株)	デザインコンクリートシステムポール
鹿島建設(株)	コンクリート表面のパック洗浄
日本興業(株)	穴明き透水ペイブロック
カネソウ(株)	ストリートファニチャー新商品の紹介(吸殻入れ、屑入れ、プランターのデザインを統一した「アーバンボックス」)
アイエルビー(株)	透水性ILB「グランパム」
住友軽金属工業(株)	アルミと環境(アルミハニカムパネル、アルミスペースフレーム、アルミの再利用)
新島村役場	環境に対してのコーガ石のアプリケーション
積水樹脂(株)	超耐候性塗装システム「セラアップ」
小野田OLB会	車道用インターロッキングブロックの技術開発
東芝ライテック(株)	ヒューマンスケールライティング「プレアシリーズ」

※リサイクル製品 ⇨

## 2. モニターメッセ発展期(1997年~2004年)

開催回数を重ねて行く中で、プレゼンテーションの方法をパネル展示からOHPによる発表へ変更、新製品だけでなく、既製品のその後の報告など、モニターメッセ運営の工夫や改善を実施した時期である。

1997年は、多摩ニュータウン30周年を記念する事業の一環として、「特別モニターメッセ」として、土曜日曜2日間、多摩センター駅前地区「繭ドーム」で開催され、150名にも及ぶ参加者となった。参加企業数は19社であり、その内訳は都市環境製品メーカー14社、ゼネコン5社である。この年は、特別テーマ「未来社会の



■鹿島建設(株)：コンクリートエイジング

## 1997年

開催日：1997年7月12日  
開催場所：多摩ニュータウン・文化創造工房「繭ドーム」

参加企業	発表製品等
(株)INAX	コーポレートコミュニケーション活動の発表と新商品ソイルセラミックスの実績
大林道路(株)/アイエルビー(株)	ILB舗装の機能回復について
(株)コトブキ	優雅なフォルム・メタルファニチャー
小糸工業(株)	「歩道照明」の開発事例
興建産業(株)	街並みが語り始める
(株)竹中工務店	秋田杉集成材による大館樹海ドーム
岩崎電気(株)	ツインアークについて
日本電池(株)	ライトパイプの最近の納入例紹介
(株)大林組	自然との共生
小野田OLB会	低騒音排水性ブロック舗装システム
ヨシモトポール(株)	コンクリートと鉄を組み合わせたポール
日本興業(株)	宅造用擁壁
伊藤鉄工(株)	耐候性の鋳物
東亜建設工業(株)	湖沼の水質環境
住友軽金属工業(株)	ハニカムパネル、スペースフレーム
鹿島建設(株)	コンクリートでエコアップ
戸田建設(株)	ボックスシールド工法、PDシステム
東芝ライテック(株)	プレアストリート~新時代のシステム街路灯
(株)スズオカ	サイン施工例

環境デザイン」と一般テーマの2枠を設定している。この年は舗装材料と照明関連からの出展が多かった。

(株)INAXのソイルセラミックス、日本電池(株)のライトパイプ等、その後の各メーカーの代表商品となるものが出展されている。



1998年は16社の参加を得た。全てが都市環境製品メーカーからの参加である。この年から、発表方法をパネル展示から発表時間10分のOHP等によるプレゼンテーションへと簡素化している。会場は品川・天王洲アイル東京MIビル、参加者は59名と記録されている。この年も舗装材料と照明関連からの出展が多かった。一方、住友軽金属工業(株)のハニカムパネル、日本電池(株)のライトパイプ、鹿島建設(株)のコンクリートパック洗浄



■住友軽金属工業(株)：ハニカムパネル

**1998年**

開催日：1998年7月11日  
開催場所：天王洲アイル・東京MIビル

参加企業	発表製品等
東芝ライテック(株)	「ブレア」シリーズの開発について
(株)INAX	「やさしい暮らし」INAXとしての人によさしい街づくり
鹿島建設(株)	コンクリートパック洗浄とエイジングのその後
興建産業(株)	デザイン住宅擁壁D-WALLの現状と今後
伊藤鉄工(株)	ラスガードCAST (耐候性構物)
(株)コトブキ	VINET・都市緑化について
(株)リョーフ	透水性サンセラロックと植栽グリエのその後
日本電池(株)	ライトパイプの最新納入例・施工例紹介
ヨシモトボール(株)	コンクリートと鉄素材の活用
小野田OLB会	低騒音、排水性インターロッキング舗装システム「レイニージェイ」の施工現場～その後
岩崎電気(株)	新型光源のレビュー
アイエルビー(株)	透水性ILBの現状と機能回復
日本興業(株)	緑化補助舗装材、透水性舗装材のその後
金門電気(株)	照明メーカーの考えるストリートファニチャー
住友軽金属工業(株)	ハニカムパネルの開発から次世代への展望
黒崎窯業(株)	NUBRIC

等、過去の出品に関する施工事例、その後の評価、そして展開についての報告も行われている。特に、透水性の舗装材料を扱っているアイエルビー(株)、日本興業(株)、小野田OLB会等各社が、透水性の舗装材料の施工後の状況を丁寧に報告している。



1999年は13社の参加を得た。都市環境製品メーカーが11社、ゼネコン2社である。発表時間は、新作は20分、レビューは10分に設定して実施している。この年も会場は、天王洲アイル東京MIビル。参加者は51名と記録されている。(株)INAXは前年度から引き続き「人によさしい街づくり」として、公共空間の床を取り上げている。昭和鉄工(株)は、低コストの高機能な歩行者用柵を発表している。また、「ユニバーサルデザイン」を(株)コトブキがはじめて取り上げている。「環境」をテーマとした製品では、クリスタルブリック(株)とクリスタルクレ



■昭和鉄工(株)：FTシリーズ

**1999年**

開催日：1999年7月17日  
開催場所：天王洲アイル・東京MIビル

参加企業	発表製品等
鹿島建設(株)	コンクリートで食物連鎖を蘇らす～エコパネル
ヨシモトボール(株)	特殊な骨材を使ったボラード
昭和鉄工(株)	低コスト高機能景観製品 SHOWA URBANEX (FTシリーズ、SPシリーズ、GFシリーズ)
スプリットン工業会	地域の自然石の色合いを生かしたポーラスコンクリート製スプリットンブロック
(株)INAX	人によさしい街づくり・公共空間床編
クリスタルブリック(株)／クリスタルクレイ(株)	環境への負荷の少ない循環型社会の実現のために
日本電池(株)	新型ソーラーライト
東芝ライテック(株)	環境庁「光害対策ガイドライン」適合街路灯について
(株)コトブキ	ユニバーサルサインと表示システム CAPPセラフェイス、CAPPセラメタル
小糸工業(株)	歩行者の立場にたって新しい視点から開発した「歩行者用照明 KPSシリーズ」
岩崎電気(株)	光・環境・人との調和のために
大成ロテック(株)	ブロック舗装を大型車が走行する車道へ適用する場合の構築工法
(株)竹中工務店	軟弱地盤に対する地盤固化工法 Deep Cement Mixing Method-Land

※バリアフリー対応製品

イ(株)は共同出品でガラスのリサイクル製品、東芝ライテック(株)は光害、岩崎電気(株)と小糸工業(株)は人にやさしい照明灯を出品している。



2000年は13社の参加を得た。都市環境製品メーカーが11社、ゼネコン2社である。この年も、会場は天王洲アイル東京MIビルであり、49名が参加した。

この年は、松下電工(株)からエバーライト、日本興業(株)からはバリアフリーペイブといった現在では主流となった材料がはじめて紹介されている。



2001年は13社の参加を得て、天王洲アイル東京MIビルにて開催された。参加企業の内訳は、都市環境メーカー12社、ゼネコン1社である。



■日本興業(株)：バリアフリーペイブ

## 2000年

開催日：2000年7月15日  
開催場所：天王洲アイル・東京MIビル

参加企業	発表製品等
松下電工(株)	EVERLIGHT50 モールライト (街路灯) のご紹介
日本興業(株)	福祉型舗装材「バリアフリーペイブ」のご紹介
アイエルビー(株)	天然石による乾式工法の応用
(株)竹中工務店	屋上緑化技術～適用事例を中心に
日本粉体塗装協同組合	粉体塗装の多色・小ロット・短納期対応カラーガードについて
鹿島建設(株)	壁やガラスに思うぞんぶんお絵かき「K-バックマジック」
金門電気(株)	「多目的LEDランプ」インジケーション実施例
岩崎電気(株)	夜間照明と生態系保全
(株)因幡電機製作所	地球にやさしく町並の景観を保持する落書き、貼紙除去塗装リムセラ
住友軽金属工業(株)	アルミハニカムパネル、アルミ構造製品の次世代へのアプローチ
日本電池(株)	セラミックメタルハライドランプ
(株)コトブキ	バリアフリー製品についての報告
(株)INAX	ソイルセラミックスの歩行感テスト報告

※LED製品

この年は、環境、バリアフリーに関する発表が目立った。前者は、(株)INAXの土系舗装材、リサイクルに着目した(株)住軽日軽エンジニアリングのアルミ構造物、鹿島建設(株)の生物が生息できるウェットコンクリート、岩崎電気(株)の光応用による水辺環境浄化等である。後者は、日本興業(株)のバリアフリーペイブ、(株)コトブキのバスシェルター、小糸工業(株)のストリートファニチャー集約等によるバリアフリー空間形成等である。

また、松下電工(株)から“Virtual Reality System”が紹介されている。この後数年間に亘ってその活用方法等が発表されたが、現在では景観シミュレーションの場面で同社のVRシステムを目にする機会も増えている。



2002年は12社 (10グループ) の参加を得て、天王洲アイル東京MIビルにて開催された。参加企業の内訳は、都市環境製品メーカー11社、ゼネコン1社である。

前年から引き続き、バリアフリーに関する発表がいくつか見られる中、日本信号(株)、岩崎電気(株)、日本興業(株)が協働で歩行支援システム (歩行者ITS、夜間誘導、舗装平滑化) を提案したことが特徴的であり、異業種の組み合わせによる可能性を感じさせるものであった。



■積水樹脂(株)：オレンジウツドの施工例

## 2001年

開催日：2001年7月14日  
開催場所：天王洲アイル・東京MIビル

参加企業	発表製品等
日本興業(株)	バリアフリーペイブとユニバーサルデザインによる空間提案
(株)INAX	土系舗装材開発について
アイエルビー(株)	人と環境にやさしい保水性コンクリート平板
積水樹脂(株)	弾性止め「リボラード」
(株)住軽日軽エンジニアリング	循環型社会に適応したアルミ構造物の紹介
伊藤鉄工(株)	壁面緑化システム
岩崎電気(株)	光応用に依る環境整備
(株)コトブキ	バリアフリーバス待ちシェルター
小糸工業(株)	ビルトイン照明器具他のご提案～快適なバリアフリー空間形成のために
ヨシモトポール(株)	畜産施設の環境への取組
(株)因幡電機製作所	照明と花の共演「花あかり」のご紹介
鹿島建設(株)	ウェットコンクリート
松下電工(株)	Virtual Reality System「まちづくり支援VRシステム」のご案内



アイエルビー(株)からは、“緑化舗装システム”が発表された。前年発表された保水性舗装材に対してJUDI会員から緑化活用への期待が寄せられており、この年の発表は好評を得ていた。

環境面に着目したものとして、(株)INAXからは前年に引き続き土系舗装材「ソイルバーン工法」が、また、積水樹脂(株)の廃木粉や廃プラスチックを再利用した“オレンジウッド”、ヨシモトポール(株)の“ガラスリサイクル製品”が発表された。



2003年は10社の参加を得て、天王洲アイル東京MIビルにて開催された。参加企業の内訳は、都市環境メーカー9社、ゼネコン1社である。

この年は、高齢社会、エネルギー、防災といった、現在の社会問題に繋がる発表が見られた。

(株)INAXからは、新しい試みとして医療・福祉施設の

板橋区首都高速5号線、四ツ又商店街の高架下  
に敷設された、全面積700㎡に渡るミノボックスと  
リサイクルボードの納入実績例。両仕様にて再利  
用されたガラスは、ワイン瓶に換算して約2万  
8000本相当になる。



■ヨシモトポール(株)：ガラスリサイクル商品の施工例

**2002年**

開催日：2002年7月13日  
開催場所：天王洲アイル・東京MIビル

参加企業	発表製品等
(株)INAX	土系舗装材料「ソイルバーン工法」
(株)コトブキ	エクステリアサイン
日本信号(株)／岩崎電気(株)／日本興業(株)	視覚障害者用歩行支援システム
鹿島建設(株)	ウェットコンクリート・用途開発その1年
積水樹脂(株)	人工木材「オレンジウッド」
アイエルビー(株)	保水性インターロッキングブロックを使用した緑化舗装システムの開発
松下電工(株)	歩行空間のユニバーサルデザインからバリアフリーに対応したあかりへの取り組み
神鋼建材工業(株)	景観型防護柵・TMS型ガードパイプ
ヨシモトポール(株)	ガラスリサイクル商品の事例
伊藤鉄工(株)	バリアフリー対応スリット側溝蓋について

屋外空間づくりヘルシーパークが発表されたが、高齢社会下での屋外空間への発展を期待する意見が出された。近年、自然エネルギーへの注目が高まっているが、ヨシモトポール(株)からは、風力発電機用避雷針の提案が行われた。岩崎電気(株)は、停電時の避難誘導等への活用が期待できる光補償装置付外灯を発表している。



2004年は9社の参加を得て、東京大学弥生講堂にて開催された。参加企業の内訳は、都市環境メーカー8社、ゼネコン1社である。

この年は、生活空間の安全・安心に関する発表が多かった。岩崎電気(株)は公共空間等での照明システム、(株)コトブキは新エクステリアデザイン、アイエルビー(株)は前年に引き続き透水性平板舗装によるスーパーバリアフリーシステム、小糸工業(株)は防災用の照明設備を発表した。



■鹿島建設(株)：ウェットコンクリートの使用例

**2003年**

開催日：2003年7月5日  
開催場所：天王洲アイル・東京MIビル

参加企業	発表製品等
岩崎電気(株)	光補償装置付外灯 (LED照明装置)
鹿島建設(株)	ウェットコンクリート・用途開発その2年
ヨシモトポール(株)	大型風力発電機用避雷針柱の開発に関して
小糸工業(株)	LED照明内蔵手すり (神都高千穂大橋の事例)
(株)コトブキ	新製品ストリートファニチャー
神鋼建材工業(株)	沿道騒音低減用山形吸音板「シースルー防音壁」
松下電工(株)	「環境計画支援VR」の実施事例報告
積水樹脂(株)	投物防止柵「クラスターバリアEZJ」
(株)INAX	医療・福祉施設の屋外空間づくりヘルシーパーク
アイエルビー(株)	スーパーバリアフリーシステム (強化平板舗装)

※景観に配慮した車両用防護柵製品

また、伊藤鉄工(株)からは2002年に引き続き側溝蓋に関する発表が行われ、景観や安全性に対する地道な取組みや工夫に対して大きな評価が与えられた。

鹿島建設(株)のウェットコンクリート(2002~2003年)、アイエルビー(株)のスーパーバリアフリーシステム(2003~2004年)は2カ年に亘って発表されており、実施例や実用性の確認がなされた。

2004年には景観法が施行され、また都市再生特別措置法に基づきまちづくり交付金が創設された。地方公共団体における景観施策の後押しが強まった年とも言える。

### 刈谷駅南 オーシャンスリット(愛知県)



■アイエルビー(株)：スーパーバリアフリーシステム

デザインコンクリートポール編  
円形+多角形断面  
複合断面デザイン  
納入場所：北九州市



■ヨシモトポール(株)：景観材料の例

### 2004年

開催日：2004年7月17日  
開催場所：東京大学弥生講堂

参加企業	発表製品等
鹿島建設(株)	新しい素材を用いた剥離剤について
伊藤鉄工(株)	スリット側溝蓋R部の施工例
(株)コトブキ	新エクステリアサインについて「間伐材(REO処理)使用サイン、メッセージキオスク システムサイン」
松下電工(株)	「光の表現軸」景観照明新商品 Luminascapeのご紹介
岩崎電気(株)	「安心で暮らしやすい社会の実現」交差点、照明、広場照明について
日本興業(株)	環境舗装
小糸工業(株)	防災公園の照明設備・LEDソーラー照明など
アイエルビー(株)	スーパーバリアフリーシステムの展開について
ヨシモトポール(株)	各種材料を生かした景観材料としての物造りについて

※INAX：景観デザイン製品から撤退  
※美しい国づくり政策大綱  
景観法施行  
まちづくり交付金創設

### 3. モニターメッセ転換期(2005年~2010年)

2005年は都市環境メーカー8社の参加を得て大阪市難波市民学習センターOCATにて開催された。

モニターメッセは、JUDIメンバーが出展作品に対して意見を自由に発する場であったが、新しい試みとして企業提案に対してJUDIメンバーのデザイナー・専門家から1名の責任コメンテーターをつけて、企業提案に対して責任ある意見を発する時間を取る方法にスタイルを変更した。

この年は環境、景観、バリアフリーに関する発表が多く見られた。環境に関しては、ヨシモトポール(株)の風車と太陽光発電による揚水・還流システム、東レ(株)のリサイクル舗装材、日本興業(株)の温暖化対策の舗装材、アスザック(株)の省エネによるアルミキャスト製品、さらに松下電工(株)からはホテルと共生する環境照明の発表があった。

景観製品では、(株)住軽日軽エンジニアリングが景観に配慮したアルミ製防護柵を、昭和鉄工(株)はスタイリッシュな歩行者柵を発表し、会場から高い評価を受けた。またバリアフリー製品では、(株)コトブキから視覚障害者に配慮した音声案内板の提案があった。



■昭和鉄工(株)：歩行者柵

### 2005年

開催日：2005年7月16日  
開催場所：大阪市難波市民学習センター

参加企業	発表製品等
(株)コトブキ	新システム音声案内板のご紹介
松下電工(株)	光害と防犯「蛍と共生する街の景観照明」
日本興業(株)	バリアフリーペイブ・ロードクリーンシステム
東レ(株)	環境対応リサイクル舗装材「トレスルー」のご紹介
アスザック(株)	都市空間の演出で美しさと潤いを(アルミキャスト想像の世界)
(株)住軽日軽エンジニアリング	アスレール(景観に配慮したアルミニウム合金製防護柵)
昭和鉄工(株)	自然を透かし都市に映える防護柵
ヨシモトポール(株)	多翼型風車と太陽光発電による揚水・還流システム



2006年は7社の参加を得て、石川県教育会館にて開催された。参加企業の内訳は、都市環境製品メーカー6社、民間団体1社である。ヨシモトポール(株)はこれまでの景観製品の納入実績の紹介、(株)MARUWA SHOMEIはLED照明、松下電工(株)は建築外構照明の紹介を行った。また日本興業(株)は身障者や高齢者に考慮した舗装をフラットにする工法の紹介、民間団体である全国高欄協会からは景観に配慮した協会統一型の標準型橋梁用車両防護柵が紹介された。

素材に関する出展として、積水樹脂(株)はアルミと木製樹脂複合材、YKK AP(株)は光触媒放熱建材を発表し、「大変興味深い」との声が会場から多くあがった。

また、参加企業の立場に立ち、今までより更に充実したモニターメッセを行うため、事業委員会メンバーとしてメーカー企業の人員を迎えたのもこの年である。



2007年は7社の参加を得て、名古屋都市センターにおいて開催された。参加企業については全て都市環境製品メーカーであった。

この年は米国に端を発した問題が世界的な金融市場の混乱に発展し、日本でも金融機関の累計損失が1兆円を超えた年であった。その影響もありメッセ参加企業の応募も決してスムーズとは言えない状況であった。

また、従来のモニターメッセとは別に「ポストモニターメッセとして、参加企業とモニターメッセ関連コアメンバーが集う報告会」を年末に開催した初年度でもあった。

ヨシモトポール(株)が発表した実施事例では、素材の組み合わせやデザイン性について会場からも好評の声が多く寄せられた。三協立山アルミ(株)からは、現場での要求に対応した多くの特徴を持つ「フォルメス」という特注のバス・タクシーシェルターが、日本興業(株)からは、ブロック舗装と芝生舗装を同じ素材にできることにより、

複数の素材が混在せずスッキリみえる「グラセーヌ」が提案された。

また日本街路灯製造(株)は、LED照明器具の製作、施工事例の紹介を通して、外部デザイナーや設計者の要望に応えてきたことを紹介した。

カネソウ(株)からは、コンクリート側溝のセンターから蓋の取り付け位置をずらし、側溝の端部にそって蓋が配置できるU字溝用スリット蓋の紹介がされた。アゴラ造園(株)は他の企業の新製品紹介とは異なり、造園工事で発生する植物系の廃棄物を、造園工事の中で有効に活用し、循環させてゆくというリサイクルシステムの紹介があり、会場の興味を惹いた。

また(株)MARUWA SHOMEIは、居住空間をLEDだけで貫徹することが可能であると、自ら実証したことに対して会場から多くの賞賛の意見が寄せられた。



2008年は、企業7社の参加を得て、千葉大学柏の葉キャンパス・環境健康科学フィールドセンター「シーズホール」において「環境、健康、ロハス、エコ in 柏の葉」と題して開催された。参加企業は、都市環境メーカー7社である。

この年は、リーマンショックが引き金となる世界金融



■(株)MARUWA SHOMEI：LED体験空間

**2006年**

開催日：2006年7月15日  
開催場所：石川県教育会館

参加企業	発表製品等
松下電工(株)	Smart Archi/Archi Front (建築外構用照明) の開発
(株)MARUWA SHOMEI	白色LED照明のアプリケーション
全国高欄協会	新型橋梁用ビーム型防護柵「MODEST」の開発
YKK AP(株)	光触媒放熱建材の開発
日本興業(株)	平板舗装をフラットに保つ新システム
積水樹脂(株)	新素材 木質樹脂アルミ複合材・テンダーウッド
ヨシモトポール(株)	都市環境製品の製作事例について

**2007年**

開催日：2007年7月14日  
開催場所：名古屋都市センター

参加企業	発表製品等
日本街路灯製造(株)	CO <sub>2</sub> 削減に向けたLED照明
日本興業(株)	緊急車輛乗り入れを可能とした緑と舗装を編む新しいデザインペイフメントの提案
カネソウ(株)	敷地境界部に適したU字溝用排水みぞ蓋ボーダースリット
三協立山アルミ(株)	環境・景観に優しいアルミ製「通路シェルター」
ヨシモトポール(株)	景観製品の実施事例
(株)MARUWA SHOMEI	すべての灯りをLEDの灯りに
アゴラ造園(株)	造園技術で豊かな土づくりを目指す、緑のリサイクル

危機が表面化し、都市環境デザインの専門家や産業は今後ますます厳しい状況となることが予想された。一方で「景観法」に続き「歴史まちづくり法」の施行という社会的に大きな動きがあった年でもある。

テーマのひとつであるエコの視点からは、(株)コトブキの再生木材を活用したエコベンチ、公共空間に限らず広くパブリックスペースの景観に調和可能なベンチシリーズ「COZY&COZY」が発表された。

また日本興業(株)は、都市に潤いを与える緑化舗装として、舗石の間の芝生を安定させる「グラススペーサー」や芝生がユニット化されている「グラスユニット」など魅力あるシステムが提案された。

三協立山アルミ(株)からはユニバーサルデザインの視点から歩行者用補助手摺「エトランポU」が、人間工学研究者との共同開発による笠木状の手摺として提案され、同時にシェルター型太陽光発電システムの公共空間への展開が提案された。

その他特徴的な製品として神鋼建材工業(株)の巨大落石エネルギーを捕捉する工法として「高エネルギー吸収型落石防止柵 ハイジュールネット」が紹介され、大規模な面処理をすることなく、落石の危険を取り除けるシ



■(株)コトブキ：再生木材を活用したエコベンチ

**2008年**

開催日：2008年7月19日  
開催場所：千葉大学柏の葉キャンパス「サイズホール」

参加企業	発表製品等
(株)コトブキ	エコベンチと新しいまちづくりへの取り組み
(株)ユニオン	バリアフリー対応型車止め～人にやさしい空間へ
日本興業(株)	都市に潤いを、緑化舗装のご案内
三協立山アルミ(株)	人と環境に優しいモノ作りを目指して
神鋼建材工業(株)	高エネルギー吸収型落下防止柵ハイジュールネットの開発
ヨシモトボール(株)	景観製品の実施事例について
カネソウ(株)	景観とコストを重視したスリット型U字溝用排水みぞ蓋

※リーマンショック

ステムとして注目を集めた。



2009年は韓国企業2社、日本の都市環境メーカー6社の参加を得て、エルパーク仙台ギャラリーホールにおいて「都市環境デザインの展望とそれを支える環境デザイン」と題して開催された。韓国企業の参加は(株)韓国空間環境デザイン会議 (SEDIK) とJUDIとの間で提携協約を締結したことによる。

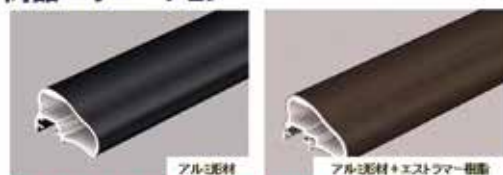
また同年から新しい試みとして会場内で参加企業によるポスターセッションを行い、実際の製品を見て評価するというよりダイレクトな反応が得られる機会がつけられた。

この年は韓国企業を含め舗装製品と都市サイン表示技術の発表が目立った。韓国の(株)INO BLOCKは、ソウル市のソウル・ルネサンス事業を紹介し、舗装を含めた都市環境デザインが景観を向上させる様子を自社製品の事例を含めて発表した。

また同社と技術提携を結んだ日本興業(株)は、バリアフリーペープの更なる歩行性及び施工性の向上に寄与する技術と製品の発表を行なった。

サイン表示技術については、(株)アーテックより

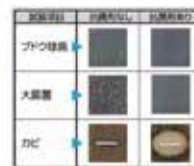
**商品バリエーション**



アルミ笠木とエラストマー笠木の2タイプ

エラストマー樹脂とは・・・

- ①天然木のような温もりのある色調と手触り感を実現
- ②熱くなったり、冷たくなったりしにくい素材
- ③主要部にはある形材を使用し、強度を確保
- ④抗菌処理を施した衛生的な素材



■三協立山アルミ(株)：歩行者用補助手摺

開催日：2009年7月18日  
開催場所：エコパーク仙台

**2009年**

参加企業	発表製品等
(株)アーテック	EBASサインパネルの紹介
カネソウ(株)	スリット型U字溝用排水みぞ蓋の施工例と応用使用例
(株)コトブキ	都市サインと印刷技術
(株)ヌリプラン	親環境木柄防音壁の開発事例について (SEDIK)
日本興業(株)	福祉対応型フラット舗装ブロック
(株)INO BLOCK	変化するソウルの街～もっと美しく、もっと便利な街づくりのために
ヨシモトボール(株)	新しい景観製品を可能にする設計・製作技術
(株)WOOJOO U&B	橋梁デザインの適用について (SEDIK)

「EBASサインパネルの紹介」として厳しい使用環境下での優れた耐久性、耐候性を持つ表面コーティング技術や、(株)コトブキからは、高輝度蓄光サインとして夜間に約60分程度の発光が可能な蓄光印刷技術の発表が行なわれた。



2010年は都市環境デザイン製品メーカー 8 社の参加を得て、芝浦工業大学の豊洲キャンパスにおいて「都市環境を形成する施設のパブリックデザイン」と題し、前年から採用したポスターセッション（3社）と発表形式のプレゼンテーション（5社）に分けて実施された。

数年来の傾向として公共事業の減少傾向は止まらず、都市環境デザイン分野のデザイナー、設計事務所、コンサルタント、及び関連産業を取り巻く状況はますます厳しくなっているが、観光立国や地域再生に向けた施策も少しずつ見られるようになり、景観や風景が国や地域の価値を高めるものとして改めて認識される時代を迎えたとも言える。

こうした状況の中開催されたモニターメッセは、地域の景観資源を活かした新技術による新たな解釈や、地域の伝統産業技術を活かした景観製品の開発などの発表が多かった。



■(株)INO BLOCK：舗装製品

**2010年**

開催日：2010年7月17日  
開催場所：芝浦工業大学豊洲キャンパス

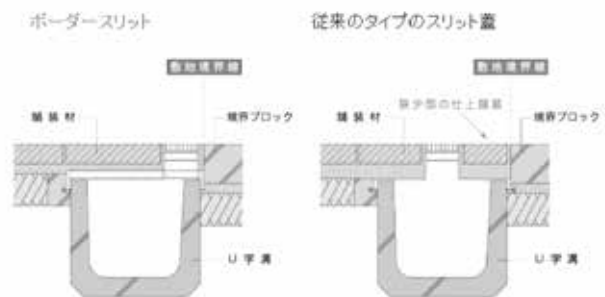
参加企業	発表製品等
三協立山アルミ(株)	アルミシステム建材の開発と適用例
(株)コトブキ	都市景観を演出するアルミ鋳物を屋根材としたシェルターの可能性
ヨシモトポール(株)	街の美観を保つ表面処理技術と製品紹介
宮崎高砂工業(株)	地域の伝統産業技術を活かした環境レンガ開発について
カネソウ(株)	U字溝用スリット蓋のバリエーションと応用使用例
(株)アーテック	ユニバーサルEBサインパネルの紹介と屋外公共空間での納入例 (ポスターセッション)
(株)ユニオン	最小限のディテールで最大限の機能を発揮した防護柵について (ポスターセッション)
(株)MARUWA SHOMEI	環境に配慮したLED照明器具の開発 (ポスターセッション)

カネソウ(株)は、ここ数年U字溝用スリット蓋を発表し、モニターメッセでの意見をもとに改良を重ねてきた製品の発表を行った。きわめて地味な製品であるが、美しい都市環境の形成には欠かせない製品の代表例となった。(株)コトブキは、「都市景観を演出するアルミ鋳物を屋根材とするシェルターの可能性」として、奈良県内のいくつかの駅前広場において、奈良の歴史的景観に配慮し、地域の景観資源である黒瓦を防火性能を満足させながらアルミ鋳物のVプロセス工法で再現する素材の新しい展開の試みを発表した。

また宮崎高砂工業(株)は、「地域の伝統産業技術を活かした環境レンガ開発について」というテーマで発表を行った。地域から排出される廃棄物を有効利用し、国産環境型レンガを焼くことで地域の産業技術の継承と雇用の創出を図るという意欲的な取組みに対して、その地道な技術開発と真摯な姿勢に会場から賛同の意見が多く寄せられた。

**KANESO カネソウU字溝用スリット蓋** 昭和カネソウ株式会社

⑤敷地境界間際に設置可能



■カネソウ(株)：スリット蓋

『国産環境型レンガ』による街づくりの事例

公園 広場 集会場



■宮崎高砂工業(株)：環境型レンガ



#### 4. モニターメッセ新時代（2011年～）

2011年は、3月11日に発生した東日本大震災の影響から、モニターメッセが順延となり、10月8日に日本大学お茶の水キャンパス理工学部1号館において開催された。今回は、創立20周年の節目の年となることから、「都市環境を形成するパブリックデザインの新しい力」をテーマとし、都市環境デザイン製品メーカー11社が、発表形式のプレゼンテーション（6社）とポスターセッション（5社）を行った。

今回はじめての参加は、SD.Hess Lighting(株)と第一建設(株)である。SD.Hess Lighting(株)は、さまざまな採光が可能なドイツのHess社のLED照明を、第一建設(株)は組み立てが容易で災害時の仮設空間として利用可能なQS72を実物出展し、大きな注目を集めた。

ヨシモトポール(株)も災害時支援照明柱を出展しており、東日本大震災の影響が出展製品にも大きな影響を与えたモニターメッセとなった。



■第一建設(株)：QS72の実物展示



1992年のプレモニターメッセから20年あまり続けてきた都市環境デザイン・モニターメッセは、都市環境デザイン会議とメーカーとの協力体制のもとにそれぞれの時代の要請に応える250以上もの製品や技術を世の中に送り出してきた。

都市環境デザイン会議20周年は、「しあわせな風景×デザインJAPAN」がテーマであったが、折りしもその年に東日本大震災に遭遇した。新しい日本の都市像を構築することがこれから求められる中、都市環境デザイン・モニターメッセにもまた新たな活動テーマが加わったといえる。

これまでの20年を踏まえた、より広範な協力体制のもとに、新たなモニターメッセの展開を図りたい。

#### 2011年

開催日：2011年10月8日  
開催場所：日本大学お茶の水キャンパス理工学部1号館

参加企業	発表製品等
ヨシモトポール(株)	災害時支援照明柱と公共製品における地場産材の活用
SD.Hess Lighting(株)	屋外LED照明について
第一建設(株)	緊急災害用快速仮設空間QS72について
(株)住軽日軽エンジニアリング	環境・景観・災害に配慮した「SNEスマートシェルター」について
三協立山アルミ(株)	新型バスシェルターの開発について
(株)コトブキ	豊かな自然景観をわかりやすく伝える立体地図サイン
伊藤鉄工(株)	ソーラーLEDフットライト：TACO-6 (ポスターセッション)
丸一銅管(株)	安全・環境配慮型開口部と新しいデザインテーパーポールの御提案 (ポスターセッション)
日本鑄造(株)	歴史を伝承し未来を創造する景観製品を提供する (ポスターセッション)
(株)アーテック	EB/ルミネサインパネルの紹介 (ポスターセッション)
昭和鉄工(株)	開放性とスタイリングを追求した防護柵の開発 (ポスターセッション)

※東日本大震災

## 事業委員会・歴代委員名簿

(敬称略・順不同)

### ●1991年度 (01期)

担当代表幹事：西沢健  
委員長：南條道昌  
委員：佐々木政雄、曾根幸一、長島孝一、松谷春敏、面出薫

### ●1992年度 (02期)

担当代表幹事：南條道昌  
委員長：西沢健  
委員：佐々木政雄、曾根幸一、長島孝一、松谷春敏、面出薫

### ●1993年度 (03期)

担当代表幹事：南條道昌  
委員長：西沢健、副委員長：吉田博  
委員：江川直樹、岡村勝司、佐々木政雄、長谷高史、松谷春敏

### ●1994年度 (04期)

担当代表幹事：南條道昌  
委員長：西沢健、副委員長：吉田博  
委員：江川直樹、岡村勝司、佐々木政雄、中野恒明、長谷高史、藤井経三郎、松井雅彦、松谷春敏

### ●1995年度 (05期)

担当代表幹事：南條道昌  
委員長：西沢健、副委員長：吉田博  
委員：岡村勝司、佐々木政雄、土橋正彦、中野恒明、長谷高史、藤井経三郎、松井雅彦、松谷春敏

### ●1996年度 (06期)

担当代表幹事：西沢健  
委員長：南條道昌、副委員長：中野恒明  
委員：井上正良、江川直樹、佐々木政雄、長谷高史、藤井経三郎、松井雅彦、松谷春敏

### ●1997年度 (07期)

担当代表幹事：西沢健  
委員長：南條道昌、副委員長：中野恒明  
委員：井上正良、江川直樹、佐々木政雄、長谷高史、藤井経三郎、松井雅彦、松谷春敏

### ●1998年度 (08期)

担当代表幹事：井口勝文  
委員長：中野恒明  
委員：井上正良、江川直樹、佐々木政雄、南條道昌、西沢健、長谷高史、藤井経三郎、松井雅彦、松谷春敏

### ●1999年度 (09期)

担当代表幹事：井口勝文  
委員長：中野恒明  
委員：井上正良、江川直樹、佐々木政雄、南條道昌、西沢健、長谷高史、藤井経三郎、松谷春敏、松井雅彦

### ●2000年度 (10期)

担当代表幹事：江川直樹  
委員長：中野恒明  
委員：井上正良、井口勝文、加藤源、佐々木政雄、土橋正彦、南條道昌、西沢健、藤井経三郎

### ●2001年度 (11期)

担当代表幹事：江川直樹  
委員長：中野恒明  
委員：井上正良、井口勝文、加藤源、佐々木政雄、土橋正彦、南條道昌、西沢健、藤井経三郎

### ●2002年度 (12期)

担当代表幹事：江川直樹  
委員長：中野恒明  
委員：井上正良、井口勝文、加藤源、土橋正彦、南條道昌、西沢健、藤井経三郎

### ●2003年度 (13期)

担当代表幹事：江川直樹  
委員長：中野恒明  
委員：井上正良、井口勝文、加藤源、佐々木政雄、土橋正彦、南條道昌、西沢健、藤井経三郎

### ●2004年度 (14期)

担当代表幹事：長谷川弘直  
委員長：中野恒明、副委員長：伊藤登  
委員：井上正良、井口勝文、江川直樹、加藤源、佐々木政雄、田中一雄、土橋正彦、南條道昌、藤井経三郎

### ●2005年度 (15期)

担当代表幹事：長谷川弘直  
委員長：伊藤登  
委員：田中一雄、三輪強

### ●2006年度 (16期)

担当代表幹事：大矢京子  
委員長：伊藤登  
委員：田中一雄、三輪強

### ●2007年度 (17期)

担当代表幹事：大矢京子  
委員長：伊藤登  
委員：田中一雄、三輪強

### ●2008年度 (18期)

担当代表幹事：須永侑子  
委員長：伊藤登  
委員：田中一雄、三輪強

### ●2009年度 (19期)

担当代表幹事：須永侑子  
委員長：横川昇二  
委員：伊藤登、須田武憲、茂手木功、三輪強

### ●2010年度 (20期)

担当代表幹事：中野恒明  
委員長：横川昇二  
委員：伊藤登、須田武憲、谷口雅彦、茂手木功、三輪強

### ●2011年度 (21期)

担当代表幹事：中野恒明  
委員長：横川昇二  
委員：伊藤登、工藤強、栗原裕、小早谷信之、須田武憲、谷口雅彦、茂手木功、三輪強

# モニターメッセ 2011

都市環境を形成するパブリックデザインの新しい力 in 東京

■ 基調講演 『ストリートファニチャーからパブリックデザインへの歩み』

■ シンポジウム テーマ 『パブリックデザインの今後の展望』

■ モニターメッセ



JAPAN URBAN DESIGN INSTITUTE

2011年10月8日(土)

日本大学 お茶の水キャンパス 理工学部1号館

## ■ 基調講演 『ストリートファニチャーからパブリックデザインへの歩み』

(株)GKデザイン機構 代表取締役社長 田中 一雄 氏

日 時：2011年10月8日(土) 10:30~12:00

会 場：日本大学理工学部1号館・2階大会議室

皆様、お久しぶりですと言いたい感じがしますが、ただいまご紹介いただいたように、私はGK設計の社長を4年前までしておりまして、その後GKデザイン機構というGKデザイングループの本社機能を担うところに放り込まれまして、都市環境デザイナーの筆は折ったのかと随分まわりからは言われました。

もともとGKはインダストリアルデザインをベースにしておりますが、今では私の仕事の領域もインダストリアルデザインがメインになっておりまして、仕事柄海外に出掛ける事も多いのですが、ちょっと面白いストリートファニチャーを見つけても、昔だったらゴミ箱のフタ開けて、中籠までこう、えぐるように写真を撮っていたんですが、いまでは遠くから昔の恋人を眺めるような気分で写真撮ろうかどうしようかみたいなそんな気分で過ごしていたところです。

そんなところに横川先生からちょっとストリートファニチャーについてしゃべれと言われてまして、並みいる諸先輩、先生方の前で基調講演などおこがましいのですが、今日はまさに横川さんにお話いただいたように西沢健の代わりというような気持ちでストリートファニチャーとは何であったのかということをもう一度考えて、これから何をしていたらよいかのヒントになればと思ってお話をさせていただきます。



さて、すべてはここから始まったとも思えるのですが、これは、1983年に発行された西沢健の「ストリートファニチャー」です(写真01)。

まさにストリートファニチャーという言葉が位置づけられたのはここからという気がいたします。この本の編集過程において、私はまだ学生だったわけですが、学部生、院生時代を通じてお手伝いをしていまして、この中で使われている写真も三割くらいは私の撮った写真を使っていただきました。こうした中でストリートファニチャーとの関わりが始まっていたということです。



最初いきなり懐かしい写真ですが、1987年のパブリックデザインフランクフルトです。

西沢さんが50歳ぐらい、後ろでヒゲはやして変なメガネかけているのが私ですが、これはいろんな意味できっかけとなったメッセフランクフルトでのパブリックデザイン展、その時にツアーで行った時の写真です(写真02)。





実は我々は筑波万博のファニチャーの模型をブースに展示として出したんですけれども、当時あこがれであったフランスのデュコー社のブースを訪ねて資料がほしいと言ったら、「おまえたち日本人はものまねをするからやらない」と言われたんですね。いやそうではない、僕はデザイナーであって、ここに出展しているから見に来てくれと言ってそしたら後でやってきて、フーンと言って見て、ピラッとチラシ一枚投げて行ったのがデュコーだったんですね。それから20年ぐらいて我々はデュコーの仕事をするようになります。

そうした大きな縁というか、西沢さん自身もヨーロッパのストリートファニチャーのクオリティを日本に持ってきてきたいという思いをずっと持っていました。それがGKの活動につながっていたと思っています。



今日はストリートファニチャーの源流というところをさっと振り返って、GKは何をつくってきたのか、そのあと世界のストリートファニチャーというものがどう変わってきたのかということも少し触れてみたいと思います。そして今この時に何を考えるかということのながしかのヒントになるかどうかわかりませんが、お話ししたいと思います。



## ストリートファニチャーとは

原点としてストリートファニチャーというものは、噴水だとか、モニュメントだとか、公衆トイレ、横断歩道もローマ時代にあったんですね。ただGKあるいはインダストリアルデザインの立場としては、ストリートファニチャーはそこに置かれるものであって、根っこの生えているものストリートファニチャーにあらずって言って、こう持ってきてポンと置くのがストリートファニチャーだって昔は定義づけられていました。今はそんなこと言ってませんけど。そういう中で言うと、これはヨーロッパの中世のさらし首台でありまして、これが初のストリートファニチャーではないかと私は思っている訳です。

いろいろな意味で現代ストリートファニチャーの原点はパリ万博です。パリ万博というのは1855年から5年に渡って開かれていますけれども、この絵は実は男性用トイレです(図01)。

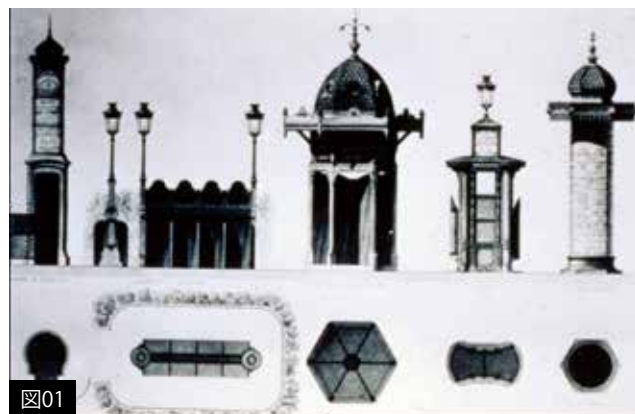


図01

万博というのは国の権威を表すものですが、フランスというのはまさに中央集権の国ですが、国家の権威を見せるために万博というものを通して、最先端の技術と最先端のサービスを最先端の造形で見せたということだったと思います。このギマールの地下鉄の入口、1900年ですけれども、これもアールヌーボーの傑作ですね。国の権威を象徴するものとして扱われてきたんですけれども、いまでもパリ、フランスの風景を象徴するものになっています。

街路灯というものもガス灯から始まる訳ですが、頂部に王冠が載っているんですが(写真03)、これは都市の管理装置であったと解釈されています(写真04)。今でいえばジョージ・オーウェルの小説でもありますが、監視カメラの役割ですね、パリは闇につつまれていたところに街路灯が付けられたことによって夜盗が闊歩できなくなったということが言われています。そういう意味で街路灯打ち壊し運動なるものがあつたというものが歴史上残っています。



写真03

写真04

オスマンがやったパリの都市計画は都市管理のためにあるというのは皆さんよくご存知かと思いますが、丘の上に砲台を据えて、それを中心に放射状の道路を造れば簡単に都市を制圧できると。今、美しいと言われている

パリのあの風景というものは、都市管理から生まれてきたのはなかなか皮肉なものだと思います。

もう一つ都市管理ということであればトイレというものがあります。パリでは通りに窓から糞尿を投げ捨てていたという話は有名ですが、まあ臭くてペストが大流行した不衛生な街だったわけです。それで街頭にトイレが造られて（写真05）、これエスカルゴという名前なんです。ぐるっとした格好していますが、これも男性用ですね。女性はどうしていたのでしょうか。



写真05

この絵はオットー・ワグナーのものですが、西沢さんの本の中にも使われています（図02）。

建築と街路灯、橋などの都市のエレメントというものが同じレベルで描かれている、調和的に造られている、こういう風景を創り出したいという思いがあったと思います。

今これが達成できているかという、さあどうでしょうか、やはりまだまだやりきれていない部分もあるという思いもいたします。



図02



## モダンデザインとストリートファニチャー

さて、そうした原点的な部分を経てイギリスに飛びますが、1950年代からモダンデザインの活動というものが

都市デザインの中につながっていきます。その活動の中からヒューマンスケールの都市づくりという考え方がでてきました。人のための空間という視点からのまちづくりという動きの台頭です。そこで使われる言語はモダンデザインの言語、モダンデザインというのはもともと民主化、バウハウスの活動から始まっている訳ですが、権力の象徴としてのデザインではない、こうしたスタンダードなデザインが展開されていきます。

これはイギリスのミルトンケインズの1970年の「新しい街路のためのデザイン」というコンペでの入賞作品です（図03）。



図03

これをベースにミルトンケインズの街路がつくられていくんですが、これは全くのシステムの指向で、スクエアな2m×3mのモジュールを持ったユニットで構成されていて、ファンクションと地域によって色彩が変えられるという提案がされていました。実際の設置にあたってはこうした色を使うとうるさくなるので、落ち着いた色になるわけですが、まさにモダンデザインが形成されてそこにつくられていった、という経緯があります。

その後やわらかい形も入ってきますが、街全体がファニチャーで整えられるという都市がつけられていく訳です（写真06）。

それからコトブキさんも今日いらっしゃいますが、ベ



写真06



ンチのお話です。これはミュンヘンオリンピックですが、万博とかオリンピックというものは都市を変革していくひとつの契機になります。これはミュンヘンでオリンピックが開かれた時に開発されたオリンピアというシリーズですが、メッシュのベンチの原点です（写真07）。

スチールのフレームに対してメッシュを同時に一体的に溶接する装置を開発し、システム化してユニットを組み合わせる事によって、様々な形態ができるというものをつくった最初のアアラウという会社の商品です。単純にコアになる構造体があって、座面と背を組み合わせて付けていくというシステムになっています。現在でもこのシステムのベンチは多くつくられています。



写真07

これはパリのデュファンスの広場部分の計画断面図です（図04）。

ここは人工地盤ですが、真意はアクセスフロアと同じ構造で下に配管を通すということと同時に、水勾配のない全くフラットな平面をつくりたかったがためにこういうシステムを採用したということです。

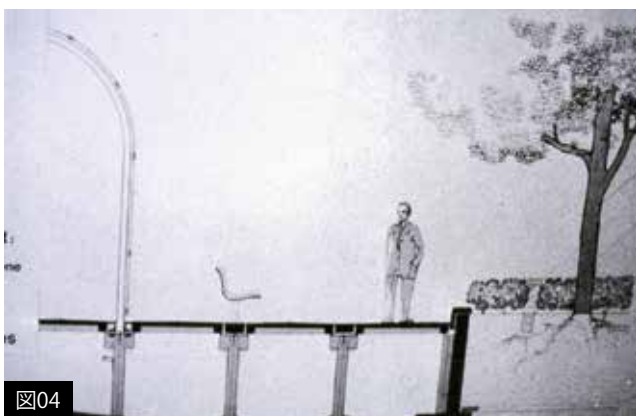


図04

このステーのところにジョイントがあってベンチとかシェルターとかが付いてくるという、全くインダストリアルな手法ですね。今、六本木の森ミュージアムでメタボリズム展が開かれていますけれども、そのなかでもG

Kがとってきたアプローチというものと重なるものがあります。まさにそうした工業化というものが都市をつくるプロセスだったと思います。

これは30数年前だと思いますが建設中に僕が撮った写真です（写真08）。ディファンスの広場の現場の脇で型枠でコンクリート打ってるんですね。これでアクセスフロアの基盤部を打っている、手作りですけど工業化手法、これアクセスフロアの構造がよく分りますよね。その上にプレートのジョイント部分に足を付けてベンチとかいろんなファニチャーが取り付けられる構造になっています。



写真08

これはシェルターですが、同様にジョイントを利用して立っている。3次元で面を張って展開しているのが非常にうつくしいと思って、僕がこの写真（写真09）を撮ったのが大学の2年生のときでした。これで私はしびれちゃったんですね。で、人生間違えたのか知りませんが、旅人にいいなと思わせるものをデザインしてみたいと思って、学生時代からストリートファニチャーのことを、まあ横川先生にも聞いていましたけれども、ストリートファニチャーやってるデザイン会社なんてあるんですかねって聞いたりしてました。

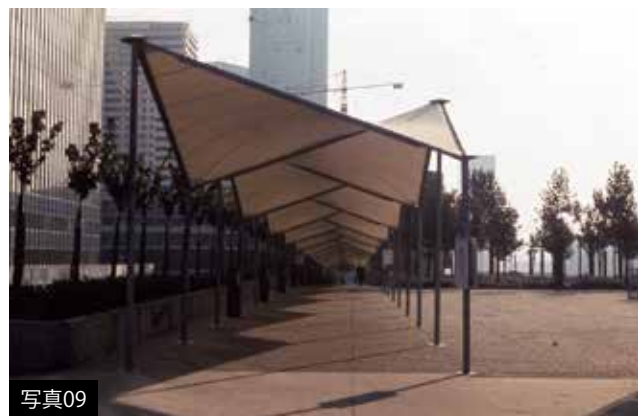


写真09

そうこうしているうちに西沢健さんが大学の授業に来てだまされて、私は人生を踏み外したということになる

んですけども、まあその結果、やがてベルリンでバスストップのデザインをすることになるとは当時は夢にも思わずということでございます。



これは1967年モントリオール万博です（写真10）。万博というのは都市デザインのきっかけとなるものですが、これも本当に工業化の手法がとられています。この部分三角形に見えますけれども、三角形のベースを展開することによって、いろいろなファニチャーが自由に置かれています。ユニットとしてシステム展開することによって必要な機能を満たす事によって場がつけられると。



写真10

この造形なんか正にレトロフューチャーそのもののような感じですけども、かっこいい！とみんな喜びましたでしょうね。アクリルドームが未来を感じさせていたのではないかと思います（写真11）。この辺の風景は大阪万博の会場計画なんかにも非常に影響を与えています。こうした案内所のユニット、公衆電話にユニットに全部三角形のベースがあるんですね。ほんとにこれでもくもっているなという感じです。



写真11



## ヒューマンスケールのストリートファニチャー

こうしたインダストリアル的な手法からのアプローチの一方で、歩行者の視点からのアプローチというものも生まれてきたんです。ある意味上位概念である都市計画から街をつくるんじゃなくて、人の目線から街をつくるというところから、さまざまな街の要素をつくって行くということが始まっています。

この視点ではずしてならないのはニコレットモールですね。1967年に竣工しているんですけども、歩行者空間の巨匠ローレンス・ハルプリンのデザインによるものです（写真12）。



写真12

この空中歩廊をトランジットモールの組み合わせによる歩行者空間の原点です。ここの造形というものはインダストリアルデザインの手法ということではなくて、地域やエリアによっても変えられています。



それからもう一つ、我々のクライアントでもあるんですが、フランスのデュコー、J.C.デュコーですね、単独のストリートファニチャーカンパニーとしては世界最大の企業です。ここがなにをやったかという、創始者であるジャン・クロード・デュコーという人、まだご健在ですけども、もともとはパリの町の広告貼りだったんです。ベスパの後ろに広告をくくりつけて、ブラシでこう糊をつけて、貼り替えをやった人なんです。そんなことやってちゃかなわねえということで1964年に、バスストップに広告を付けるというシステムを考えて、リヨンだったと思いますが、強引に市役所の前に設置して市長を説得してこのシステムを導入させたということです。日本では最近まで屋外広告物法の規制があって設置できなかったんですけども、ヨーロッパでも当時は同じで、駄目だったんです。それを既成事実的につくっ



ていって、世界に広めたと。

これはオリジナルバージョンで電話ボックスがついているものですが、デュコーは非常にクオリティの高いものをつくりました（写真13）。



写真13

ただ、一方でパリでもロンドンでも同じものをヨーロッパ中に設置するというをやっちゃたんですね。そうすることによって地域性が破壊されているんじゃないかという批判が出て、その後やり方を変えていきます。地域に合わせたデザインということをするようになり、その土地、土地でトップのデザイナーを使ってデザインをしていくと。実際、ノーマン・フォスターとかポルシェとかいろんなデザイナーが関わって、一時期非常にハイクオリティになっていくわけですが、息子のジャン・シャルルの代になって、世界経済情勢もあります、かなり緊縮経営になりました。これはその一時期かなり普及した、Rの屋根をもっていて始めはガラスでしたがのちポリカーボネートになっていますが、アルミのキャストの4本アームで屋根を支えるというシステムですね、これがかなり世界に普及していくことになります（写真14）。



写真14

これは最近のもので、地域性ということサンフランシスコに合うようにということこういうちょっと様式的なデザインで地域に合わせるといことをやっていく

わけですが、これをまたほかの所へ持って行って使い回す訳です。日本で展開した時も横浜市で中田市長の時にはじめて設置したんですが、そこで開発したものをベースに全国展開しているわけですが、いまだに横浜市ベースから抜け出せずにいると言う気はします。



## GKは何をつくってきたか

さて、やっとGKの話です。GKは何をつくってきたか、もう一度原点返りをいたします。Every thing Through Industrial design、GKがずっと標榜してきたことです。何でもインダストリアルデザイン、天野先生には呑んだ席でよく怒られましたけれども、いつになったらパブリックデザインになるんだと。後でお話ししましょうね。



GKというのはグループオブ小池、芸大の小池岩太郎先生の研究室の学生4人のグループが始まりです。大学の研究室で当時1952年に、東京駅の駅前広場計画のコンペをやりました（写真15）。当時からこういう環境というものに対して縁を持っていたんです。ここにいるのが現チェアマンの栄久庵憲司です。両側に半地下広場を持って地下に降りて行くっていう構造は今の新宿西口広場と同じアイデアですね、これが影響したのかどうかは分かりませんが。



写真15

これは、ご年配の方は憶えていらっしゃるでしょう、私もドアハンドルがゴムだったというのは子供の頃の感触として残っていますけれども、丹頂鶴というニックネームで親しまれた電電公社時代の公衆電話ボックスです（写真16）。これをG Kはコンペで取ったんです。創成期はコンペで勝ち続けるということが、G Kをつくってきたともいえるでしょう。



写真16

これは丹下健三先生と一緒に、西沢さんもこのプロジェクトに関わっていましたが、メッカのインスタントシティというプロジェクトです。メッカというのは年に一回、三週間だけ200万から300万人の巡礼の人が集まって仮設都市が形成されます。それを装置としてつくろうという計画です。アブラハムの谷の山裾に収納装置群があって、これが巡礼の時だけに出てきて仮設都市が生まれるという計画です。ここで可動式のファニチャー、全部トレーラーで作るんですけれども、ユニッ

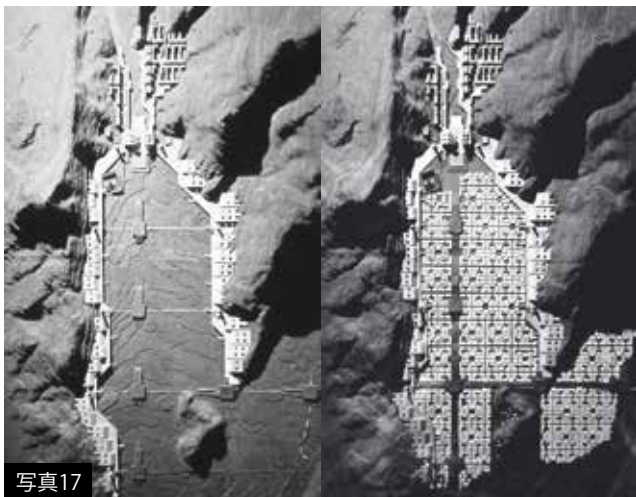


写真17

トを置いて仮設空間が生まれる。ちょっと震災の後の仮設住宅のようでもあります、そういう要素を当時から持っていた訳ですね。これは実施に向けて計画されました（写真17）。西沢さんもこの模型を持ってサウジアラビアまで飛んで行ったんですけれども、ファイサル国王が暗殺されて、残念ながらこのプロジェクトは無くなったという結末です。

これは装置広場というのですが、G Kはよく装置という言葉をつかってきました。これはやはりインダストリーの手法によって場をつくっていくということですね。交通結節点を人工地盤化し、ストリートファニチャーによって空間を構成していくという考え方の場所です（写真18）。

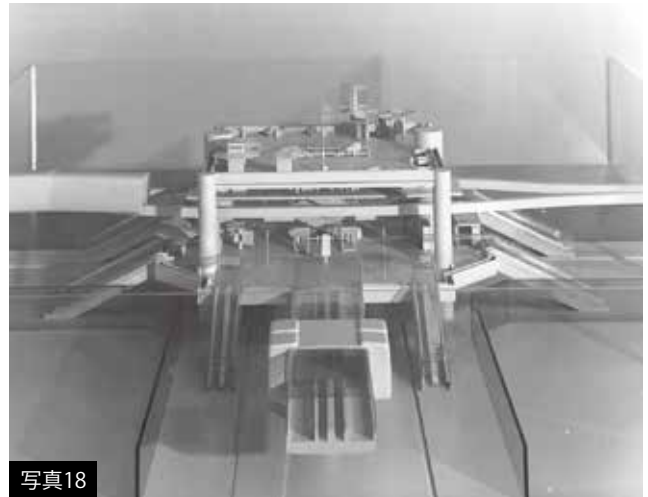


写真18

そうした考えをある程度具現化していったのが1970年の大阪万博です。6700万人の入場者を迎えた史上最大の万博でした。この時に初めてストリートファニチャーというものが位置づけられるわけです。当時はサイトファニチャーという言い方をしていました。G Kだけではなく、ベンチなどは剣持デザインさんがデザインされて、後にコトブキさんのユニットベンチの原型となるものです。このとき目指したのは群造形、さきほど申



写真19



し上げたようにストリートファニチャーというのは小さな要素、それが集まってくることによって全体感が出来てくる。

それが街中に点在することによって街の個性をつくって行くというぐらいの強さを持っているものです（写真19）。

これは電話ボックス（写真20）、非常にシャープなデザインだと思いますが、フランスの電話ボックスに何か影響を与えたのではないかとさえ思いますが、今見ても新しい形です。ダイヤル式の公衆電話が付いているのは時代を感じさせますけれども。



写真20

それからスピーカーとか、照明とか、あるいはサインですね、このときグラフィック、ピクトは福田繁雄さんがデザインされています。この迷子センターの子供が泣いているピクトは福田さんの代表作でもあります。



これは茨城県の鹿島神宮参道とって1971年に設計しています。当時の模型（写真21）ですが考え方はデュファンスと同じようなことをやろうとしています。量産されたユニットを持ってきて並べて行く事によって



写真21

道路ができるというシステムをつくらうとしました。

実際には現場打ちになったのですが、形としてはそういうモデルケースをつくったということです。

GKのやってきたことの中には、これから進むべき方向のモデルを提示するんだという思いでやってきたんだろうということが感じられます。明快なコンセプトとしてつくったということだと思います。こういう工業製品としてつくられたものを持ってきて置くんだという考え方を強烈に表現した道路計画でした。

それからやはりモダンデザインということがベースにあって、GKのデザインは地域性を考えていないということをよく言われました。これミルトンケインズの影響を受けている事は明らかです。これは現在のUR（都市再生機構）、当時の住宅公団のサインの基本形になっています（写真22）。



写真22

プロポーションが若干変わっていますが、この黒ベースで四角いユニットがつながるという形は標準になっていますが、ひとつの原点をつくったということです。

ストリートファニチャーというものは、それ自体目立つべきものではなくて、楚々として機能的に役割を果たして長持ちすればよいというのが基本的なあり方です。既製品というのがなんか余計な化粧をしているものが多く、素直なものでいいじゃないということで、オリジナルをつくっていった時代です。



これはオカムラさんのベンチです（写真23）。この製品が出た頃、ちょうど池袋のサンシャイン60が竣工した少し前ですが、非常にスタンダードなデザインだと思います。このころ、GKのデザインするものはかっこいいけど、どこにも合わないよねというようなことを言われ始めたんですが、GKも悩んで地域性をどうつくるかを考えるようになったんですね。でも既製品というも



写真23

のは、こういうシンプルでクリーンなのもでよいのではないかと私は思っています。

ヨシモトポールさん、今日見えています、いつもGK設計がお世話になっております。ヨシモト集合ポールという集合柱のデザインを私が室長時代にやらせていただきました(写真24)。もう20年以上前になりますね。ご承知のように道路というのは電力、通信、警察、自治体、いろんな管理主体が別々の柱をそれぞれ建ててグシャグシャの状態になっている。それを全部統合的なシステムで整理をしていこうということで、組み合わせて一体化していこうという製品です。それまでも物件対



写真24

応ではいくつか見られましたが、既製品としてこういうものはまだなかったんですね。で、デザインのバリエーションというものがあるのが既製品で、モダンなストレート、スクエア、ブラックの世界から、フレームになり、スケルトンになりという、モダンデザインの流れを押さえています。これは西沢さんが好きだったものですが、コンテンポラリークラシックと名付けましたけれども、当時ヨーロッパのストリートファニチャーの、様式的なデザインを今日化しながら、クラシックなイメージをどこかに残すという手法を参照して4種類のバリエーションをつくって行きました。

時代は流れて1985年の筑波科学技術博覧会です。ストリートファニチャーのモダンデザインからどんどん形そのものが消えて無くなっていく、科学技術がテーマなのでトラス構造にテーマ性を見出して軽快なデザインによる情報の表現をするという言い方をしております。多柱式スケルトン構造の柱(写真25)は当時他には無くて、ここで発表したものが、その後世界に影響をあたえていったと私は思っています。

この軽い構造の反射式の照明灯というものはそれまで無かった。図面を引いてこの細い柱、60.5φのパイプで柱が建ったときには、思わず握りしめましたよ、できた!とって。それほどうれしかったのを憶えています。



写真25



この模型を1987年のフランクフルトメッセへ持って行きますが、そこで日本にはバンダリズムはないかと質問されましたね。それまでこれが日本のというイメージは無かったんですが、フランクフルトに置くとすごく日本的に感じられました。なんかお箸みたい、非常に軽いんですね。ヨーロッパの連中は、肉食って鋳物でゴリとしたデザインをしますが、こういう軽々しい、私自身も軽々しいんですが、こうした構造は非常に日本的だなと改めて思いました。

それと我々がやってきた中でパブリックスタンダード、標準品をつくるというのがあります。昔、三公社五現業なんて言葉がありましたけれども、お国のデザインをするということで、ポストです。ポストの開発は基礎調査を含めて7年間に渡って続けました。

郵政省が明治以来全国全部のポストと見直すのは初めてのことで、提案したことは、全てをシステム化することと、色に関して道路に対して横向いて立っていますから、正面は落ち着いた色、側面はポストの色として親しまれてきた赤、また郵政省は張り紙をベタベタ貼りますので、そのスペースを予め設けるという意味を含めてシルバーのパネルを提案していました（写真26）。

最終的に現在街に立っているポストですが、形は提案時と全く同じです。何が違うかという色です。アンケートをしちゃったんですね。すると当然ポストは赤ということになっちゃうわけですね。その他改良点としてはA4サイズの封筒がそのまま投入できるようになったり、車道側から直接投入できるなんていうのも当初提案しましたね。



写真26

これは横浜市さんとの取り組み、ご存知都市デザイン室の国吉さんとずっとやってきたものなんですが、横浜市の各部局をつないで、基本的な街路要素をスタンダード化しようというもので、言ってみればへんなカッコつくらないで、モジュールと色を揃えていこうよというこ

とです（写真27）。横浜いろんな都市の開発事業やっていますが、基盤のボトムアップということでストリートファニチャーのクオリティを上げるということをしたのです。



写真27

ベースを揃えるというこの方法はストリートファニチャーのひとつのあり方だと思います。風景の地になるもの、もちろん図をつくるというのも場合によっては必要だと思いますが、それはよほど気をつけてまわりとの関係を考えてデザインしなくてはならないだろう。地に徹しながらもクオリティの高いものをつくっていく、風景のベールをつくっていく、こういうやり方も重要だということです。

このことがデューコーの広告付きバス停の日本で最初の本格展開につながっていくわけです。



## あぶないストリートファニチャー

ちょっと疲れたんで息抜きに、私、あぶないストリートファニチャーというのも趣味で集めているんです。これ、最高傑作で大好きなので是非見せたいんです。新潟県の親不知、親不知子不知の電話ボックスです（写真28）。電話しよって歩くだけでも大変。



写真28

以前中野先生、京都の中川理先生なんかと座談会しましたけれども、都市のディズニールンダイゼーション、街がディズニールン化するなんてテーマで。ただ、こういうことが必ずしも悪いわけではなくて、これNYのPIRE72（写真29）ですけれども、地域オブジェが機能要素の上にトッピングされているという意味ではおんなじなんですけど、使い方とデザインのクオリティでぜんぜん違うものが出来てくるということです。脱線しました。



写真29



### これからのパブリックデザイン

残り10分になってしまったので、結論めいたまとめにはいりませんが、所有から共有へというのがキーワードになっている時代だと思います。そうした時に街をどう使うかということを考えて行かなければならない、結局街は人が主人公だということは間違いありません。そういう意味でカフェをつくり、歩きやすい道をつくっていくというのは基本だろうと思います。今日は歴史的なお話もしましたが、その後世界はどう変わっていったかといいますと、ひとつはヨーロッパにおいて、中心市街地の再整備をしていくなかで、駐車場の不足に伴い、中心広場部に地下駐車場をつくり、路面電車を通し、歩行者空間を整備しといったことがずっと行なわれ続けています。それに伴って、都市デザイン、ストリートファニチャーに非常にクオリティの高いものがたくさんつくられてきています。



これはシャンゼリゼですけれども、右が事業後、左が事業前です。側道部分をつぶして地下駐車場入口をつくったり、歩道の拡幅をしたり、ずっと整備がされています。これはビルモットのデザインによる街路灯（写真

30）。フランスはデザインのクオリティは非常に高いと思います。



写真30

これはハノーバーですが、パブリックアートで有名な街なので、ちょっと特例だと思いますが、これはアレックスサンドロ・メンディーニのデザイン（写真31）ですが、ミルト・サンファルグで有名なモダンアートの街ですからそういう文脈でとらえられますが、どこでもこれやっていいというものでもないですね。これフランク・ゲーリーのバスストップです。



写真31

でもうっかりすると、これとなりが違うんだと言い出す人がいて、これ、みなさんご存知の印南町のかえる橋ですが（写真32）、印南町さんごめんなさい。みなさんはこの違いはお分かりだと思いますが、コンテクストとクオリティというものが全然ちがう。



写真32

これはライブチヒです。非常に美しいですが、東ドイツの開放が始まった最初の集会が行なわれたところで。ここも地下駐車場がつくられていて、路面電車の駅



があります。ガラスの明かりとりが夜はライトボックス  
になっていて、換気と照明を兼ねています（写真  
33）。



写真33

それからやはりベーシックなクオリティということ  
を言っておきたいのですが、これはヨーロッパの鉄道会社  
で使われているベンチです（写真34）。イタリアのテ  
クノ社によるものですが、アルミのキャストです。多分  
単価は相当に高いと思いますが、ロングライフといえ  
ばかなりロングライフで使い続けることができますよね。  
リサイクルで再生できますし、こういうモノをつくって  
いくということをしないと、依然として日本の都市景観  
は貧しいままだろうと私は思います。



写真34

これはスイスのベルンの路面電車の駅ですが、非常  
に大きなガラスシェルター（写真35）。こうしたものも  
まだ日本ではつくることはできていないと感じています。



写真35

これはフランクフルトの中央通りですが、さすがに  
50年も経ちますとストリートファニチャーは壊れた  
り、朽ちたりということが現実になってきますが、しか  
しこれは昔の舗装パターンを全くそのまま作り直して  
いるんです（写真36）。ストリートファニチャーは新  
しく試作して並べたりして検討していますが、街の人が  
これを大事にしているんですよね。エレメントとして小  
さいけれども都市の記憶として残ると。市民の心のなか  
に残っていくものを大事にしながらクオリティを上げて  
いくところが、ヨーロッパはまだまだ学ぶところ  
があると思うんですね。



写真36



### これから何をしていくべきか

3.11東日本大震災というのは、本当に価値観とい  
うものが根底から覆されたと感じています。我々はこれ  
から何ができるか。真剣に向き合っていかななくてはな  
らないと思っています。

阪神淡路大震災のあとに防災ベンチっていうのをデ  
ザインしました。かまど一式ベンチに組み込む、ダイレ  
クトなアイデアかもしれませんが、こういうアプローチ  
もあるかもしれません。



それから今日は前のロビーにQS72の実物が置いてありますけれども、YKKさん、第一建設さんと仮設空間というものをつくってききましたが、これは空気膜とファスナーをつかった仮設空間。非常に気密性が高く、砂漠でもこのなかで手術ができるという、国境なき医師団なんかでも使われていますけれども、BOPのためのデザイン、社会のためのデザインをもう一度考え直さなければいけないと思っています。



QS72ですけれども、クイックスペース72h、災害発生から72時間という時点でその後の生存率を大きく左右するというので、数十分で簡単な工具だけで組み上げる事のできる仮設空間です（写真37）。石巻では日赤の仮設ブースやボランティアセンターに実際に使われていましたが、こうした取り組みもこれからますます

重要になっていくと思っています。

デザインというものは機能をつくることは当然ですが、それをもって経済価値をつくっていく、そして社会的な価値につなげていくというのはパブリックデザインにおいては当然の話ですけれども、さらに文化的価値を持つものであり、デザインとは価値創造産業であるとなつねづね言っていますけれども、今、社会的価値を経済的価値につなげていく、あるいは文化的な価値につなげていくということをもう一度思い返さなくてはならないと感じています。

西沢健さんはドイツのウルム工科大学に学び、ドイツの感性をもって日本を変えていこうとして、1983年にストリートファニチャーを出版し、2003年に亡くなっています。その間20年です。亡くなって8年くらい経つんですけども、西沢さんが今いたら「お前、何やってんだ」と怒られるだろうと思いますが、今回の大震災を越えていくなかで、新しい社会をつくっていくということを、もう一度原点に帰って考えて直していきたいと思っています。



すみません、早口で盛りだくさん過ぎて申し訳なかったんですが、これを持ちまして私のお話を終わりにさせていただきます。

## 講演者プロフィール



GKデザイン機構 代表取締役社長

田中 一雄 (たなか かずお)

1956 (昭和31) 年 生まれ

1983 (昭和58) 年 東京藝術大学大学院美術研究科デザイン専攻修士課程修了

1983 (昭和58) 年 株式会社GKインダストリアルデザイン研究所入社

2001 (平成13) 年 株式会社GK設計 取締役

2006 (平成18) 年 同社 取締役社長

2007 (平成19) 年 株式会社GKデザイン機構 代表取締役社長  
現在に至る

所属等

都市環境デザイン会議 会員

国際インダストリアルデザイン団体協議会 (ICSID) 理事

財団法人日本デザイン振興会 理事

社団法人日本インダストリアルデザイナー協会 理事



## シンポジウム テーマ『パブリックデザインの今後の展望』

日時：2011年10月8日(土) 13:00~14:30

会場：日本大学理工学部1号館・2階大会議室

### パネリスト

田中 一雄

(株)G K デザイン機構 代表取締役社長

中野 恒明

芝浦工業大学システム工学部環境システム学科教授

天野 光一

日本大学理工学部社会交通工学科教授

長町 志穂

(株)L E M空間工房 代表取締役

藪本 浩次

(株)コトブキ 営業企画室 課長

### コーディネーター

横川 昇二

東京工科大学デザイン学部デザイン学科教授



パネリストの皆さん

横川：基調講演では、田中さんから1960年代からのストリートファニチャーの動きやこれからの課題等を示していただきました。シンポジウムでは、まず、パネリストから一言ずつ、パブリックデザインについての想いをお話して頂きたいと思っております。続きまして、3.11東日本大震災が重要な課題を投げかけておりますので、各パネリストからの想いをお話いただきたいと思います。最後に会場からのご質問等を頂きたいと思っております。私は、パブリックデザイン事典を執筆しているひとりですが、若い世代の方々にきちっと色々と伝えることが我々の役割と思っております。それでは、長町さんからお願いします。



### 【テーマ1：パブリックデザインの取り組み】

長町：みなさんこんにちは、照明デザインをやっています長町です。午前の田中さんの講演の話を受けつつ、照明デザインの新たな潮流について、二つの内容をスライドにそってご紹介したいと思います。一つは夜間景観について、ここ10年ぐらいで、照明のマスターデザインを決めてから地域の照明を考えるようになり、より計画的に進めていくようになってきました。夜間の賑わいの演出、人のアクティビティを操作することは、照明デザインが引き受けている部分が多いと思います。この夏のJUDI海外セミナーで行ったのですが、ボストンでは、高速道路を取り除き、その空いたエリアに大きな公園や様々なパブリックスペースを創り出しております。そこには、LEDによって噴水やオブジェなどが演出されています。水と光を使うことによって空間を演出しており、夜の9時、10時に大人が光と一緒に集まっています。これは光源の進化が牽引している出来事だと思います。同じように、ソウルのチョンゲチョンも高速道路を取り除いた後ですが、夜には、光の設備が整い、人が集まっています。もう一つは、ニューヨークのハイラインも鉄道の線路の跡地ですが、遊歩道のデザインが照明デザイナー、植物の専門家も関わって、ランドスケープとしてまとめられ、ここも夜に多くの人が集まっています。こうしたパブリックスペースは、周辺へ影響を与えており、例えば、ハイラインでは、コンドミニアムが林立し、土地利用的に住まいや高価なオフィスや飲食、ブティックなど



長町 志穂 氏

おしゃれな商業を誘発しています。もともとはオシャレな場所ではなかったのですが、ハイラインの整備によって、夜だけでなく昼も魅力的に変わりました。人のアクティビティに対して、夜間景観の知的な作りこみが魅力を演出しています。今後の展開として、人と環境とのつながりを照明デザインは担っていると思っています。二つ目は、大阪で展開している都市レベルの計画の紹介ですが、JUDIのメンバーでもある面出さんがマスターデザインをやられており、中之島エリアの照明計画、光のまちづくりを大阪府と共に行っております。個別エリアでは、コンペ形式等で進めており、7つの橋のうち3つはコンペでした。私の事務所では、堂島大橋のエリアでデザインをしましたが、エリアコンセプト、場所性のコンセプトですね。緩やかに決められたコンセプトに対して答えを出すことが求められました。今工事中ですが、福島の居住エリアでは、光の色温度が5時間かけて変わるといふ、繁華街とはひと味違うデザインをしているものです。照明デザインというものは、半分は新しいもの、もう半分は既にあるものが対象となりますが、このプロジェクトでは全て古いものであり、まちの記憶を再認識したり、歴史を掘り起こしたりといった内容になっています。古いものと照明がどう関わっているかが重要であり、私のデザイン分野では大きな要素となっています。もう一つ、神戸のフラワーロードで、今、計画を進めているのですが、普通は、道路照明については、過去の20年間はトッピングしてくださいということになりがちでした。照明の器材はここ5年で大きく進化して、このフラワーロードの持つ個性を引き出す検討を進めています。テクノロジーとデザインを融合していくこと、今後の展望の中で、デザイナーの考え方を実現化していくところで重要になってきていると思っています。人がまちの中でのアクティビティを想像することであったり、人とのつながりを考えることであったりが重要となっています。

天 野：みなさんは、土木系の方々とお仕事一緒されている方は多いと思いますが、本日、この会場

に土木工学科をご卒業された方はどれくらいいらっしゃるでしょうか。ちょっと挙手お願いします。2～3人ですかね。土木系の方がJUDIにあまり入っていないのは残念に思います。しかし、それには理由があって、土木は、最近まで景観やデザインにさほど注目していなかったのも事実で、昭和38年卒業の中村良夫さんが土木系の論文では、最初に景観デザインをやってらっしゃる。土木学会の中で、景観デザイン委員会ができたのが、約15、16年前で、ようやく土木学会の中で認知されたのかなと思います。その委員会の中でデザイン賞ができたのが約10年前でした。その間、私も選考委員長を担当しましたが、どういう物に賞を与えるべきかということの議論があり、橋、河川、ダムといった土木構造物も当然対象ですが、住宅地や造園などにも光を当てようという気運も動き出しましたし、昨年度は防護柵といったインダストリアルデザインもデザイン賞を受けるようになりました。もう一つ、国もかつては、衣食足りたあとのものが景観との考えでした。例えば、標識令というものがあります。標識の支柱は、もともとは白か銀色だったのですが、景観に気をつけるころでは、明彩度の低いものを使うという文章を入れるだけでも、1年半かかりました。その後、国土交通省も美しい国づくり政策大綱を出して、景観や風景もその他ではなくて、公共事業の整備目的であるとその時の事務次官の青山さんがご尽力されました。その後、何かやらなければならないということで、最初に景観に配慮した防護柵のガイドラインを作りました。白をやめて、こげ茶色、ダークグレーとグレーベージュの3色を作りました。し



天野 光一 氏

かし、景観が内部目的化されて、景観の検討業務が設計の中に組み込まれてしまい、お金が変わらずに、景観の検討も含まれてしまったので、コンサルタントは、大変になってしまったという課題も出てきました。ただし、昔のように景観は別物扱いにはならなくなったのです。大規模な橋のような構造物は、ストラクチャーで普通にできていることが大切で、そして風景になじむことが重要と私は考えます。最初に景観ありきで検討するのではなく、構造計画や形式があって、最適な構造設計をし、その後、姿、形を洗練させていくことが大切と私は思っています。普通にできている、普通に風景に溶け込み、風景をつくっているというのも重要であると思っていますし、大きな命題になってくると思います。そのためには、きちりしたエンジニアが必要だと思います。もう一つは、良くないものを壊していくことも重要だと思います。土木系の構造物は、税金をかけてつくっているので、物理的耐久年限を越えないとなかなか取り除くことが難しいようです。しかし、これは重要な役割と思っています。また、コラボレーションしていくことも重要で、土木の方々は、建築、照明、その他の様々な専門の人とチームを組むことが大切で、もっとやるべきだと感じます。その際、マネージャーとしての役割が土木の方に求められていると思います。土木の方もこのような場に来て頂き、交流を深めてもらいたいです。さらに、すぐにB/C（費用便益比）とか、経済効果はどうなるのかとよくいわれますが、景観はお金だけではないので、日本の風景をどうしたいのかといったあたりを考慮して頂きたいと思っています。そういった意味で、今後の展望として、土木の役割は多いと思っています。

中野：今回、私は専門分野が都市計画や都市デザインということで呼ばれたと思っています。先程長町さんをご紹介していただいた、ボストン、ニューヨークのハイライン、ソウルのチョンゲチョンは私も授業で使っています。それは、いままでの20世紀で目指して来た都市と21世紀では、市民の価値観が変わりつつあると思って



中野 恒明 氏

いるからです。今までの都市計画は、機能主義だったと思います。1920年代からCIAM（近代建築国際会議）は、住む所、働く所、憩う所、これらをつなぐものが交通であると分解して都市計画を捉え、実際日本では、これらの機能を分解したことで、地方都市では中心市街地の空洞化が進んでしまっています。一方、ヨーロッパでは、1960年代にそれを見直して、中心地に住む機能を残して寂れていない。近代都市計画の考え方の転換が必要となっていることを感じます。これに対して、長町さんのお話にありましたニューヨークのハイラインは、これまで寂れていた所で危ない場所だったのが、整備によって女性が集まってくるようになりました。ボストン、ソウルもそうです。人が集まるまちをつくるということは、パブリックスペースを再生することによって始まると私は信じています。これまでは、中心市街地活性化というような断片的な取り組みだったものが、今後は体系的に捉えるべきであると感じます。古い物を活用する、住みたいまちとするといったことが、世界のトレンドとして、21世紀、まだまだパブリックデザインの入り込む余地があると思っています。私の取り組みを幾つか紹介すると、新潟駅の南口ではオープンカフェ等の活動ができるようにしました。横浜では神奈川芸術劇場周辺のアーバンデザイン計画を照明デザインは面出さんとやりました。周辺の価値が上がったといわれています。柏駅東口のペデストリアンデッキの改修の取り組みを進めており、モニターメッセに出展して頂いている企業にご協力を頂いております。長野県の東御市の市庁舎の改修では建築コンペに当選し、照明デザイ



ナーの近田玲子さんに関わってもらっています。仕事は減ってきましたが、まだまだ頑張っているつもりです。

藪 本：はじめましてという方も多くいらっしゃると思います。デザイナーの中で若干緊張しております。宜しくお願いします。私の務めているコトブキは、午前の講演で田中さんがお話をされたいわゆるストリートファニチャー、最近ではサイトファニチャーともいいますが、40年前の大阪万博頃からベンチ等のストリートファニチャーを作り始めて、照明を除きますが、現在に至っている会社です。ここ10年ぐらいの現状をいいますと、公共事業が大きいマーケットですが、メーカーとしての現状等も含めて世の中が疲弊しているというのが、第一印象です。商品の選定に関する根拠が、耐久性、メンテナンスフリー、コストパフォーマンス等が比較表で整理され、デザインが簡単に決められてしまい、まるで買いまわり品のように扱われてしまっているという感じです。弊社で力を入れているベンチは年間3,000台程度でいくのですが、2～3年前の定価の70%ぐらいの定価設定を余儀なくされています。また、建設物価版に載っていないと採用されないようになってきており、これが大きなファクターとなってきています。昔のようにいろいろと実験したり試みをしたりする物件が減少しており、商品開発のやる気につながりにくい状況で、どこでも同じデザインになってきていると感じます。経済が疲弊しているだけでなく、まちをつくるための計画的なもの、景観やデザインとか、長町さんの話を受けると昼と夜との違いや時間軸の考え



藪本 浩次 氏

方、賑わいをつくる、活性化する、きれいなまち、かっこいい空間をつくるなど、どういうことを解決していくのかといった計画的なチェックが抜けていっているような気がします。行政の担当者が目先だけのことを考えていると思われるのではない。JUDIから発信して、考え方を植え付けなければならないと非常に感じています。午前中の田中さんの講演を聴いて、デザインはやはり実験、チャレンジの繰り返しなんだとあらためて思いました。

横 川：メーカーさんの抱えていらっしゃる課題など、言いにくいこともお話しして頂きました。既製品、スタンダードの商品は、特注の中で生まれてきているのも確かです。それぞれのメーカーさんへのエールみたいな、どのように協力すればよいか、その手がかりについて、かつて景観材料推進協議会に関わって頂いた中野さん、何かお願いします。

中 野：私は、景観材料推進協議会の前身の景観材料研究会の初期のメンバーで、ここにいらっしゃる高橋志保さんやG Kの西沢健さんもメンバーでした。西沢さんからメーカーを紹介して頂いたのですが、そのメーカーさんとは、北九州、皇居のお堀端や臨海副都心等でいろいろと一緒させて頂きました。景観材料研究会では、伊藤鉄工さんとの出逢いもありました。私は、色々なメーカーの方との付き合いがあり、それが人付き合いにつながっていました。設計者が欲しいものをメーカーさんがそれを汲んで、すぐに海外へ視察するなど、投資して蓄積して頂いたと思います。私たちの欲しいものを形にして頂いたと思っています。JUDIは、メーカーさんも含めて緩やかな人と人とのつながりに関係づけてくれています。JUDIの価値というのは、そういう意味があるし、ソフトな関係が良いまちづくりや、良いパブリックデザインにつながっていくと思っています。

横 川：人のつながりということについて、JUDIは、専門領域を問わず、官民を問わずといった独特な会ですが、田中さんちょっと中野さんのお話

を受けて続けて頂けないでしょうか。

田 中：本日、午前中、水を得たように、古巣に帰った  
思いで話をさせて頂きました。とはいえ、厳しい事は明らかで、コンサルタントは大変と思  
います。ずっと言ってきたことですが、何が価値  
なのかと言うことが重要で、何のために生きて  
いるのかということが大切です。今は、景観と  
いっても、人の命が大切だということになりま  
す。もちろん、命は大切ですが、景観なくして、  
一体どうなのかともいいたい。講演の最後に、  
文化的価値、社会的価値、経済的価値の  
「価値」の話をしました。非常に当たり前のこ  
とですが、美しいもの、快適なものが人にとっ  
て欠くことができないものであるということ  
を私たちが言い続けることが大切です。バブル時  
には、確かに変なものもありましたが、大切な  
ものもあります。震災の後、マレーシアのマ  
リーナ・ベイ・サンズに行きましたが、過剰な  
デザインにびっくりしました。一瞬にして何も  
なくなった石巻とマリーナベイといった両極の  
振れ幅の中で、長い時間の中で落ち着いた人間  
の豊かさが導いてきたデザインが大切である  
と思います。結局ひとつひとつを頑張っていく  
ことが大切です。こうしたことは、JUDIという  
場において主張して行くことが大切で、組織で  
運動という形で世界へ訴えかけて行くこと  
によって社会が変わっていくと思います。ただ安  
ければよい、長持ちすればよいということでは  
なく、人にとって、社会にとって必要であるか  
という本質的なことが重要です。価値の体系が  
変わってきていることも事実であり、デザイ  
ナーだけでなく、人とのつながりをつなげ、特



田中 一雄 氏

に組織や団体による運動によって、領域を超え  
た専門性を活かしていくことが本当に重要と思  
います。

横 川：JUDIが運動体としてのエネルギーが以前より  
少なくなってきたのではないかなという思  
いもあり、事業委員会の中で何かできないか  
ということで、今回パブリックデザインを取り上  
げました。



横川 昇二



### 【テーマ2：3.11の震災を受けて】

横 川：それでは、2つ目のテーマとして、3.11東日  
本大震災を受けて、価値の体系を見直す必要性  
があるとのこと意見がテーマ1でもありましたが、  
個人として考えていることをお話し下さい。

長 町：照明のジャンルについていえば、計画停電等も  
あり、いろいろな方々から、これから照明デザ  
イン大変ですねというお話を頂きましたが、逆  
に、専門性の問われる機会を得て、多くの方々  
特に行政の方々から、色々ご質問を受けていま  
す。照明を消すことにも専門性が必要ですし、  
もはや、適当に照明をつけていれば良いとい  
うことではなくなってきています。このことは、照  
明の専門性や価値が問われる機会、低エネル  
ギーでも高付加価値の環境が作れることなど、  
説明の機会を得られ、照明デザイナーにとっ  
て、価値観を伝える機会となっています。そう  
いう意味で、JUDIの照明デザインを専門とし  
ている面出さん、近田さん、東海林さん、富田  
さん、長町の5人で、震災を受けて、照明のあ

るべき姿みたいなベーシックなこと、何か作り直さないといけないときのガイドラインを作っていきたいと思っています。それらについては、早くまとめておいたほうが良いと思っています、一人で出すことはできないですが、JUDIでまとめた方が、照明学会より早くまとめられるのではないかということで、今年度それができればなどと思っています。

天 野：今回の震災で、場合によっては、高い堤防と土盛りした道路ができるかも知れません。東北の風景が大きく変わってしまうかも知れません。発信の仕方は大変微妙ですが、安全であれば、風景がどうしてもよいということではないということ発信していくべきと思っています。多少我慢すれば、地域がどう考えているかを考慮して、工夫をすれば、風景を保ったまま、そこそこの安全性を確保することができるということを実際に考えていかなければならないと思っています。タイミングは難しいですが、やはり風景は大切だよねということは、発信していかなければいけないということです。ある被災地の高齢者の方が、子どもの頃から見てきた海岸風景がなくなってしまうのはやはり悲しいとお話されていました。その人も大きな声では今はおっしゃることはできないけれども、そういうお気持ちの方も多くいらっしゃる。そうした方々の気持ちを発掘し、情報を伝達し、かつ、エンジニアとしてハードでカバーして、良い風景を維持し、安全性を確保することを考える機会であると思います。風景が大切だという言葉は気を付けなければなりません、発信していくべきだと思っています。

中 野：今回の震災については、二つの意味があると思っています。一つは、津波に象徴されるように、私たちの技術力には限界があって、自然の力に対しては勝てないというように私は考えています。といいますのは、浦安の液状化について、私の家も傾きましたが、いち早く水平工事をしました。一方で、二度と沈下が起きないような工法が見つかるまでやらないという考えで、まだ復旧をしない家もあります。調べて見

ると、傾かないようにしたいと考えれば、多大な費用がかかることとなります。メンテナンスといった三半規管の異常をきたす病気になる可能性もあるなど家族の健康のこともあり、私は、早く復旧することが大切と思っています。津波のことも同じで、津波を防ぐ事で時間をかけて考えることや実際に防ぐことができないのであれば、逃げることに對していち早く考えることを進めてもよいと思っています。どこまで手当をするかということは極めて難しいことですが、逃げるということは最大の津波対策であることが今回わかったと思いますし、歴史が示してきたことだと思っています。もう一つは、テーマ1でもお話したヨーロッパの都市がなぜ変わったかということで、チェルノブイリ後、ドイツを中心として、エネルギー消費主義から省エネ型へ転換したことにあると思っています。私たちは、知らず知らずにエネルギー浪費型の都市を認めてきて、作り込んできたことがあると思っています。東京も、もう少し省エネ型の都市を考えていくべきで、そのためには、これから脱自動車社会で、自転車も含めて、徒歩での生活を考えることが重要と思います。チェルノブイリ以降、いち早くヨーロッパは市街地にストリートファニチャーやパブリックデザインが施されて、至る所で高齢者がベンチに座っているといた風景を見かけます。東京には、そういった物がほとんどない。もう一度、人の気配をまちに戻すといった政策転換が必要と考えています。JUDIが人のためのデザインについて、ビジョンをもって提案すべきと思っています。以上のことが3.11以降、私が痛切に考えていることです。みなさんと一緒に頑張っていきましょう。

藪 本：モニターメッセでも、震災に関する商品が紹介されると思いますが、阪神淡路大震災の後、弊社もかまどベンチを提供してきた経緯があります。しかし、今回の震災で、かまどベンチが、緊急車両の邪魔になったなどの話がありました。つまり、役所も設計者も何でもおけばよいということではないということです。置けばよいということで緊急車両の動線のことを考えず



に設置したことということが、私たちの商品の延長で教訓としてありました。今後復興でゼロからのまちづくりの動きが出てきた際に、中野さんがお話されたように、車社会ではなく、ユニバーサルデザインであったり、街なかに休憩施設があったり、街なかにおける都市デザインやファニチャーの存在意義についての視点が大切と思っています。運動体としてのJUDIで本当の価値が何であるかについて検討して頂きたいと思っています。

横 川：3.11東日本大震災に関していえば、非常時だけのことではなく、平常時も視野に入れて考えていくことが大切で、平常時にも使用しているから、非常時も使い方がわかるといった発想が重要だと思います。先程の天野さんのお話で、現時点では景観が重要だと真っ先に言うことが難しいところもありますが、色々な角度から提案していく事が大切と思っています。それでは、会場の方から何かご質問等がございましたらお願いします。



### 【会場からの質問と回答】

質問者：名古屋大学医学研究科のモリタと申します。全くの偶然で参加させて頂き、貴重なお話を聞くことができ有難うございました。部外者ですが、2つ程ご質問したいと思います。私は、緑の健康効果を研究しております。美しいものや快適なものは人に必要で、それが健康につながるという認識で研究を進めております。色々な分野との交流、連携することが大切ということでしたが、私は、農学部のエコロジカルデザインと公衆衛生を



会場からの質問者

専門にしています。山村や林学分野の方との連携はあるのでしょうか。また、医学については、例えば、照明は睡眠とも影響がありますし、パブリックヘルスという観点から見ると、生活習慣病のためには、歩きやすいまちは運動量が増えますし、日常的に運動量が増えると生活習慣病が減るとの関連もあると思います。歩きやすいまちのハード面の整備等も重要とおっております。その際、医学の関連の方々との連携をされているのかあたりをお教え下さい。

天 野：JUDIのメンバーには、いらっしゃるかも知れませんが、個人的には、林学の森林生態学の先生ともよくご一緒することがあります。また、これからは、まちと医療、観光と医療とか公衆衛生系の先生でまちづくりに興味をお持ちの方とご一緒に検討することが重要だと思っております。

長 町：照明のジャンルでは、睡眠等の健康衛生面で生理学的な影響等は研究がされています。例えば光の色について、研究そのものに医学系の方も関わっています。情報を得たいのであれば、照明学会では、過去にもいろいろ論文が出ているので参考になると思います。景観の面では、路面照度を上げていけば人が歩くとの誤解がありました。人の視野の7、8割は鉛直面であり、木々がライトアップされている方が、路面が明るいことより重要です。鉛直面の輝度やタスクアンドアンビエントでどの様に光を設計するかが大切とこの5年ぐらいで正しい方向で検討されるようになってきました。もう一つは、噴水照明等の遊び心のある仕掛けなどの重要性がわかるようになってきました。過去は、演出照明は、余分とかアクセサリーという扱いでしたが、人に注目して考えてみると、楽しいから人は何かをするわけで、人が微笑むことができる仕掛けをイメージし、心理学的にも捉えていくことが大切だと思います。そして、これらは私たちができるとも思っています。

田 中：JUDIは、都市計画からアートデザインまで様々な専門家が集まる組織としてスタートしています。今、この場にあって、さらに領域性を

超える事が大切で、今ご指摘あったように、医療等も視野に入れる事が大切と思っています。今年からメディカルデザインアワードという活動をしています。医療とデザインをつなぐのですが、審査員には、私のような者だけでなく、現職のドクターも何人かいます。今年グランプリを取られたのは、麻酔科医でデザインが趣味という方でした。これから、医療とデザイン、医療と景観は、震災も絡みますが、人が孤独死しない仮設住宅等、医療や心とデザインをつなぐことは重要と思っています。是非、JUDIに参加してください。

質問者：ありがとうございました。私のテーマでも狭い分野ですが、美しいまちだとどれくらい運動量が増えたかなど情報を取って頂く等コラボさせて頂ければと思います。

横 川：JUDIは、デザインの領域を超えて様々な分野が連携していることが最大の特徴です。また、JUDIは10の地域ブロックあり、各ブロックの活動がベースとなっています。今日は、関東のこの場で開催しましたが、今後はパブリックデザインのテーマについても各ブロックでご議論頂きたいと思います。それでは、本日、遠くからこられた埴さん、何かございましたらお願い致します。

埴：金沢から来ましたコンサルタントをやっています埴です。急に振られて何を話そうか困惑しておりますが、地方の取り組みを少しご紹介します。JUDIでは20周年記念事業を展開しておりますが、北陸ブロックでは、北前船を題

材として研究をおこなっております。北前船の寄港地には、良いものが沢山ありましたが、近代化された場所は残念ながら何も残っておりません。しかし、開発の手が伸びなかったところでは、今でもかつての良いものが多く残っています。また、北前船の文化や職人の芸術も各寄港地に残っている所では根付いております。北陸には、こうしたところが多くあり、それらを掘り起こして、発信していきたいと考えております。パブリックデザインとは関係ありませんが、北陸ブロックの活動をご紹介させていただきました。

横 川：埴さんありがとうございました。シンポジウムの内容は、記録集としてまとめますので、宜しくお願いします。これで終わりにしますが、続きましてモニターメッセです。本日は、パネリストの皆さま本当に有難うございました。

以上



シンポジウム風景



埴 正浩 氏

## モニターメッセ

司会進行 事業委員会委員 伊藤 登／プランニングネットワーク  
須田 武憲／G K設計

### プレゼンテーション

- ヨシモトポール株式会社『災害時支援照明柱と公共製品における地場産材の活用』  
発表者：丸山 浩二／都市景観チーム  
コメンテーター：栗原 裕／ユー・プラネット
- SD.Hess Lighting株式会社『屋外LED照明について』  
発表者：来嶋 次郎／営業部  
コメンテーター：近田 玲子／近田玲子デザイン事務所
- 第一建設株式会社『緊急災害用快適仮設空間QS72』  
発表者：吉越 明雄  
コメンテーター：斎藤 浩治／パシフィックコンサルタンツ
- 株式会社住軽日軽エンジニアリング『環境に配慮したスマートシェルターの開発』  
発表者：富岡 仁計／営業企画部デザインチーム  
コメンテーター：作山 康／芝浦工業大学
- 三協立山アルミ株式会社『新型バスシェルターの開発』  
発表者：杉山 恵／パブリックエクステリア部パブリックSE課  
コメンテーター：松本 篤／愛知産業大学
- 株式会社コトブキ『豊かな自然景観をわかりやすく伝える立体地図サイン（観光サイン）』  
発表者：藪本 浩次／営業企画室、岡 磨理絵／SF・サイン設計室  
コメンテーター：中井川 正道／F I T環境デザイン研究所

### ポスターセッション

- 伊藤鉄工株式会社『ソーラーLEDフットライト：TACO-6』
- 丸一鋼管株式会社『安全・環境配慮型開口部と新しいデザインテーパーポールのご提案』
- 日本鑄造株式会社『歴史を伝承し未来を創造する景観製品を提供する』
- 株式会社アーテック『参考出品～EBルミネサインパネルの紹介』
- 昭和鉄工株式会社『開放性とスタイリングを追求した防護柵の開発』



ヨシモトホール株式会社

## 『災害時支援照明柱と公共製品における地場産材の活用』

発表者：丸山 浩二／都市景観チーム  
 コメンテーター：栗原 裕／ユー・プラネット

## 1. はじめに

先の東日本大震災におきましては、多数の犠牲者が発生し、多くの公共施設にも被害がでました。被害に合われました皆様に改めて心よりお見舞い申し上げます。

今回の発表テーマ「災害時支援照明柱と公共製品における地場産材の活用」についてですが、今後の被災地復興を含めて、全国的な災害に強い街づくりや愛着もてる街づくりの検討を進めていくうえでの1メーカーの事例として、1つのヒントになればと思います。

## 2. 災害時支援照明柱について

## (1) 開発経緯

災害時支援照明柱の開発経緯としては、今回の災害時支援照明柱の発注者である大阪府は先の阪神淡路大震災を教訓とし、今後想定される「東海・東南海・南海大地震」にてマグニチュード7.2クラスの地震が発生した際に、約300万人を超える帰宅困難者が出ると予測しています。そのような予測に基づき、平成19年度から防災セーフティロード事業を立ち上げ、主要幹線である新御堂筋（国道423号）、大阪高槻京都線などの6路線を「広域緊急交通路」に指定し、避難誘導のための照明柱の整備を進めております。

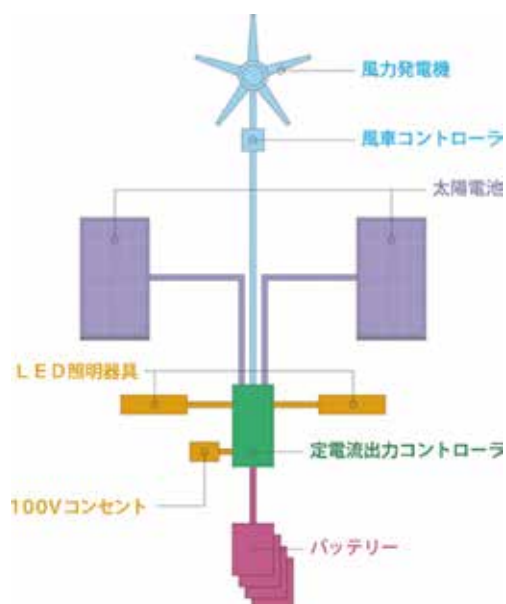
避難誘導のための必要な機能（ニーズ）について、各社提案のなかで、弊社も広島化成㈱との共同で「災害時支援照明柱」を提案、採用され、大阪府からの追加要望に対しての改良も加えながら、現時点で様々なタイプも含め約100基程度の納入を行っております。

## (2) 製品の特徴

全体概要としては風力・太陽光の自然エネルギーを取り込み、コントローラーを経由して、照明や蓄電に利用するシステムになりますので、商用電源を必要としない独立した電源のシステムです。



災害時支援照明柱 全景



災害時支援照明柱 電力系統図

細かな特徴として、

① 青白混合LEDを採用

LEDを採用し省電力化を図るとともに、犯罪抑止効果が期待できるといわれる青白色を採用しています。

② 長寿命バッテリーを内蔵

長寿命バッテリー4台を支柱内に内蔵し、7日間雨天でも照明が点灯します。

③ 風車、サインを装着

支柱上部には風車、支柱中段には夜間でもみやすい蓄光サインを取り付けています。風車は火災などの横風から身を守るための風向きの把握に、蓄光サインは方角や現在の場所を把握し、避難誘導するための効果があります。

④ 取り外し式LED照明器具

支柱中段のLED照明器具は取り外しが可能となっており、開口部に内蔵されているスタンドを器具に取り付けることにより地面に置くことが出来、より手元が明るい状態で救護者の手当てにあたることができます。

⑤ 100V電源

支柱下部には100V電源コンセントがあり、ラジオや携帯電話などの非常用の電源として使用が可能です。

(上記のような特徴について23年8月の鉄鋼新聞にも掲載)

(3) 今後の展開

災害時支援照明柱については、他の地域で使用する場合、その配置や運用およびさらなる改良についてはまだ検討の余地、例えばデザイン性や地域にあった防災システムを作ることなどもあるかと思いますのでJUDI会員の皆様でこのようなものを検討される際には一緒に進めていくことができればと思います。

### 3. 公共製品における地場産材の活用について

(1) メーカーが関わるメリット

被災地の復興も含めて、いかに愛着の持てる街づくりを進めるかは今後も大きなテーマになります。地産地消ではないですが、その街に住んでいる方々も、地元でとれた木材、石材、地元で製作した鋳物などを公共製品に



支柱内蔵の長寿命バッテリー



支柱上部の風車、蓄光方向サイン



支柱中段より取り外し可能な照明器具



支柱下部の電源コンセント



使うことによってより親しみがもてるのではないかと思います。

それであれば地元で製作して、地元で納入すれば良いのではないかという議論もあるかと思いますが、弊社のようなメーカーが関わるメリットは次の通りです。

公共製品ですので、もちろん安全な強度、耐久性が必要になります。弊社では製品種別に基づいた強度計算や必要に応じて鋼材や石材関係の各種の試験設備で確認をすることによって安全性を確保しています。また、鋳物や木材といった弊社内で試験が難しい製品についても、関係協力会社のネットワークでの試験や提案を受けることが可能です。耐久性については、必要な表面処理（下地調整や塗装）、防腐処理を行うことにより確保しております。また、入手したデザイン図などに、基づき、過去の実績、経験などから強度部材との取り合い、細かい部分の収め方などの意匠性と強度を保つための提案が可能です。

（もちろん、地方の地場産材をそのまま使うことがダメだという話ではありませんが、より安全なものをご提供できるという意味合いです。地場には良い製品があっても、強度検討や試験、必要な表面処理ができず、埋もれているものもあると思います。）

## (2) 各素材による各製品事例

### ① 石材

阪神大震災の震災復興住宅として開発された「HAT神戸」向けの照明柱には現地の護岸で使用されていた神戸御影石を弊社のデザインコンクリートに混入し、表面に活かしています。

その他にも沖縄・那覇新都心の照明柱、車止めのもとぶ石灰岩・南部石灰岩、青森のホタテ貝などの事例もあります。

### ② 鋳物

岩手県平泉地区の毛越寺周辺のフットライトは弊社で設計開発を行い、鋳物の鋳造から亜鉛溶射までを地元の「岩鋳」さんという鋳物製作会社で製作し、最後の表面処理・塗装を弊社で行った事例です。地元の特色を出すため、南部鉄器のあられ模様を採用しています。

### ③ 木材

宮崎県日向市駅前の照明柱、車止めには、地元でとれ



地場の神戸御影石を混入した HAT 神戸の DCP 照明



もとぶ石灰岩を混入した那覇新都心の車止め



る「飴肥杉」を防腐処理を施したうえで、支柱材の化粧として採用しており、木材のメンテナンスには地元の小学生なども参加し、より親しみの持てる街づくりに寄与しています。

その他にも新潟県佐渡のヒバ材を使用した同地区向けのベンチや高知県の桧材を使った四万十川のサインの事例もあります。

### (3) 地場産材を活用した製品への取り組み

このような地場産材の活用事例の製品については、当社メーカー1社で単独開発したというのではなく、①発注者や地元のニーズ、②携わった設計会社やデザイナーのアイデア、アドバイスなどを頂き、③地場の専門業者さんとも打ち合わせしながら一緒に製品化（ものづくり）をしてきたものになります。

## 4. 最後に

以上のように「災害時支援照明柱」と「公共製品への地場産材の活用」事例について紹介させて頂きましたが、弊社の景観分野では完成品を提案するというのではなく、過去のモニターメッセにおいてもそうですが、素材や基本技術をご紹介・ご提案させて頂き、製品化やその運用についてはJUDI会員の皆様と打ち合わせをしながら、ニーズ（例えば機能、意匠性、コストなど）も踏まえて、今後もより良い製品開発・ものづくりに取り組んでいきたいと考えています。



地元の「岩鑄」で鑄造した平泉地区のフットライト



地場の飴肥杉を化粧材として使用した日向市照明柱

 **ヨシモトポール** 株式会社

担当：丸山 浩二

住所：東京都千代田区有楽町1-10-1

電話：03-3941-0423

メール：maruyama-kouji@ypole.co.jp

URL：http://www.ypole.co.jp

## 総評

栗原 裕／ユー・プラネット



### 災害時支援照明柱と公共施設における地場産材の活用

#### ●製品の特徴とデザインの可能性

今回紹介された製品は、ソーラーパネルおよび風力発電機を備え、災害時（停電時）においてLEDによる照明および100Vの電源を供給できる「災害時帰宅支援照明柱」と、地場産材（石材、鋳物、木材等）を取り入れることにより、地域性を演出すると共に、地域経済に貢献できる「地場産材活用照明製品」の2製品である。

どちらの製品も時代のニーズに合わせた製品であり、公共施設における今後の活用が期待できる製品である。

#### ●「災害時帰宅支援照明柱」についての感想

今回の東日本大震災の経験からも、この製品は災害時に重要な役割を果たすことが期待できる。

ただし、機能的にはある程度満足していると思われるが、そのデザインに関しては今後の課題が大きいものと考えられる。風力発電の羽根、ソーラーパネルも大きく、また、蓄電池を収納するために柱がかなり太くなっており、全体のバランスが崩れて見えてしまう。

蓄電池、風車、ソーラーパネル等の今後の開発により、将来的にはある程度スマートになるものと思われるが、当面の課題としては問題が残る。

公共施設製品は、災害時だけではなく、日常においても景観構成要素として影響を与えるものであるため、その点の考慮が必要であると思われる。いっそのこと、ごつことを強調したデザインを考えるのも一考であろう。

蛇足ながら、蓄電池の寿命が3年程度であるとのことだが、LEDの寿命が10年程度であることを考えると今後の技術開発により、メンテナンスが軽減される方向になることを期待したい。

#### ●「地場産材活用照明製品」についての感想

地場産材を活用し、地元企業とのコラボレーションによる地域の活性化と地域性の演出を図ることは非常に素晴らしいことだと言える。

ただし、今回紹介された事例はいずれも特注品であり、価格は示されていないが標準品と比較するとかなり高額なものになってしまうと想定される。

国の補助金等を活用でき、地域のシンボルとなる駅前広場、シンボルロード等であれば、それなりの金額でも採用される可能性があるが、一般的な公共空間（通常の道路等）では採用しにくいことが想定される。

特注品を使用できる場合は特注品でいいが、その他の場合でも使用できるよう、ある程度標準化（デザインの共通化）した数種類のモデルを用意し、その一部に石材、鋳物、木材等の地場産材を組み込めるようにしたらどうだろうか。そうすれば標準品よりは多少高くなるだろうが、価格をある程度抑えることができ、使用場所を拡大することができると思われる。

#### ●今後の課題について

今回は2つの製品が紹介されたが、「災害時帰宅支援照明柱」はその機能を重視した製品であり、「地場産材活用照明製品」はその地域性、デザイン性を重視した製品である。

それぞれの製品の開発は別々に行われたものであろうが、「災害時帰宅支援照明柱」も平常時において省エネルギー（商用電源を使用しない、消費電力の少ないLED）製品として活用できるものであることから、この製品にも「地場産材の活用」を考慮してもいいのではないかと考える。

地場産業とのコラボレーションだけではなく、自社の製品間のコラボレーションも必要であろう。

## 会場からの声

### ●高い機能性とデザイン面の課題

- ▶ 照度、点灯時間、価格の情報を頂きたい。
- ▶ 機能性は高く評価する。大阪市の取組みも良い。
- ▶ 発表にあったように、意匠性の工夫が必要だと思う。ヨシモトポールの技術開発は優れており、今後も頑張ってもらいたい。
- ▶ 災害時照明柱は、バッテリーで7日使えるのは良い。
- ▶ 色々な機能を柱に内蔵させたことで柱自体がごつくなっている。今後スマートに出来れば良いと思う。
- ▶ 取り外しができることで、災害時の様々な活用が考えられるが今後、デザインに配慮していくことが望まれる。また、縦型の風車などにして全体のバランスに配慮することが必要と思われる。
- ▶ 従来になく優れたアイデアが入っていると思う。面白い商品名を考えて欲しい。
- ▶ 取り外しの後の三脚のようなものも2本あればよいと思う。
- ▶ 素材だけでなく、地場の意匠も取り入れると地域性が出て良いかも。嫌味にならないデザインで。
- ▶ 太陽光パネル、蓄電池セットがとても良い。

### ●地場産の活用と市場

- ▶ 災害用製品は今が旬といえる。市場の拡大が進めばさらに改善や進化が必要になると思う。
- ▶ 青白い照明の犯罪抑止効果については昨今ほとんど否定的である。
- ▶ 地場産材の活用と地元企業や地元の人々を巻き込む活動はとても良い。



## SD.Hess Lighting株式会社

### 『屋外LED照明について』

発表者：来嶋 次郎／営業部

コメンテーター：近田 玲子／近田玲子デザイン事務所

#### 1. 会社紹介

##### ドイツHess社×信号電材=SD.Hess Lighting

ドイツの照明会社、Hess社と日本の信号メーカー、信号電材とのコラボレーションで日本の景観に対してこれまでになかったようなアジアヨーロッパ風の景観をご提案していけたらと考えています。信号灯器、照明器具、柱の3つをオールインワンにした複合柱が特徴的なユニークな照明メーカー、SD.Hess Lightingがこれから皆様の街へ照明を通して一枚のポストカードになるような素敵な街並みをお届けします。



会社紹介

#### 2. SD.Hessの優位性

当社では福岡を拠点にグレアフリー、デザイン性、メンテナンスフレンドリー、長寿命、これらの4拍子を全て取り揃えた環境に優しい4つのLEDモジュールを搭載した照明灯具を日本全国へ提案しております。

#### 3. 4つのLEDモジュール

##### (1) 光の特性を最大限に生かした「4つのLEDモジュール」

CLU-TECH、LEVOモジュール、MODUL360、cLEDの4つのLEDモジュールはそれぞれ用途に合わせた特徴があり、景観によって色温度の変化をもたせたり、統一感のあるやわらかい光の配光が可能です。

##### (2) 4つのLEDモジュールー概要

- CLU-TECHは高出力クラスターLEDから放たれる光をリフレクターが理想的な配光に変え、プリズマティックレンズでグレアフリーな光を提供します。
- LEVOモジュールは、S光学／左右配光タイプとME光学／前方配光タイプの2種類から選択可能です。また、メリットとして当社が取り揃える多彩な灯具



LED モジュール-1



LED モジュール-2

に搭載できるという融通性もあります。

- MODUL360は余分な光を制御する遮光版が必要最低限の光、かつ眩しさを与えない光を演出します。
- cLEDはレトロな照明灯具に最適なサーマルコントロールの優れたヒートシンク、及び拡散カバーを用いたLED光源で白熱球のような光を演出します。

### 3. デザイン+α

グレアフリー、優れたサーマルコントロール、カラフルな演出・・・

Hess製品はデザインの優位性のみならず、長寿命を実現する優れたサーマルコントロール、配光バリエーション、設置場所や用途に合わせて、赤、青、緑、アンバー、白の5色に可変するRGBコントロールの選択ができ、POSITANOのような照明ベンチのような役割を果たす製品など、多種多様な製品ラインナップを揃えています。ときにはお客様の製品選定を困らせてしまうこともあるかもしれません。

### 4. 日本全国初の屋外展示場

「百聞は一見にしかず」

カタログや写真だけでは雰囲気がわからない、想像ができないなど・・・

それを解決するために、当社は本社オフィスに併設する駐車場スペースに日本全国初の屋外展示場をオープン致しました。時間を忘れて見入ってしまうような、17種類の主力製品を選定し、各製品がもつ独特な「光の演出」をお客様に直接感じていただき、ご来場された皆様に幻想的なSD.Hessワールドへ惹きこみます。

皆様の多数のご来場をお待ち致しております。



製品ご紹介



屋外展示場写真

**SD.hess**

担当：来嶋 次郎

住所：福岡県大牟田市新港町1-29

電話：0944-56-8282

メール：kijima@sd-hess.co.jp

URL：http://www.sd-hess.co.jp

## 総評

近田 玲子／近田玲子デザイン事務所



### 屋外LED照明について

#### ●優れたLEDモジュールである

照明デザイナーが欲しいと思っていた光を揃えている。但し、照明の専門家以外にはどんな効果になるのかわからないのではないかとと思われるので、光そのものの情報が欲しい。4種類のモジュールを点灯したときのそれぞれの光の広がりが見える写真があると、直感的に理解し易くなる。

#### ●簡便な照度データがあると良い

カタログに配光が明示されているのだが、この配光データを理解して利用出来るのは、照度計算式の専門的知識のある人だけである。ランドスケープデザイナーや建築関係者なども照明計画できるように、光源の高さと明るさの範囲と照度が図示された簡易で視覚的なデータがあると良い。

加えて、公園や街路などの照明器具の設置プラン例と明るさなどを入れるとわかり易い。

#### ●基本的な照明器具のデザイン・バリエーションがある

オフィス街、商店街、住宅街、公園など、どのような場所にどの器具が相応しいか、施工例写真があると更に利用し易い。

#### ●LED光源そのものの情報が欲しい

光源の、lm：光束、Cd：光度、ランプ寿命などに加え、Ra：演色性、K：色温度などのデータと、色の見え方についての写真があると良い。

## 会場からの声

### ●デザインと性能

- ▶ 光の質にこだわるデザインの質は日本の照明メーカーにはできない。
- ▶ ポールのデザインは、どこかのデザイン事務所に依頼しては？
- ▶ MODUL360が面白い。制御が難しいLEDが進化していると感じた。
- ▶ デザインの質も高く、バリエーションが豊かだと思う。
- ▶ 青色は寒い感じがする。
- ▶ 配光の状況がもう少しビジュアルにわかる様に示して欲しい。
- ▶ 古いアンティークデザインに合うLEDなど、デザイン展開がよい。
- ▶ 灯具デザインのセレクトを大幅に変更した方がよい。
- ▶ 車道照明器具の照度分布が設計の基準を満たしているか？

### ●国内市場への普及に期待

- ▶ 売り方はプロモーションをぜひ行って欲しい。
- ▶ コスト面が不安だが、日本で普及して欲しいと思う。
- ▶ 器具の良さは分かったが、今後日本国内での納入実績が増やせるかが課題。
- ▶ 地域性をどのように取り込んで行くかが大切になると思う。LEDの今後の可能性を感じた。
- ▶ 日本でなかなか見ない灯具だったので興味を持った。



第一建設株式会社

## 『緊急災害用快適仮設空間 QS72』

発表者：吉越 明雄

コメンテーター：斉藤 浩治 / パシフィックコンサルタンツ

## 1. 緊急災害用快適仮設空間QS72の目的

## (1) 避難生活に尊厳の確保を

近年、多くの自然災害が世界の各地で起こっている。被災者の多くは日常生活から切り離され、不自由でプライバシーの無い避難生活を余儀なくされている現状がある。

2008年から約2年間をかけて開発されたQS72（クイックスペース72h）は、災害発生直後の最も重要な時間「初動72時間」に迅速に対応する事で、被災者の精神的な安定・安心のサポートを行い、避難生活での尊厳の確保を目的としたポータブルアーキテクチャとして開発された。

## ○ 即時（～72時間～）

- ・ 初動72時間に迅速に対応
- ・ 災害発生から最も重要な時間

## ○ 短期（～1ヶ月～）

- ・ 仮設住宅入居までの1ヶ月に対応
- ・ 室内外の環境に対して安心できる空間

## ○ 中・長期（～1年～）

- ・ 生活環境の変化に柔軟に対応
- ・ 求められる様々な機能の空間へ

## (2) QS72の特徴

災害発生直後から即時に展開し、仮設住居が建設されるまでの間、可能な限り快適な生活空間を提供。モジュールシステムは備蓄や供給を合理化し、各地の防災拠点から迅速な支援がおこなえるよう意図されている。リサイクルや加工性、強度、断熱性等に優れたPP樹脂複合板を用い、折板構造により高い強度とコンパクトな折畳みを実現。モジュールを連結する増殖システムは、最小ユニットを自在に組み合わせることで、コミュニティーを構成する村住居ともなりえる。



QS72の目的



QS72の特徴



快適な仮設空間

## 2. 東日本大震災の被災地での支援活動

### (1) 被災地での様々な空間展開

東日本大震災ではYKK(株)の援助によって100ユニットが、日本赤十字社を通じて被災地に送られた。宮城県石巻赤十字病院では仮設の診療施設などに使用、その後、ボランティアセンターや商店街民間活動拠点等様々な空間を提供した。

#### ○被災地での支援活動

- ・ 屋外仮設診療施設（石巻赤十字病院）
- ・ シャワールームの着替室（石巻赤十字病院）
- ・ 倉庫（石巻赤十字病院）
- ・ 屋外仮設診療施設（東松島）
- ・ 屋内仮設診療施設（石巻）
- ・ ボランティアセンター（石巻）
- ・ 移動児童図書館（石巻赤十字病院）
- ・ 商店街民間活動拠点（気仙沼）

### (2) 今後の展開

現在、長期化が予想される震災復興において、向こう三軒両隣、老若男女、犬猫と暮らせる仮設住居は、被災者の日常を回復する上で、大きな役割が期待出来る。

今後の展開として、仮設村によるコミュニティーの形成や仮設商店街による迅速な経済活動の復旧、託児所等の被災地で働く人のための支援施設等、避難生活の環境の変化に柔軟に対応した快適仮設空間を普及していきたい。



ボランティアセンター



仮設商店街の形成



仮設医療施設

**DAIICHI 第一建設株式会社**

担当：吉越 明雄

住所：東京都千代田区神田小川町2-6 川合ビル1F

電話：03-3293-7161

メール：toyooka@daiichi-const.co.jp

URL：http://www.qs72.com

## 総評

斉藤 浩治 / パシフィックコンサルタンツ



### 緊急災害用快適仮設空間QS72について

#### ●テクノロジーの進化が可能にしたデザイン

災害発生直後の72時間は、人命救助の観点から最も重要な時間帯といわれる。今年の3月に東日本大震災が発生したこともあって、災害時の仮設空間に関する関心は非常に大きいものがあった。第一建設㈱の提案は、災害時の72時間以内に迅速な対応を可能にする仮設ユニットであった。

素材は、軽量で剛性に優れたプラスチックボードが使われている。ハニカム構造によって断熱効果もあり、潰れても復元する性質もあるという。また、基本ユニットは「折り紙」のような折板構造であり、特別な工具を使わなくとも、誰でも容易に組み立てることができる。完成した形状もちょっと洒落た明るい雰囲気があり、まさにテクノロジーの進化が可能にしたデザインといえる。

#### ●多様な活用をイメージさせる増殖機能

私が特に注目したのは、多様な形状に展開できる「増殖機能」である。基本ユニットを複数連結することで、面積の拡大はもちろんだが、多様な形状の空間を作り出すことができる。

この機能は、災害対応施設の枠に留まらない大きな可能性を感じさせるものである。例えば、イベントなどで一時的に使う空間（ショップ、休憩所、トイレ）や、野外研修などの短期的な施設（個室、集会所、更衣室）への活用がイメージできる。

また、実物はモノトーンであったが、塗装色や模様印刷によって、外観の印象を様々に変えることが可能で

ある。私は、街中でカラフルなショップとして展開する場面を想像し、この製品の持つ潜在的な明るい可能性を感じた。

#### ●「製品を売る」よりも「使い方を売る」

プレゼンテーションでは、もっぱら強度や軽量さや耐久性など、物理的な優位性を説明する内容が多かった。災害対応の施設としてそれも重要ではあるが、私はむしろ「使い方」の可能性をアピールすべきではないかという想いを強くした。会場に展示された実物に触れた人が口にした言葉は、「庭に立てて書斎に」「大学構内に置いてカフェに」など日常空間で活用するイメージであった。

今後、この製品が災害対応製品の枠を超えて「使われる」ことによって、都市の新たな活動空間の提案にまで発展することに期待する。



## 会場からの声

### ●更なる発展に期待

- ▶ 外装が7色に着色できると良いと思う。また、絵も良いですね。
- ▶ 今後、避難所で使える空間ユニットを開発して欲しい。
- ▶ 用途が豊富で小空間から大空間まで拡張性の高い製品は、他にも用途が広がるのではと大変期待される。
- ▶ パーソナルな使い方はおもしろそう。
- ▶ 着色や模様を与えることで人の賑わいの演出にもなる。
- ▶ モジュールによって多様な活用ができると思います（イベント活用、町内会のテント・オープンカフェ etc..）。まちの賑い装置としてPRした方が良いと思う。
- ▶ 空間利用の為の設備等についても（必ずしも一体である必要はないが）一体的に考えてみてはどうでしょうか？
- ▶ 周囲に絵やサインをかける画材のキットも一緒に紹介されるのはとても良い。
- ▶ 壁要素として空間を作る以外に、柱要素としてより広い空間を作る手がかりになればと思う。

### ●耐候性とコスト面の課題

- ▶ 暑さ対策はどうなっているのか？ また耐候性は？
- ▶ 未使用時にはコンパクトで、組立の時間も短いというのが良いと思う。使い回しはきくのか？
- ▶ あと1歩コストが安くなると気軽に活用できると思う。

株式会社住軽日軽エンジニアリング

# 『環境に配慮したスマートシェルターの開発』

発表者：富岡 仁計／営業企画部デザインチーム  
 コメンテーター：作山 康／芝浦工業大学

## 1. 環境配慮に対応した新たなニーズの開拓

### (1) 新たなニーズの発見

- アルミ製品を軸とした事業展開 ⇒ アルミハニカムパネルの販売！パネルを支える構造体が必要
- 駅前施設設計の経験 ⇒ 他素材、他製品の特性を知る！柱、梁の鋼材！トプライトの透過素材！照明器具 等
- 多様な素材を一品一様で設計 ⇒ 設計力がセールスポイント

**新たなニーズの発見**

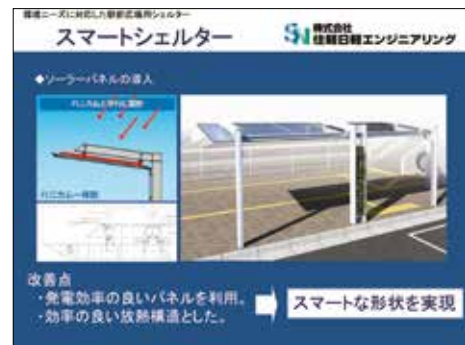
### (2) 景観を阻害しないスマートな仕上がりを目指す

- ◎環境負荷軽減を目指す施設設計 ⇒ ソーラーパネルの導入
- ◎上質なアメニティー空間の提供 ⇒ 照明器具の小型化 ⇒ 爽涼空間の提供
- ◎災害時の対策 ⇒ 独立電源の確保

**景観を阻害しないスマートな仕上がりを目指す**

## 2. スマートシェルターの概要

\*柱・梁は鉄骨造、屋根はフラットな仕上がりアルミハニカムパネルで、駅前空間の景観に調和するスマートな屋根を形成する。剛性が高く二次部材が少ないため、支柱間隔が大きく開放的で連続した空間を確保できる。  
 \*大きな特長は、リデュース（長寿命）、リサイクル（再資源化）はもとより、LED照明、ソーラーパネル、ミスト、自動灌水植栽など、環境への配慮をちりばめた。  
 \*ハニカムパネルはソーラーパネルと平行になるように一体化され（下吊り、上載せに対応）、スマートな形状を実現した。



ソーラーパネル導入



LED 照明内蔵



ミスト噴霧・プランター

**株式会社 住軽日軽エンジニアリング**

担当：中野 直毅  
 住所：東京都江東区亀戸2-35-13  
 電話：03-5628-8534  
 メール：naoki-nakano@sne.co.jp  
 URL：http://www.sne.co.jp

## 総評

作山 康／芝浦工業大学



### 多様なニーズに応えられるバスシェルターシステムへの期待

#### ●可能性が広がる50mm厚のアルミハニカムパネルとオプション

100mm厚でもデザインの自由度は高いものであったが、50mm厚はさらにスマートでシンプルなデザインを可能とし、木造の屋根をはじめとする軽やかな日本のデザインの展開や、多様な用途の活用が考えられる。シーズ（ニーズに対応してつくられたものではないが、開発されることで便利になるパソコンのような作り手側からの需要喚起）から展開する典型的な素材であり、今後出現するであろう優れた活用事例が期待されます。

#### ●ニーズに対応した多様なオプションバリエーション

地域の風土や特性、財政事情等に応じて追加オプションの設定が増え、夏場の暑い場所でのミスト設置や、壁面・屋上緑化とのセットでの自動灌水装置、省エネタイプのLEDやソーラーパネル設置など、多様なバリエーションを可能とすることは、ユーザーや事業主体の事業目的に適切に答えられる良いシステムです。

#### ●良い素材も料理人と提供方法により違ってくる

良い素材は食べてもおいしいものが多くあるが、それに甘んじて料理人が腕を磨かないと、目利きはできるが料理は二流になってしまいます。優れたデザイン事例を数多く出していくためには、専門家等とのコラボレーション機会を増やしていただき、デザインとしての昇華を期待したい。具体的には、100mmパネル時代からの課

題であったジョイントのデザインの向上が重要です。また、LEDの小型化や電力負担の軽減から、多用な照明デザインを可能とするが、照明の専門家とともに、間接照明をはじめ、心地よい夜間照明を実現していただきたいと思います。

以上のことは、オプション製品も含めて商品化させる早い段階で、専門家と社内技術者・デザイナーとのコラボレーションを行うことが望ましいと考えます。専門家も業務としての参加と、研究開発としての参加など多様な参加方法が考えられます。

専門家集団であるJUDIは、このようなコラボレーションに適する人材が豊富であり、我が国の都市環境デザイン向上に一肌脱いでくれる専門家が多いことから、今後ともコラボレーションを進めていきたいと考えます。よろしく申し上げます。



---

## 会場からの声

---

### ●トータル的な取組みに期待

- ▶ 他素材も入れた総合設計力の向上は良いことと思う。頑張ってもらいたい。
- ▶ 様々な要素を適切にまとめている。プレゼンにあつたようにデザインとのコラボが必要。
- ▶ 発展性があり、今後期待できると思う。グリーン緑化が面白いと思った。
- ▶ 『スマート』をコンセプトとして、それを実現する為に技術を使ったという印象である。
- ▶ アルミパネルだけではなく、トータルコーディネートしているところが時代の流れに対応している。
- ▶ 基本のシステムとしては、評価できる。太陽光パネルと蓄電池の組合せによってさらに多機能になっていくと思う。その時にもデザインを配慮して頂きたい。
- ▶ 岐阜駅前の照明まで合わせたトータルな取組みは良いと思う。

### ●今後の課題

- ▶ 考え方は良いがコスト的にどこ辺りを目指しているのか？
- ▶ 公共工事において価格の競争力は。
- ▶ システムとして一つの既製品にしていく方向性は疑問（あまり魅力を感じないのだが…）。
- ▶ ちょっと座れるとか、情報機器を組込むとか、何かもう少しサービス機能はないだろうか？
- ▶ 特注に対して曲線部等、どこまで対応可能かが気になる。

三協立山アルミ株式会社

## 『新型バスシェルターの開発』

発表者：杉浦 恵／パブリックエクステリア部パブリックSE課  
 コメンテーター：松本 篤／愛知産業大学

## 1. 製品概要

## (1) 高さを変えた2段屋根

今回ご紹介する新型バスシェルターは、バスと歩行者のそれぞれの高さに合わせた2段屋根タイプのシェルターです。バス用の屋根は高さ3.4mに、歩行者用の屋根は高さ2.8mに設定しています。歩行者用屋根の下面には、後から行き先案内等の吊り看板が取り付けられるよう、建築限界の2.5mに0.3mプラスした高さ設定にしました。

## (2) アルミとスチールのハイブリッド構造

この製品は、柱の芯材に高強度のスチール材を、その他の部分は軽量かつ耐候性に優れたアルミ材を使用したハイブリッド構造です。



新型バスシェルター-1

## 2. コンセプト

## (1) 構造美

開発を行うにあたっては、2つのキーワードをコンセプトに進めました。

1つ目のキーワードは『構造美』です。梁などの構造材をあえてあらわにし、美しく見せています。そうすることで、意匠ありきではなく「意匠性」と「構造」、「施工性」をトータルに満足するバスシェルターに仕上げました。

## (2) メンテナンス性

2つ目のキーワードは『メンテナンス性』です。

昨今、バスシェルターのような公共物件では、維持管理費を捻出することが大変難しくなっています。そこで、維持管理費を抑えられるよう、メンテナンスフリーやメンテナンスのし易さにも注視して開発を行いました。



新型バスシェルター-2



コンセプト

### 3. 製品特長

#### (1) スタイリッシュなデザイン

意匠は、細部までこだわったスタイリッシュなデザインにしています。屋根形状は、梁をあらわにしたことで、厚さ100mmの薄型かつシャープなデザインを実現しました。一方、屋根を支える柱は見込み方向500mmの幅広設計で、どっしりとした存在感を持たせると共に曲線基調で歩行者に優しい印象を与えるように配慮しています。配線や雨樋も全て柱に内蔵していますので、すっきりとしたデザインで、破損の心配もありません。軽量感のある薄型屋根とボリューム感のある柱の対比で、全体として安定感がありながらスタイリッシュなイメージにまとめました。

また、構造材の結合部には、あえて本体色とカラーを変えたアルミ鋳物を使用し、ワンポイントアクセントとしています。

#### (2) LED照明

照明は、省エネかつ長寿命でメンテナンス性に優れたLED照明を使用しています。夜の意匠性にもこだわり、一直線に配置したシャープな光りのラインが、通路を優しく照らしてくれます。

#### (3) バリエーション

最初にご紹介した2段屋根タイプのバスシェルターの他にも、部材に汎用性を持たせることで、豊富なバリエーションを可能にしています。上吊りタイプや両支持タイプなど、バスシェルターとしてだけでなく様々な用途にお使い頂けると共に、複数のタイプを組み合わせ、空間をコーディネートすることも可能です。

#### (4) メンテナンス

バスシェルターは主に公共物件で用いられる為、落書きや貼り紙を簡単に除去できる「マジックアート」という塗布材を採用しました。スプレーやマジック等の落書きは、ガムテープを貼り付けて剥がすとガムテープと一緒に落書きが剥がれます。貼り紙は完全に付着しないようになっており、簡単に剥がせます。また、工場場で塗布できる為、品質も安定しています。耐汚染性にも優れており、雨筋汚れなども付着しにくく、長期にわたり美観を維持できます。



製品特徴 (スタイリッシュデザイン)



製品特徴 (LED 照明)



製品特徴 (バリエーション)



製品特徴 (マジックアート)



#### (5) ノックダウン品

この製品は、パーツ点数が少ないことから、現地組立でも容易と判断し、ノックダウン品としました。ノックダウン品とすることで、パーツ交換が容易にできる為、現場作業中や完成後に万が一破損しても、部分的に修復することができます。更に、製品代、輸送費の削減によりコストダウンにもつながっています。

### 4. 技術構築

#### 分析と検証

今回開発を行うにあたっては、ご利用者に安全で快適にご利用頂くために、試作体を制作しての検証や、シミュレーション解析による品質確認を行っています。例えば、LED照明は、効果的に歩行者を照らす為の照度分布の検証を行いました。

試作体の組立て検証では施工マニュアルを作成、暴露試験による積雪時の検証も行っています。

構造シミュレーションによる解析では、十分な強度を確認しています。

### 5. 施工例

#### 埼玉県越谷駅東口駅前交通広場

埼玉県越谷駅東口駅前交通広場のバスターミナルに、新型バスシェルターが採用になりました。

1基の全長が13m、柱ピッチ4mの2段屋根タイプのバスシェルターです。屋根部分はシルバー色に、柱部分は濃グレーに色分けし、ツートンカラーとしています。柱に濃グレーを配色したことで、柱の重量感が増し、屋根の軽快さが更に際立っています。スタイリッシュに仕上がったバスシェルターが空間に溶け込み、先進的なイメージを与えています。

今後も、ご利用者様の立場に立った商品開発を行い、よりよい社会のために貢献して行きたいと考えております。



製品特徴（ノックダウン品）



技術構築（施工確認）



施工例

 三協立山アルミ株式会社

担当：山谷 清

住所：東京都新宿区西新宿6-24-1 西新宿三井ビル16F

電話：03-5909-4620

メール：k-yamatani@sthgd.co.jp

URL：http://www.sankyotateyama-al.co.jp

## 総評

松本 篤／愛知産業大学



### 新型バスシェルターの開発について

#### ●人と車のインターフェースとしての二つの構え

今回杉浦恵氏がプレゼンテーションされた新型バスシェルターは、JUDIメンバーによって設計され、現場がまさに展開中のものである。そのため、カタログに載るような、製品としてこなれた内容にはまだ至っていないが、その分、設置される場所の風景との折り合いや満たすべき機能、コスト調整などの苦勞が垣間見られ、今後の展開が期待できる、新鮮な製品であった。

実現されたバスシェルターは、バスが止まる車道に向かってと利用者が待つ歩道側の双方に向かって、高さの違う屋根面が二つの構えを見せるデザインである。歩行空間と車両空間をつなぐ閾としての二つの構えは、共通の柱を手がかりに、特に利用者の視線からは丁寧な納まりで設計の意図を実現しており、あわせて、必要なバースの数や車両によって、その長さや高さの組み合わせ、変更が無理なくおこなえる汎用性を持つ。また特殊な構法や材料を避けた構成は、コストだけではなく、パブリック・デザインに求められるある種のストイックな面も持ち合わせており、デザイナーと協同して優れた製品を実現する、経験豊かな三協立山アルミ(株)の企業としての力量を感じさせるものである。

#### ●沿道景観への溶け込みと、安心のよりどころとしての視認性

特に地方都市では、バス利用は重要な交通手段である。その利便性向上による自動車利用から公共交通への交通手段の転換は、都心への過剰な流入交通や駐車場需

要の減少を通して、中心市街地の景観形成に寄与するところが大きく、バス利用に関わる環境の整備の重要性は増している。

市街地景観はその多くが沿道（街路）景観であり、バスシェルターは幹線道路に設置される街路灯や信号・標識柱、ガードレールなど多様なファニチャー類とともに統一感のあるデザインが求められる。

一方でバスシェルターは、夜間ではその存在が利用者へ安心感を与えるものであり、沿道景観への溶け込みだけではなく、一定の視認性も、求められる大切な機能である。本製品は夜間の照明効果にも十分配慮されており、特に灯りの少ない地方都市の郊外部などでも有効に機能するものと思われる。

#### ●今後へ：しくみとしてのデザイン

すでに検討されている事項も多いと思うが、たとえば色彩や素材感の調整、壁面など緑化への対応、情報拠点としての多機能化、ソーラー電源による自立化など、設置場所によって求められる条件は多様である。今回の製品は、単体としての完成度に加え、様々な展開を可能にする「しくみ」を実現していることの評価が高く、今後が期待されるものである。

## 会場からの声

### ●デザインと機能性

- ▶ デザインはシンプルでとても良いと思う。用途はかなり広がりがあると思う。
- ▶ デザインに工夫をしていることは評価するが、カバーリングされた意匠はやや疑問。いま一步の軽快さが欲しい。
- ▶ 機能性が高く、利用者に優しいと思う。できれば軽快なタイプがあっても良いかと思う。
- ▶ 景観に配慮したシェルターはそれ以外にも対応できそう。
- ▶ 柱の中に配線や雨どいを入れている為に、断面的に大きく感じる。もう少しスレンダーにすると良いと感じます。場合によっては、配線等を無理に入れない方が良いのでは？
- ▶ ノックダウン式ということで施工後の部材交換が可能ということは、今の時代に合っているのではないのでしょうか。
- ▶ マジックアートは素晴らしい。技術的なことをより知りたい。

### ●今後の課題

- ▶ ユーザー視点でのものづくりをもっと進めて頂きたい。
- ▶ 特に目新しさが感じられなかった。
- ▶ バスシェルターの場合、行先案内やサイン設置状態等の写真も紹介してあるとよい。
- ▶ 夜間の視認性と昼間の景観への溶け込みの兼ね合いも今後みてみたい。



株式会社コトブキ

# 『豊かな自然景観をわかりやすく伝える立体地図サイン（観光サイン）』

発表者：藪本 浩次／営業企画室、岡 磨理絵／SF・サイン設計室  
 コメンテーター：中井川 正道／F I T環境デザイン研究所

## 1. 観光圏と立体地図サイン

### (1) なぜ観光か

昨年策定された国の経済成長の基本方針である新成長戦略2010の中で「観光立国・地域活性化」が大きく掲げられました。

そのために、より経済波及効果の高い2泊3日の滞在型観光の確立を目指し、観光庁が主導する「観光圏整備」が平成20年に創設されました。観光圏整備では、観光地の魅力をより高め、その魅力をいかに伝えるかが重要な要素になっています。



観光圏イメージ図

### (2) 観光圏のイメージ

観光圏整備では、ひとつの「観光地」ではなく広域エリアにまたがった市町村が連携し、互いのもつ観光地や観光資源をネットワーク化することで周遊観光を促進します。このことにより2泊3日滞在型観光を実現し、地域の活性化につなげることが目的となります。

平成23年4月現在、全国で48地域が観光圏認定を受けて、観光圏整備に取り組んでいます。その48地域のほとんどが豊かな自然景観をもつ地域です。

一方で弊社は、観光圏のみならず日本の観光地は豊かな自然景観を持っているにも関わらず、その魅力をまだ十分に国内外の観光客に伝えられていないのではないかと考えました。



立体地図サインの有効性

## 2. 立体地図と観光サイン

### (1) 立体地図の有効性

そこでご提案するのが「立体地図サイン」です。立体地図は、広域の自然景観を通常の地図よりも、よりリアルに直感的に分かりやすく伝えられる地図となっています。数値地図データをベースに作成してあるため、地形の細かい表現が可能となり、特に自然豊かな観光地、観光圏のサインに有効であると考えます。



立体地図サインによる四季の表現

## (2) 立体地図とは

弊社立体地図の特長として、10mメッシュで作られた標高データをベースに、独自調査に基づく情報を加えることにより、正確で忠実な高低差を表現しました。

さらに、データを常にアップデートしていますので最新データをいつでもご提供することができます。

また、日本全国のデータを網羅しているため、データ入手からトレース、ベース図作成という従来のやり方では1ヶ月以上かかる作業を、全国どの場所でも10営業日ほどで対応可能になりました。

そして最大の特長は、地表のテクスチャー（表現）を植生や市街地などの属性で塗り分けられるようになったことです。これによりリアルな表現ができ、それを応用した四季の表現も可能になりました。

## (3) 納入事例紹介

今年、北海道の占冠パーキングエリアに観光サインを2台納入しました。雄大な自然を表現するにはいかに立体地図が有効かがお分かりいただける事例となっています。

## 3. その他の活用方法

### (1) その他の観光メディアとの連携

観光サインに用いた地形データをパンフレットや携帯端末、スマートフォン、デジタルサイネージなどへ転用することによって、よりアピール度の高い観光圏整備に貢献できるものと考えています。

### (2) 広域防災マップ

今年は自然災害に多く見舞われたこともあり、ハザードマップはますます必要とされることになるでしょう。そこに立体地図を用いると、地形が直感的に理解できるため、山間部の土砂災害危険区域や、海拔の表現から津波到達区域の認識が容易になり、一刻を争う避難時に有効活用できると考えています。

## 最後に

2011都市環境デザインモニターメッセにおいて、パネリストを務めました弊社 藪本 浩次 が10月25日に急逝いたしました。ここにあらためまして生前のご厚誼に深謝いたしますとともに、今後とも一層、ご指導ご助力を賜りますようお願い申し上げます。



従来の地図表現の場合



同じ場所を立体地図により表現した場合



立体地図のその他の活用方法



株式会社コトブキ

担当：中野 竜

住所：東京都千代田区神田駿河台1-2-1

電話：03-5280-5410

メール：nakano\_r@kotobuki.co.jp

URL：http://www.townscape-net.jp

## 総評

中井川 正道 / F I T 環境デザイン研究所



### 豊かな自然景観をわかりやすく伝える立体地図サイン

立体地図は、風景画のように見飽きない楽しさがある。おそらく、描き込まれた地図の中に自分が経験した風景との共通点や、憧憬を見るからであろう。そんな立体地図の可能性について考えてみた。

#### ●観光地から都市の立体地図へ

立体地図は、特に鳥瞰図的表現に優れている。地形・河川・山・森林・耕地・道路・鉄道・都市などの様子が手に取るように理解できる。また、四季の変化や霧の様な表現も可能である。このように豊かな表現力をもつ立体地図は、都市サインにおいてもその表現力が有効に働くと考えられる。都市には、商業地区・歴史地区・公園・スポーツ施設・文化施設など個性的な場所がたくさんある。加えて、個人の生活・地域や都市の変遷などの情報も詰まっている。それらを立体地図に表現できれば、見飽きることのない魅力的なサインになるのではないだろうか。確かに、都市の場合は、正確な位置・距離・方向の伝達が求められるため、絵の様な立体地図には向かないと思われるかもしれない。

しかし、平面図としての正確な地図もどれほどの人が理解できているのかはわからないし、立体地図は図ではなく空間そのものである。見た目は写真に近く自然で、読むための知識は不要な表現であり、見慣れてくれば、上記の課題も解決できると思う。

人の生活・歴史の変遷が重なり合う都市こそ、立体地図の魅力的表現が見合うように思う。

#### ●時代に逆行し、まちの必需品へ

すべての情報がインターネットを通して個人のパソコンや携帯に届く、情報を求める人のみが情報を手にする時代である。そのような世の中の動きとは正反対なのが、公共サインの存在である。

公共サインは、見る必要のない人にも目に入る。現代では時代遅れで、不要なものとも映るかも知れないが、立体地図の美しい表現は、まちのもつ豊かな表情を映す鏡の様な存在として、新たな価値を得られるような気がする。たとえば、観光客にまちの美しさや歴史をアピールしたり、学校に設置して、子供の記憶に故郷の姿を残したりすることができる。また、表現によっては、芸術的な作品としてまちを飾り、市民がまちを誇ることもできるのではないだろうか。このように立体地図は単なる案内サインの枠を超え、まちの記憶や美しさを醸し出すものとして、まちに必要なサインとなるように思う。

#### ●表現の限らない向上を

日本は自然や歴史に恵まれた美しい国である。その美しさを認識する新しい方法の一つとして、立体地図が大きな役割を果たす。そのためには、今以上の芸術的表現をもつ必要がある。

今後、立体地図がサインからタウンアートとしての価値を獲得し、発展することを期待する。

最後に、(株)コトブキの藪本浩次さんがこの発表の約3週間後にお亡くなりになりました。この場をお借りして、これまでのJUDIに対する功労に感謝の気持ちを表するとともに、謹んでお悔やみを申し上げます。



## 会場からの声

### ●今後の発展に期待そして課題

- ▶ ハザードMAPのグラフィックスとして使えるのではないかな？
- ▶ 非常に高い可能性を感じた。独自のデータとの事だが何をベースにしているか知りたい。観光という着目点も良い。
- ▶ 市町村の境目を取り払った表現（3D）は様々な用途が考えられてとても良いと思います。
- ▶ 平面地図に比べてかなり情報量が増えることが良く分かった。用途も色々ありそうで面白い。
- ▶ デジタルサイネージは可能なのでしょうか？楽しみです。
- ▶ 日本は自然豊かなので、立体地図は有効だと思う。
- ▶ 札幌広域観光図では、予算不足のために停滞している。観光だけでなく、防災マップ等にも活用できるのではないかなと思う。
- ▶ デジタルサイネージ上でのインタラクティブ表示を次のステップで考えられては？
- ▶ 距離のゆがみはあるのかな？
- ▶ 鳥瞰図によって初めて地域のイメージが（昔の吉田初三郎の絵が果たした役割）共有される場合には、大変有効。
- ▶ ナジミみたいな画像と合わせたような案内板ならいいのではないかなと思う。
- ▶ 立体地図は「観光立国」を目指す我が国にとって、高いニーズが考えられる。短時間に観光地の情報が得られるので、ぜひ広めてほしい。
- ▶ 立体地図の魅力や展開をもっと語った方がいいのではと思いました。
- ▶ 災害対策としての利用は、有効だと感じる。
- ▶ 動画でスマートフォン対応などパーソナル・サインの方向に展開はしないでしょうか？

伊藤鉄工株式会社

## 『ソーラーLEDフットライト:TACO-6』

担当者：浅山 茂樹

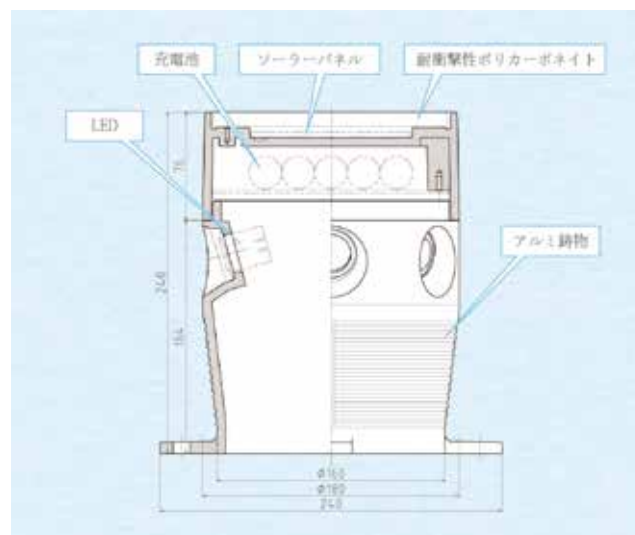
## 1. TACO-6の機能

## (1) 消費電力0Wのフットライト

小規模なソーラーパネルと充電電池による自己発電システムを実現しており、ユニットとしての消費電力は0Wである。夕暮れに日光が弱くなることを、ソーラーパネルの電圧から感知することで自動的に点灯する。外部からの電力供給を必要とせず、停電時などでも発光できるため空間の防犯・防災性を高めることができる。

## (2) TACO-6の構造

車道の路面埋め込み照明器具と同等の耐久性を持っているため、対候性、壊れにくさ、結露のしにくさが特徴といえる。躯体にはアルミAC7Aを採用しており、耐食性にも優れる。天板は10mm厚の強化ポリカーボネートであり、散弾銃の貫通も防ぐ。



図面

## 2. TACO-6のデザイン

タコを想起させるような曲線的な優しいデザインとし、6個のLEDが点灯していない昼間でも愛嬌のある表情を持たせた。ソーラーパネルと充電電池を内蔵することにより、自ら発電し発光する。配線が不要なため、フレキシブルな設置が可能である。アルミ鋳物の躯体は片手で運べるほど軽く、固定せずに設置すれば、TPOに応じた広場の好きな場所に持ち運ぶこともできる。強度があるため、利用者がスツールとして腰を下ろして休むことも可能である。上に人が座り、日光が遮断されるとソーラーパネルが反応してLEDが発光する。



設置事例



伊藤鉄工株式会社

担当：浅山 茂樹

住所：埼玉県川口市元郷3-22-23

電話：048-224-2744

メール：asayama@i-g-s.co.jp

URL：http://www.i-g-sco.jp

丸一鋼管株式会社

## 『安全・環境配慮型開口部と新しいデザインテーパーポールのご提案』

担当者：佐藤 善彦／特品事業部 東京特品営業部

## 1. ハイパー開口部

## (1) 溶接レスによる一体型構造

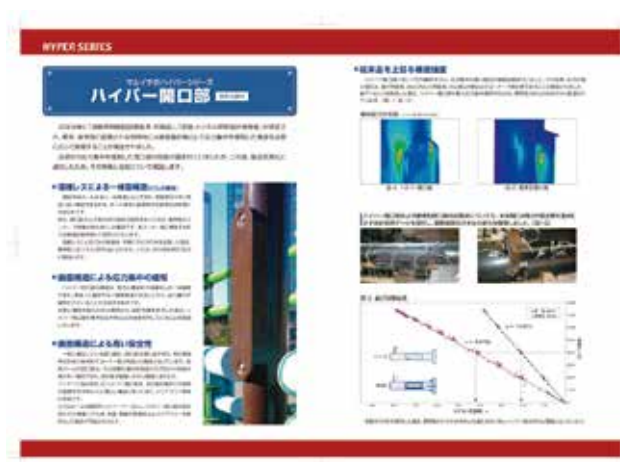
補強枠はポール本体と一体構造で溶接部がない構造であるため、ポール本体と補強枠の交差部分は非常になめらかです。

開口部の上下部分は円弧状の曲率をもっており、標準型のコーナーRを最大限大きくし、各コーナー部に発生する応力を緩和する耐振構造となっています。

## (2) 曲面構造による高い安全性

照明ポールの開口部は、歩道面から750mm前後の高さが一般的で、歩行者が接触しやすい環境にあります。

コーナーに丸みを持つハイパー開口部は、歩行者が触れても怪我しづらい、人に優しい構造となっており、バリアフリー対策としても用いられています。



## 2. ミラクルテーパーポール

## (1) テーパーポールの新しいカタチ

最大の特長は、従来の四角形、六角形のテーパーポールと違い、ストレート部が四角形、六角形なのに、その上のテーパー部断面は丸のままである点です。

このため、角から丸に変化する独特のシェイプが生まれました。まるで鉛筆のようにエッジのきいた不思議（ミラクル）なシェイプです。

## (2) 親しみやすく新しいデザイン

印象的な三角模様は「だんだら模様」と呼ばれ、古くから親しまれてきました。その風合いは“和モダン”として、今なお斬新です。

デザイン灯具との相性も良いため駅前広場や歩道の照明におすすめです。



特品事業部 東京特品営業部

担当：佐藤 善彦

住所：東京都中央区京橋1-1-1

電話：03-6214-1001

メール：sato.yoshihiko@maruichikokan.co.jp

URL：http://www.maruichikokan.co.jp



日本鑄造株式会社

## 『歴史を伝承し未来を創造する景観製品を提供する』

担当者：松本 禎之／エンジニアリング事業部 鋼構造営業部

## 1. 空間と時間に向き合う「ものづくり」

## (1) 鑄造品を軸とした多種素材によるデザイン対応

日本鑄造のものづくりの精神は、「過去の歴史や背景を尊重し、現代の多様な価値観を反映する」。

鑄造品を軸としながら多種の素材や機能を複合させ、現代のあらゆるデザインニーズにお応えいたします。表面的な現代風のものづくりではなく、後世に受け継がれながら風格を増してゆく、そんな現代的製品を提供したいと考えています。



横浜市象の鼻パーク 鑄鉄スクリーンパネル

## (2) 歴史的建造物の修復と復元

歴史的価値のある建造物遺産の修復や復元は、将来へと伝承してゆくべき意義深く重要な取り組みです。日本鑄造では永年の豊富な経験を元に、「歴史伝承」のための修復・復元作業を実践いたします。

国の重要文化財に指定された新潟市の「萬代橋」修復検討においては、昭和初期に造られた鑄鉄製の橋上灯と橋側灯を架橋時の状態に復元するために、当時の図版や様々な文献を分析し、また、現代の技術を駆使して「ものづくり」に向き合いました。



架橋当時の照明が復元された萬代橋の夜景

## 2. 景観に配慮した防護柵「リゾ・シリーズ」

## 景観に配慮した防護柵

2006年度にグッドデザイン賞を受賞した「リゾ・シリーズ」は美しい景観創造への貢献を目標に開発した標準防護柵シリーズです。

前面板の無い独特なT字型の支柱断面形状とSUSワイヤーロープによる補助部材が、切れの良いシャープなフォルムと優れた透視性を実現します。

景観の主役である「柵の背景に広がるここしかない風景」を大切する「リゾ・シリーズ」は、標準47品種を基本に、素材や形状の様々なアレンジに対応いたします。



旭川市氷点橋 高欄兼用車両防護柵

## 日本鑄造株式会社

担当：松本 禎之

住所：神奈川県川崎市川崎区白石町2-1

電話：044-322-3990

メール：y\_matsumoto@nipponchuzo.co.jp

URL：http://www.nipponchuzo.co.jp.

株式会社アーテック

## 『参考出品～EBルミネサインパネルの紹介』

担当者：小早谷 信之／景観材部門

## 1. EBルミネサインパネルの概要

表示パネルのベース部分に蓄光効果を持たせることにより、屋内外問わず、消灯時・停電時といった暗がりの中で少しでも長く、サインとしての機能を果たすことを目標に開発を進めているEBルミネサインパネルです。

従来、様々な公共施設や民間施設・地下鉄駅などに設置されている蓄光誘導板は、照明装置の光を吸収しその残光を利用したサインですが、屋外においても、ソーラー蓄電や省電力LED灯具の普及により、1次側電源を必要としない夜間光源との組み合わせが可能となり、緊急時の有効性は高いと考えております。

また、EBサインパネルの最大の特徴である耐候性と耐久性は、蓄光層を含む印刷面全体を長期間保持（約10年）するため、いつ起こるか分からない災害への「確かな備え」としてこれからのまちづくりに貢献できるものと考えております。

## 2. EBルミネサインパネルの特徴

## (1) 屋外での使用が可能で

表面のEBコートが蓄光層と印刷層をガードするため、沿岸部における使用でも、潮風や塩害による腐蝕やはく離の心配はありません。

## (2) 安全性

焼成品と違い、樹脂であるため万一の損傷時にも表面が鋭利に粉砕しませんので指を怪我をするようなことはありません。

## (3) EBの基本性能は踏襲

タバコの揉み消しや押付け程度の熱で表層が炭化することはありません。ラッカースプレーや油性マジックなどのいたずらや油性汚れも、中性洗剤または、洗浄用剤で白濁せず簡単に洗浄可能です。

昼間時



夜間発光時



断面図

トップコート (EBコーティング)

視覚情報 (ダイレクト印刷)

蓄光層

アルミまたはSUS基板

残光輝度試験表 (屋内)	
経過時間(分)	残光輝度(mcd/m <sup>2</sup> )
1	1700
5	660
10	370
20	200
30	130
60	60

試験条件 (JIS Z 9107 規格準拠)		
励起	D65 常用光源	200 lx 20分
使用機器	D65 常用光源	F65D-A (スガ試験器)
	照度計	IM-5(TOPCON)
	色彩輝度計	BM-5A(TOPCON)


**株式会社アーテック**

担当：小早谷 信之

住所：東京都豊島区東池袋1-47-3 17山京ビル407号

電話：03-3985-0095

メール：nobu@e-artec.co.jp

URL：http://www.e-artec.co.jp

昭和鉄工株式会社

## 『開放性とスタイリングを追求した防護柵の開発』

担当者：三輪 強／都市景観部

## 1. オープンな街路景観を目指した高機能防護柵

都市の街路空間は様々な設備に埋めつくされ、煩雑で狭苦しい印象を受けることも少なくありません。

防護柵も「囲う」という目的を主張しすぎるものも多く、狭苦しさを感じさせる要因の1つともいえます。

そこで、機能性や拡張性も高く、フレキシビリティと都市空間に相応するスタイルの横断防止柵・転落防止柵を考えました。

## (1) 開放性の高い防護柵

存在感をおさえた新しいスタイルの支柱形態によりこれまでになく高い開放感を実現。これも高い強靭性を誇るダクタイル鋳鉄だからこそ可能となりました。

## (2) 展開性

都市景観を構成する街路・公園・建築外構などあらゆるシーンに調和します。縦断勾配に自在に対応できる機構や、ビーム形状、チェーンの選択も可能にする等、高いフレキシビリティも有しています。

## 2. 進化し続ける防護柵

アーバネクスシリーズの防護柵は一環として開放性とスタイリングを提案してきました。近年、特に自然景観を遮断しない防護柵のデザインが求められるようになってきました。そこで「自然を透し、都市に映える防護柵」を次なるステップとして目指しました。

## (1) 多様な設置環境にも対応

多様なストリートファニチャーに展開できる3WAY レールマウント方式を採用。フロント・リヤそしてトップにレールの取り付けが可能となり街路、建築、公園等あらゆる環境でも最適のデザインを選べるようになりました。

## (2) 機能的でより美しく

これまでのスリットピラーデザインを受け継ぎなが

ら、更に鋳物の造形性を最大限に活かした形状へと進化させ、優しく柔らかな印象の中に力強い豊かな量感を感じさせるフォルムへと展開し取り付け構造や多彩なクラウンオプションを用意し機能面も充実させています。



FS-TYPE (開放性と展開性)



FF-TYPE (多様な設置環境に対応)

昭和鉄工株式会社

担当：三輪 強

住所：東京都大田区南六郷三丁目10-16 4

電話：03-3730-1066

メール：t\_miwa@showa.co.jp

URL：http://www.showa.co.jp





しあわせな風景×デザインJAPAN  
JUDI 20th Anniversary

# 2011都市環境デザイン モニターメッセ

## 開催の主旨

JUDI 都市環境デザイン会議の「都市環境デザインモニターメッセ」は、過去 19 回開催され、多くの製品や技術開発事例等のプレゼンテーション、モニター批評等を行ってまいりました。これまでに発表された製品等は 240 例以上に上ります。

今回のモニターメッセは JUDI 創立 20 周年記念事業の一環として、新技術開発や新製品等の発表に加え、これまでの製品レビューを踏まえ、これからの都市環境デザイン製品に対しての意見交換、交流の場としたいと考えております。このため、今回のモニターメッセでは、田中一雄氏による基調講演「ストリートファニチャーからパブリックデザインへの歩み」、シンポジウム「パブリックデザインの今後の展望」を開催します。また、20 周年記念事業として、第 1 回 JUDI パブリックデザイン賞の授賞式を行います。

## モニターメッセ開催概要

**名称** 2011 都市環境デザインモニターメッセ  
**会場** 日本大学 お茶の水キャンパス 理工学部 1 号館 2 階大会議室  
東京都千代田区神田駿河台 1-6 (裏面の案内図をご覧ください)  
**日時** 平成 23 年 10 月 8 日 (土) 10 時開場

### プログラム

**基調講演** 10 時 30 分～12 時 GK デザイン機構 田中 一雄 氏  
テーマ「ストリートファニチャーからパブリックデザインへの歩み」

**シンポジウム** 13 時～14 時 30 分

テーマ「パブリックデザインの今後の展望」

パネラー：田中 一雄 氏 (GK デザイン機構)

中野 恒明 氏 (芝浦工業大学)

天野 光一 氏 (日本大学)

長町 志穂 氏 (LEM 空間工房)

藪本 浩次 氏 (コトブキ) ほか

コーディネーター事業委員長 横川 昇二

**モニターメッセ** 14 時 40 分～17 時 20 分

ポスターセッション 14 時 45 分～

モニターメッセ 15 時 40 分～

**パブリックデザイン賞授賞式** 17 時 30 分～18 時

懇親会 18 時～20 時

主催：JUDI 都市環境デザイン会議 事業委員会

お問い合わせ：Tel 03-3812-6664 E-mail judi@japan.email.ne.jp

懇親会に参加ご希望の方は、事前にお申し込みください。

懇親会費 (予定) 会員 3,000 円、一般 4,000 円

申込み先：FAX03-3812-6828 か E-mail: judi@japan.email.ne.jp

問合せ：TEL03-3812-6664 (月、水、金の 10:00～17:00)

# 第1回 JUDI パブリックデザイン賞

■ 開催趣旨・選考結果

■ 受賞作品



JAPAN URBAN DESIGN INSTITUTE

## 開催趣旨・選考結果

### 1. 趣旨

都市環境デザイン会議（JUDI）は、2010年をもって設立20周年を迎え、1993年から始まったモニターメッセも19回を数えます。その間に発表された製品等は250例余り、参加企業数も70社近くに上ります。

この間に発表された製品の中には、今日都市環境デザイン製品のスタンダードとなったものも少なくありません。また、JUDI会員の作品も数多く整備されてきました。しかし、都市デザインや景観に対する社会的な関心が高まる一方で、社会や経済環境の変化に伴い、国や自治体のまちづくりや景観事業も減少し、関連する製品メーカー、施工業者も厳しい状況にあります。

このような状況を踏まえ、都市環境デザイン、パブリックデザインの向上に貢献している企業・団体等の活躍を社会に広め、もってその取組みを支援することを目的に、その活動や実績を顕彰する「JUDIパブリックデザイン賞」を創設することとしました。

### 2. 表彰対象

① 都市環境デザイン、パブリックデザインの向上に寄与した以下のものとします。なお、表彰対象はあくまでも「製品」、「空間」であり、設計者、施工者、製造者等を対象とするものではありません。

- 1) 製品部門：舗装、照明、柵、緑化、ストリートファニチャー等の製品（既製品、標準品、特注品等）
- 2) 空間部門：ポケットパーク、歩車道、施設内空地等の空間

② 表彰の対象は施工事例があるものに限定します。

③ JUDIパブリックデザイン賞は、製品部門から「製品賞」、空間部門から「空間賞」を授与します。

この内、特に都市環境デザイン、パブリックデザインの向上に多大な貢献をしたと評価されるものを「大賞」とします。

この製品賞、空間賞の他に、各ブロックの地域性や魅力を引き出したものについて「ブロック賞」を授与することとしました。また、社会的意味の高いもの、今後の展開が期待できるもの等について、必要に応じて選考委員が認めたものを「審査委員特別賞」として顕彰することとしました。

### 3. 選考方法

パブリックデザイン賞の選考は、事業委員会の中に「選考委員会」を設けて行いました。選考委員は、

JUDIメンバーの中から建築、土木、造園、パブリックデザイン等の専門家に依頼し、選考会議における討議によって各賞を選定しました。

- ・募集期間：平成23年1月～平成23年7月
- ・パブリックデザイン賞選考会議：平成23年9月17日  
選考委員長：横川 昇二（事業委員長）  
選考委員：中野 恒明（芝浦工業大学）  
天野 光一（日本大学）  
中村 伸之（㈲ランドデザイン）



### 4. 選考結果・講評

#### ■大賞・製品部門

##### ●Luminascape（ルミナスケープ）シリーズ

応募者：パナソニック㈱／須藤 和哉・伊藤 雅昭  
シリーズ製品としての全体的なシステムデザインに優れていることに加えて、時代の要請にあわせてLED化するなど成長してきた製品群であることを高く評価して大賞とした。今後、アジア市場への展開可能性も感じさせる。

#### ■大賞・空間部門

##### ●馬車道ガーデンストリート計画

応募者：㈱高橋建築都市デザイン事務所／幸地 俊一  
馬車道は横浜の都市デザインの先駆的事例である。その経年劣化したストリートファニチャーについて、古いものを尊重しながら新しくリニューアルするモデル的なデザインのあり方を示したことを高く評価して大賞とした。古典的デザインではあるが、消費されないデザインとしての価値を有する。



## ■製品賞

### ●TMS型ガードパイプ

応募者：神鋼建材工業(株)／鈴木 幸裕

景観に配慮した道路用の汎用品防護柵として最もスタンダードな製品となった。全国的に広く普及しており、道路景観の向上に寄与していることを評価して製品賞とした。

### ●景観に配慮したアルミニウム合金製橋梁用

ビーム型防護柵アスレール

応募者：(株)住軽日軽エンジニアリング／富岡 仁計

景観に配慮した橋梁用のアルミニウム合金製の汎用品防護柵として、従来製品と一線を画す製品である。全国的に普及が進んでおり、道路景観の向上に寄与していることを評価して製品賞とした。

### ●フォルメス（バスシェルター）

応募者：三協立山アルミ(株)／山谷 清

すべてをアルミニウムで構成したバスシェルターであり、素材へのこだわりがひとつの完成された製品であるとともに、メンテナンスの軽減を図ったことを評価して製品賞とした。

## ■空間賞

### ●アルカディア21住宅街区

応募者：(株)現代計画研究所／菊田 純一

街路と住宅外構とが一体的にデザインされている先駆的で数少ない事例である。巧みな高低差処理や街区中央への共有地配置など、全体的なデザインレベルが高いことを評価して空間賞とした。

### ●富山市 市内電車環状線

応募者：(株)GK設計／上田 孝明

交通を軸に新しい都市のあり方を再編成する試みとして、パブリックデザインとしてLRTのシステムを位置づけた取組みを評価して空間賞とした。今後の沿線の街並みへの波及効果に期待したい。

### ●博多駅博多口駅前広場

応募者：(株)アービカルネット／新田 裕司

完成直後であり、評価は難しいとの意見もあったが、大きな建築物に対するスケールや素材の使い方が優れていることから空間賞とした。

## ■ブロック賞

### ●東京地下鉄のサインシステム

応募者：アール・イー・アイ(株)／中村 豊四郎

錯綜する東京メトロ駅構内をわかりやすく案内する優れたシステムデザインの公共サインとして評価できることから、ブロック賞とした。

### ●渡名喜島 村道1号フットライト

応募者：琉球ブロック／木下 能里子

簡素ではあるが、場所の雰囲気をよく引き出しており、地域性が感じられる点が評価できることからブロック賞とした。

### ●小松駅前西口・東口広場

応募者：(株)住軽日軽エンジニアリング／鈴木 稔

雪吊りのイメージを駅前広場のシンボリック施設の意匠に反映した事例である。駅前広場としての意匠の必然性が議論されたが、地域性を空間のシンボルとして生かそうという試みが一定レベルで成功している点が評価できることから、ブロック賞とした。

## ■審査員特別賞

### ●Crystal（クリスタル）

応募者：TOSHIO SHIMIZU ART OFFICE／諫元 大輔

アート作品としてみるか、パブリックデザイン製品としてみるか、議論が分かれた製品であるが、今後の展開を期待して審査員特別賞とした。

### ●耐震地下駐輪場エコサイクル

応募者：(株)技研製作所／水戸部 正智・武内 隆政

不法駐輪を整理できる点で社会的に意味があるという意見と、ハードだけで解決する方向は今の時代に合わないのではという意見があったが、場所によってはきわめて有効な駐輪解決方法であるという点を評価して審査員特別賞とした。

### ●軽井沢レイクガーデン

応募者：(有)ユー・プラネット／栗原 裕

ひとつの空間を幾つもの空間として認識させる空間デザインや細やかなガーデンデザインなど、デザイン的に優れていることが評価された。しかし、有料施設であることがパブリックデザイン賞の対象となり得るかが議論となり、審査員特別賞とした。

## 大賞・製品部門

### Luminascape (ルミナスケープ) シリーズ

応募者：パナソニック(株)



Luminascapeはランドスケープデザインの新しい潮流に対応できるように、あかりの表現を全面に打ち出したモールライトのシリーズである。商品構成は“夜の光”と“昼のデザイン”を最適な組合せで、幅広く展開した。各パートシリーズ毎に、お勧めの空間を想定し、場の魅力を引き出す様々な配慮に基づいてデザインしている。

屋外景観照明器具が持つ二つの姿、夜の景と昼の景。この両面の在り方について徹底して追求するために、

- ①生活シーンを創造する光の表現へのこだわり
- ②場の個性を活かす多彩なデザイン構成へのこだわり
- ③周辺環境との調和へのこだわり

の3ポイントにこだわって商品開発を進めている。

ROND / ロンド



LEBITA / レビータ



LIGNES / リグネス



MOBILIA / モビリア



VERDES / ベルデス



FINEE / フィーネ



# 大賞・空間部門

## 馬車道ガーデンストリート計画

応募者：(株)高橋建築都市デザイン事務所

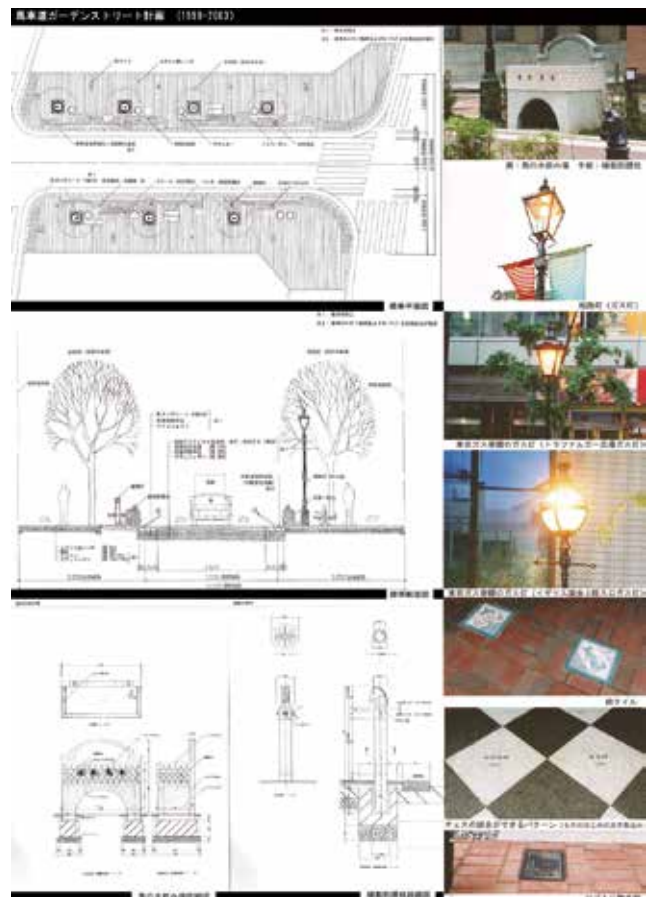
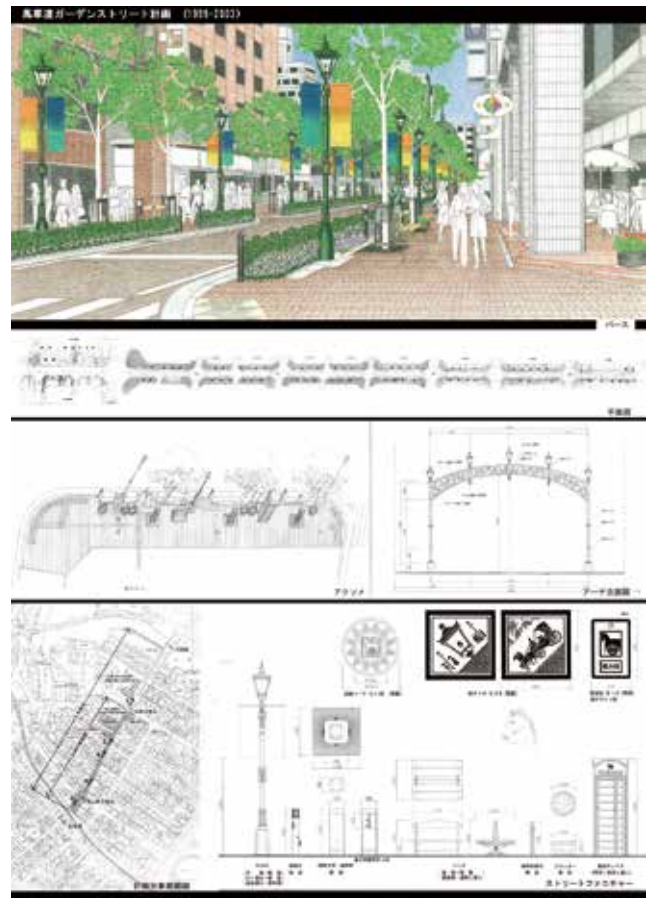


横浜の馬車道メイン通りは吉田橋から本町通までの約500m。開港時多くの西洋文明が移入し、馬車道には「かねの橋」のほか「乗合馬車」「アイスクリーム\*」「瓦斯灯」「写真館\*」「近代街路樹\*」「日刊新聞」等の「もののはじめ」がある。（\*印；モニュメントあり）

横浜市で始動した都市デザイン行政実践の中で、1976年完成のわが国初の既存街路をセミモール化した馬車道計画。その後、一連の吉田橋復元、馬車道広場（1978年）。四半世紀経ち馬車道整備第2期「馬車道ガーデンストリート（2003年）」を設計した。

道路、公園、広場、橋など土木やランドスケープ、ストリートファニチャーやパブリックアートのプロダクトデザインに関わり景観整備と歩行者空間の整備に力点を置いて総合的な仕事を続けてきた。

第1期から四半世紀を経てリニューアルしたもので、馬車道の方々、行政の人達と4年の歳月をかけソフトを研究。歴史、景観、地球環境保全とユニバーサルデザインを心がけ「ガーデンストリート」を指針とした。





## 製品賞

### TMS型ガードパイプ

応募者：神鋼建材工業(株)



1997年、旧建設省東北地方建設局が主体となって開発した車両用防護柵。(株)エムアンドエムデザイン事務所・大野美代子氏の基本デザインは、これまでの車両用防護柵の波板のガードレールとは異なり、車両側、歩道側からみた表現があり、パイプ状で形成されている。

神鋼建材工業(株)では、いかに基本デザインに近付けることができるか、人に優しい形状である事、且つ道路勾配・曲線に自在に対応できる施工性とコスト低減の構造を提案した。



### 景観に配慮したアルミニウム合金製橋梁用 ビーム型防護柵アスレール

応募者：(株)住軽日軽エンジニアリング



「美しい国づくり政策大綱」を契機として、道路景観全体の向上を目指すことを目的に「景観に配慮した防護柵の整備ガイドライン」がまとめられた。このガイドラインで掲げられた流れを受け、アルミニウム合金特有の押出型材による自由な形状や編肉断面を駆使し、高品質で汎用性が高く、軽量で安価な標準防護柵の開発を目指した。その結果、従来製品比約20%の軽量化に成功し、スマートで様々なシーンに溶け込む標準製品とすることができた。



### フォルメス (バスシェルター)

応募者：三協立山アルミ(株)



この製品は、川崎駅西口前に設けられたバスシェルターとして開発された。停留所としての機能性確保とともに、川崎市がめざす「まちづくりコンセプト」や「景観形成方針」等をふまえ、周辺との調和に配慮することを基本としている。

コーナー部のユニット化や、部材縮小・高剛性化のためのトラス構造・アルミ剛接合等の技術を組み込みながらシンプルなデザインに仕上げ、より周辺環境に対応しやすく、より汎用性の高い製品「フォルメス」として完成させた。



## 空間賞

### アルカディア21住宅街区

応募者：(株)現代計画研究所



1988年に、兵庫県、神戸三田・国際公園都市において開催された「北摂・丹波の祭典—21世紀公園都市博覧会」における展示企画「21世紀住宅展」は、来るべき21世紀に求められる住環境のあり方、まちづくりや家づくりの手法を実物展示したもので、博覧会后、一般に分譲されたものである。

道路と民地の擁壁、アルコーブ状のアプローチの前庭、共有の公園の低い擁壁、広場のすべてが、平面的にも立体的にも曲線状に連続し、厚さ100mmの桜御影石で構成され、敷地の境界がどこにあるのかわからないほどの一体感を呈している。



### 富山市 市内電車環状線

応募者：(株)G K 設計



富山市のまちづくりにおいては、今後の人口減少と超高齢化に備え、「鉄軌道をはじめとする公共交通を活性化させ、その沿線に住居、商業、業務、文化等の都市の諸機能を集積させることにより、公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくり」の実現を目指すこととした。

県道富山高岡線、大手モール、平和通りという特性の異なる3路線にまたがる整備に統一性を持たせるため、トータルデザインによるコントロールのもと全体のデザインが進められ美しい街並みが整備された。



### 博多駅博多口駅前広場

応募者：(株)アービカルネット



新駅前広場整備にあたっては、九州・アジアの玄関口にふさわしい、福岡・博多の魅力を象徴するような空間づくりが目指された。交通処理のみに特化した今までのような駅前広場ではなく、街の賑わいの核となり、街の文化を育むような、市民のための広場を創造することが目標となった。

市民のための広場を創り出すために、2つあった車両空間（タクシールール等）を集約して歩行者のための空間とし、また地下街への階段や換気口についてはできるだけ集約化を図った。



撮影：内藤正美



## ■ ブロック賞

### 東京地下鉄のサインシステム

応募者：アール・イー・アイ(株)



東京メトロの新サインシステムでは、表示の視認性向上、路線シンボルや駅番号を用いた簡潔な表現、案内内容と掲出場所のさらなる整理などを軸に、わかりやすさの向上を図った。

デザイン検討の重要視点として、高齢者や障害者を含む従来の利用者に加え、海外や地方からの観光客、美しい都市東京を求める生活者の3つをとらえ、利用者の視点でシステム基準を造り上げた。

続いて都営地下鉄も同様のサインシステムを導入した。サインの共通化は利便性を高めるものである。



### 渡名喜島 村道1号フットライト

応募者：琉球ブロック



渡名喜島は集落のほぼ全体が重要伝統的建造物群保存地区に指定されており、さんごの石垣とフクギの屋敷林で囲まれた木造赤瓦のまちなみがよく残っている。

その「渡名喜村伝統集落しまおこし事業」の一環として、2000年～2005年にかけて取り組んだのが村道のフットライト事業である。周囲を海に囲まれた渡名喜島は満天の星が評判なことから、集落内からも美しい星空が見え、同時に夜間の安全性も確保できることを目的に、これまでの防犯灯をフットライトに改善整備した。



### 小松駅前西口・東口広場

応募者：(株)住軽日軽エンジニアリング



小松駅周辺地域を対象とした「ふるさとの顔づくりモデル土地区画整理事業」における、小松駅の東西駅前広場を自由通路でつなぎ利便性を図ると同時に、新しい小松の顔を想像する再生計画である。

「ふるさとの顔づくり」のテーマである、多様な人々が触れ合う生活文化の拠点“アーバン・オアシス”の核となる西口駅前広場は、小松市の地域文化を象徴するランドマーク施設として、雪吊りを模した「光のリング」を設置し、単なる交通広場にとどまらず、市民の憩い、アクティビティの場となることを目指している。





## 審査員特別賞

### Crystal (クリスタル)

応募者：TOSHIO SHIMIZU ART OFFICE



本製品「Crystal」は、ハイクラスマンションの中庭（公開空地）に設置することを目的にデザインされた特注品である。当該マンションには数多くのアートワークが設置されており、本製品もアートコレクションの一部として計画された。

全体の形状は、アートとして形態的な魅力を持った形状になるように、アートワークディレクターとの綿密なやりとりを経て決定された。切る、曲げる、溶接する、というシンプルな製造方法で作っているが、日光を受け、様々な陰影の調子を生み出す多面体とした。



### 耐震地下駐輪場エコサイクル

応募者：(株)技研製作所



エコサイクルは、「地上に文化を、地下に機能を」というコンセプトのもと、永年にわたり培ってきた圧入技術の粋を集めて完成させた、全自動機械式の耐震地下駐輪場である。地下躯体と搬送装置をパッケージ化した画期的な商品で、目的地の直近に設置することで、利便性の高い駐輪場を実現するエコサイクルは、歩道や広場から迷惑駐輪車両を一掃し、地上にはアメニティ溢れる文化的な空間を創り出す。

エコサイクルの躯体は、施工時の手順を逆にたどり杭を引抜くことで容易に原状回復でき、また引抜いた杭材も異なる機能に再利用できる。



### 軽井沢レイクガーデン

応募者：(有)ユー・プラネット



開発から50年が経過した南軽井沢の別荘地「レイクニュータウン」の活性化と新たなリゾート景観づくりを目的に、別荘管理会社である(株)レイクニュータウンが自社敷地内の調整池（レマン湖）及び湖畔区域の改修を計画した。

レイクガーデンの工事は(株)レイクニュータウンが自社の建築部門である子会社や地元の造園業者、バラや宿根草の専門家、石積施工業者とともにほぼ自前で施工している。そのため開園以来毎年何かしかの改修工事を実施しており、「ガーデンは常に変化し続ける」というコンセプトを大切にしている。





しあわせな風景×デザインJAPAN  
JUDI 20th Anniversary

# 第1回 JUDI パブリックデザイン賞 作品募集

## 表彰対象

都市環境デザインやパブリックデザインの質の向上に寄与した製品や空間を、JUDI 都市環境デザイン会議が、第1回 JUDI パブリックデザイン賞として表彰いたします。自薦、他薦を問わず、どなたでも応募できます。

■舗装、照明、柵、緑化、ストリートファニチャー等の製品  
(既製品、標準品、特注品等幅広く対象とします)

■ポケットパーク、歩車道、施設内空地等の空間

※なお、表彰の対象は実際に施工事例があるものとします。

JUDI パブリックデザイン賞	大賞	製品部門、空間部門	各1点 (計2点)
	製品賞		4点程度
	空間賞		4点程度
	ブロック賞		4点程度
	特別賞		4点程度

## 応募方法

応募書類をダウンロードし必要事項をご記入の上、下記の宛先に郵送して下さい。

■ダウンロード先 URL : <http://www.judi.gr.jp/>

■郵送先 〒113-0033

東京都文京区本郷2-35-10 都市環境デザイン会議  
第1回 JUDI パブリックデザイン賞 募集係

## 受付期間

平成23年1月5日～平成23年7月31日 (当日消印有効)

(東日本大震災に伴う諸事情により受付期間を変更しました)

## 結果発表

平成23年9月 (予定)

## 表彰式

平成23年10月8日 (2011年都市環境デザインモニターメッセにて表彰式を行う予定)

## 賞品

賞状及び記念品

## 後援

国土交通省、経済産業省、(財)都市づくりパブリックデザインセンター、TDA (予定)

主催 : JUDI 都市環境デザイン会議 事業委員会

お問い合わせ : Tel 03-3812-6664 E-mail [judi@japan.email.ne.jp](mailto:judi@japan.email.ne.jp)

■応募要項

**第1回 JUDI パブリックデザイン賞 募集要項**

**1. 趣旨**

都市環境デザイン会議 (JUDI) は、本年 (2010 年) をもって設立 20 周年を迎え、1993 年から始まったモニターメッセも 19 回を数えます。その間に発表された製品等は 240 例余り、参加企業数も 70 社近くに上ります。また、2007 年からは「ポストモニターメッセ」を開催し、参加企業からは好評を受けております。

この間、都市デザインや景観に対する社会的な関心が高まる一方で、社会や経済環境の変化に伴い、国や自治体のまちづくりや景観事業も減少し、関連する製品メーカー、施工業者も厳しい状況にあります。

このような中で、都市環境デザイン、パブリックデザインの向上に貢献している企業・団体等の活躍を社会に広め、もってその取組みを支援することを目的に、その活動や実績を表彰する「JUDI パブリックデザイン賞」を創設いたしました。

第1回目は、2011年1月から募集を開始し、6月の都市環境デザインモニターメッセで表彰式を行う予定です。また、第2回目以降は3年に1回のトリエンナーレ方式で開催する予定です。

**2. 表彰対象**

① 都市環境デザイン、パブリックデザインの向上に寄与した以下のものとします。

- 1) 製品部門：舗装、照明、柵、緑化、ストリートファニチャー等の製品 (既製品、標準品、特注品等、幅広く対象とする)
- 2) 空間部門：ポケットパーク、歩道、施設内空地等の空間
- ② 表彰の対象は実際に施工事例があるものに限定します。
- ③ 賞の種類は以下の通りです。
  - ・ JUDI パブリックデザイン賞 (大賞) : 製品部門、空間部門各1点 (計2点)
  - ・ 製品賞 : 4点程度
  - ・ 空間賞 : 4点程度
  - ・ ブロック賞 : 4点程度
  - ・ 特別賞 : 4点程度

**3. 応募条件等**

① 応募要件

- 1) 対象
  - ・ 製品部門：都市環境、景観、パブリックデザイン等に関わる施設、装置、道具等の単体の製品
  - ・ 空間部門：製品を施工して整備・形成した空間
- 2) 対象の竣工時期  
過去20年以内に製造、施工実績があるもの。
- 3) 対象の所在地  
公共性の高い場所に施工された製品、空間 (公共空間、民間敷地等は問いません)
- 4) その他 (応募にあたって必要な事項)
  - ・ 製品等の概要 (製品の製造者、施工 (発注者)、施工時期)
  - ・ 計画、設計者
  - ・ 管理状況 (管理者、補修の有無、応募企業の関与)
  - ・ 出張製品、空間の概要 (計画図、現場写真 (竣工当時、現在) 等)
  - ・ 製品開発又は空間整備の背景、狙い (開発当時の問題・課題とそれに対する工夫等)

② 応募資格

- 1) 応募者  
どなたでも応募できます。
- 2) 推薦者  
応募者以外の意見を聞く観点から、以下のいずれかの条件を満たす JUDI 会員の推薦を得

1

て下さい。

- ・ 応募製品を用いて計画、設計した経験がある。
- ・ 応募空間の計画、設計に携わった経験がある。
- ・ 応募製品の開発に関わった。
- ・ 応募製品または応募空間を見たことがある。

※ JUDI 会員、協力法人、過去に都市環境デザインモニターメッセに出展経験がある企業が応募する場合には、JUDI 会員の推薦は必要ありません。

**4. 応募手続き**

① 提出書類  
応募申込書 (JUDI ホームページからダウンロードし、データと印刷物を提出して下さい)  
※ 応募申込書は Microsoft Word 形式です。  
※ 応募申込書への記入 (文字入力、図面、写真等の貼り付け等) はこのファイル上で行って下さい。  
※ 記入したファイルを記録した CD-R と印刷物 (1部) を提出して下さい。  
※ 選集掲載用画像データ (JPEG 形式) で上記 CD-R に格納して下さい。  
※ 提出ファイル名は、「PD賞応募\_提出者名 (企業名) として下さい。

② 提出方法  
郵送のみとします。(提出期限は「5. スケジュール」を参照)

③ 郵送料  
〒113-0033 東京都文京区本郷 2-35-10 都市環境デザイン会議  
第1回 JUDI パブリックデザイン賞 募集係

**5. スケジュール**

- ① 受付期間  
平成 23 年 1 月 5 日～7 月 31 日 (当日消印有効)
- ② 審査期間  
平成 23 年 4 月～5 月
- ③ 結果発表  
平成 23 年 5 月予定 (応募者にメールで通知、JUDI ホームページに掲載)
- ④ 表彰式  
平成 23 年 10 月 8 日  
同日開催予定の 2011 都市環境デザインモニターメッセにて表彰式を行います。

**6. 選考料等**

① 選考料

- 1) JUDI 会員、協力法人が応募する場合 : 5,000 円
- 2) 過去にモニターメッセに出展した企業が応募する場合 : 5,000 円
- 3) その他の企業が応募する場合 : 20,000 円  
(受付確認後、メールにて郵便振込口座番号をお知らせいたしますので、選考料を振込こんでください。なお振込手数料はご負担いただきます)

② 受賞選集掲載料  
20,000 円 (受賞者にご負担いただきます。審査後、受賞者にメールにて郵便振込口座番号をお知らせいたしますので、受賞選集掲載料を振込こんでください。なお振込手数料はご負担いただきます)

**7. 後援**  
国土交通省、経済産業省、(財) 都市づくりパブリックデザインセンター、TDA 等の後援予定  
以上

2

■応募用紙

**第1回 JUDI パブリックデザイン賞応募用紙**

\*太枠の中に記入して下さい。

**応募作品の概要**

(ふりがな) 作品名 (製品名、施設名等)	( )
(ふりがな) 所在地 (施工箇所の住所等)	( )
応募部門	製品部門 / 空間部門
	エントリー時 の受付番号

**連絡担当者**

(ふりがな) 氏名 (姓/名)	( )
連絡先	住所
	所属 (部署名まで記入)
	TEL.
	FAX
	E-MAIL

主な関係者に、JUDI 個人会員が含まれる *該当する方に○を付けてください。	はい	いいえ
(上記「いいえ」の場合) 推薦を受けた JUDI 会員名		

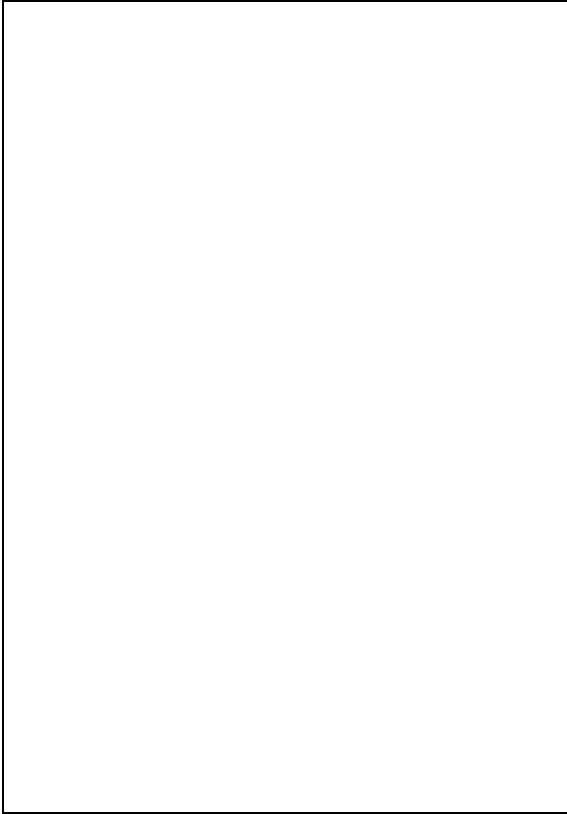
**■申込書**

作品諸元

作品名 (製品名、施設名等)	( )
(ふりがな) 所在地 (施工箇所の住所等)	( )
	最寄駅： 線 駅より 分
作品の概要	製造者
	発注者
	計画・設計者
	施工者
竣工年月日	西暦 年 月 日
管理状況	管理者
	補修の有無、 補修の概要
	応募者 (企業) の関与

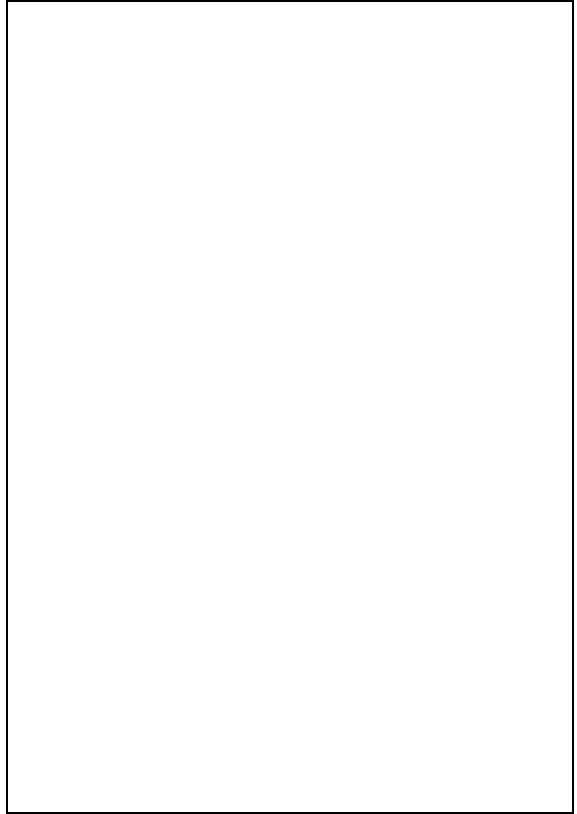


作品（製品、空間）の計画図等 \* 平面図、立面図等、作品の概要が分かるものを添付



※このページは2枚まで提出可

現場写真（竣工時・現在） \* 竣工時、現在（近年）の写真を添付。補修済みの場合はその状況もわかる写真も添付。



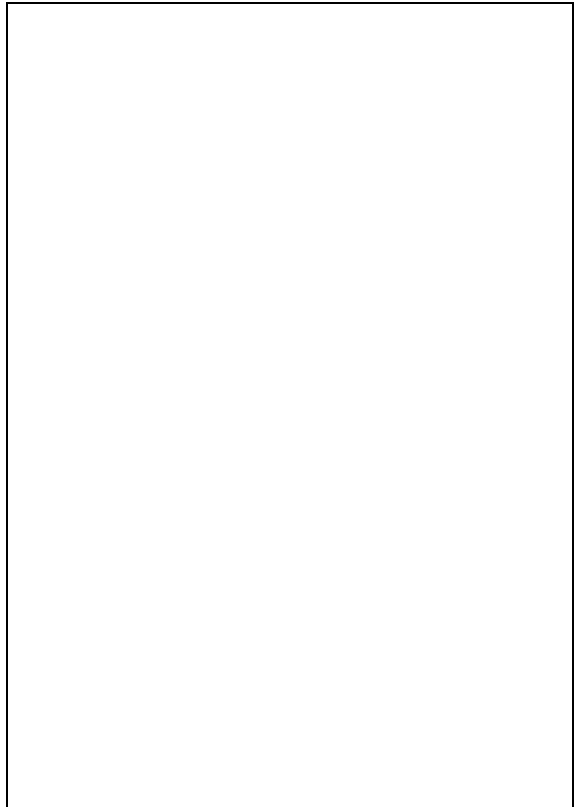
※このページは2枚まで提出可

製品開発、空間整備の背景と狙い（開発、計画、施工当時の問題・課題とそれに対する工夫、苦労話等）



※このページは2枚まで提出可

関連資料・写真添付欄 \* ここまでに紹介できなかった図面、写真等を貼っていただいても結構です。



※このページは2枚まで提出可

# 高耐候サインパネル サインフレーム EBAS

## Electron Beam Artec System

アーテックは高耐候性サインパネルを中心にサイン全般を取り扱っております。ロングライフという視点から環境に貢献できる製品を提案します。

**artec 株式会社アーテック**  
http://www.e-artec.co.jp

### 主要業務


弊社はEB(電子線)照射技術を塗装に応用様々な商品の開発に取り組んでおります。サインパネル・内装建材を始め、耐久性・耐候性・耐薬性・耐摩耗性に優れた商品を自信を持って、ご提供させて頂いております。

- 景観材部門  
屋外サイン部材の製造・販売  
デザインデータ制作
- 建材部門  
木質フロアの製造・販売  
壁面用木質化粧パネルの製造・販売  
木質建材の塗装・加工

本社/工場：〒498-0066 愛知県海部郡弥富町楠2丁目7番 TEL:0567-68-4444  
東京営業所：〒170-0013 東京都豊島区東池袋1-47-3 17山京ビル704 TEL:03-3985-0095

## 1 優れた耐候性(耐色あせ)・耐久性

ロングライフを支えるEBコーティング



## 2 いたずらに強い

油性マジック・スプレーの悪戯やタバコ熱に負けない



中性洗剤または洗浄用溶剤(ラッカーシンナーやベンジン)で白濁せず簡単に洗浄可能です。



タバコの揉み消しや押付け程度の熱で表層が炭化することはありません。

## まちづくり・地域づくりの計画から実践まで 地域のみなさまとともに



株式会社 KITABA 〒001-0013  
北海道札幌市北区北13条西3丁目2-1 北13条ビル2F  
代表TEL: 011-299-8805 / 代表FAX: 011-299-8990

- |                              |             |              |                   |              |                |
|------------------------------|-------------|--------------|-------------------|--------------|----------------|
| Planning                     | □ 地域・まちづくり  | □ 観光振興計画     | □ 環境・エネルギー調査研究・計画 | □ 景観計画       | □ 公園緑地・緑に関する計画 |
| Design                       | □ 地区交通計画    | □ スポーツ振興計画   | □ 文化振興等計画         |              |                |
| Produce & Management         | □ ランドスケープ   | □ 水辺空間景観デザイン | □ リゾート計画          | □ 開発行為       | □ ユニバーサルデザイン   |
| Citizen autonomy & Community | □ エリアマネジメント | □ 中心市街地活性化   | □ 商店街再生計画         | □ 地域資源プロデュース | □ 事業計画・マネジメント  |
|                              | □ 市民自治      | □ コミュニティ     | □ ビジネス支援          | □ キャリアアップ    | □ 市民参加のコーディネート |





八千代市立みどりが丘小学校

Architectural and Planning Office  
株式会社 現代計画研究所

〒176-0012  
東京都練馬区豊玉北6-4-4-201  
TEL 03-3994-8601 / FAX 03-3994-8603  
<http://gkk-tokyo.com/index.html>



1



2



4



3



5

1. 天津市空港経済区環境デザイン・中国 天津市
4. 深圳市宝安中心区都市景観設計・中国 深圳市宝安区
3. 青島ウィークリープラザプロジェクト・中国 青島市  
日本都市総合設計連合体
4. 市内環状線景観計画・富山県 富山市
5. 札幌市LRT計画・北海道 札幌市

**GK設計**  
一級建築士事務所

E-mail: [sekkei@gk-design.co.jp](mailto:sekkei@gk-design.co.jp)  
<http://www.gk-design.co.jp/sekkei/>

東京事務所  
東京都新宿区上落合1-16-7 NKビル 〒161-0034  
TEL 03-3360-8321 FAX 03-3360-8328

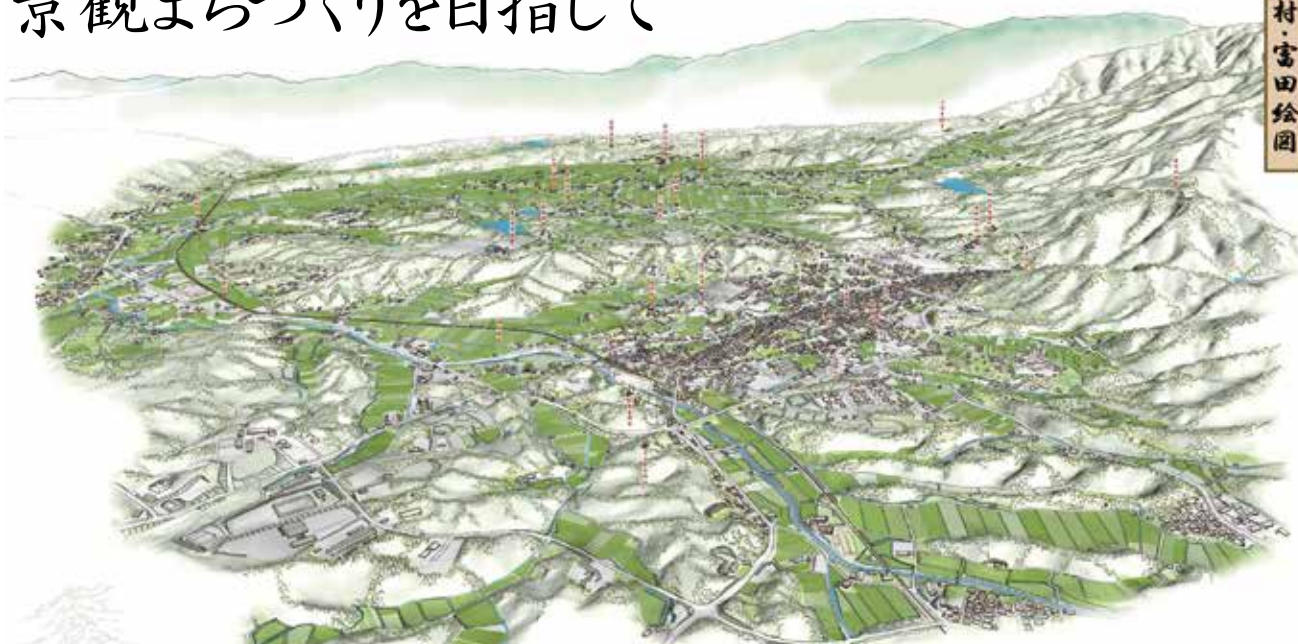
関西事務所  
京都市上京区相国寺東門前町657 〒602-0898  
TEL・FAX 075-252-7790





# 地域の履歴と思いがこもった 景観まちづくりを目指して

岩村・富田  
絵図



岩村・富田地域絵図（恵那市 B 全大）

株式会社  
プランニングネットワーク

〒114-0012 東京都北区田端新町3丁目14番6号  
TEL : 03 (3810) 9381 FAX : 03 (3810) 9384  
URL : <http://www.pn-planet.co.jp>



 株式会社 ユー・プラネット  
(日本 尤 浦 设计)  
Riben You Pu Sheji

本社  
〒111-0043 東京都台東区駒形1-5-6 金井ビル3F  
TEL.03-3847-3555 / FAX.03-3847-3375

上海事務所（中国）  
200233 上海市中山西路1800号 兆豐環球大廈24F-F2  
TEL.+86-(0)21-6440-3061 / FAX.+86-(0)21-6440-3060

E-Mail. [office@u-planet.jp](mailto:office@u-planet.jp)  
URL. <http://www.u-planet.jp>

北越谷駅東口駅前交通広場【設計・監理】



50<sup>th</sup>  
おかげさまで50周年



美しくにづくりに良い品を  
ヨシモトポール

## デザインの夢を実現する

ヨシモトポール株式会社

〒100-0006 東京都千代田区有楽町1-10-1 (有楽町ビル)

電話：03-3214-1552 (ポール営業部) ファックス：03-3212-1751

ホームページ <http://www.ypole.co.jp/pole/index.html>

左写真：当社実績「小倉駅親水広場 照明柱 (設計：アプル総合計画事務所)」

株式会社


# レム空間工房

Lighting, Environment & Mind

株式会社レム空間工房

照明デザイン・夜間景観計画・デザインコンサルティング





**鋳物メーカーとして  
リサイクルと環境に配慮した  
製品作りに取り組んでいます。**

photo: 越谷駅東口駅前交通広場  
設計・監理: (有)ユー・プラネット  
施 工: 山崎建設(株)

技術と信頼のブランド  
**I.G.S.**

〒332-0011 埼玉県川口市元郷3-22-23

**伊藤鉄工株式会社** 土木景観材部

TEL: 048-224-2744 FAX: 048-222-3379

<http://www.i-g-s.co.jp>

じいじにばあばも、  
お母さんお父さんも、  
みんないつしよに、ね。



コトブキは、現代の超高齢社会を見据えて、「三世代が楽しめる公園」を提案しています。

円熟世代には、日常的動作能力の向上が図れて生活習慣病などの予防に役立つように。

お父さんお母さんのガンバル世代には、老化を防いで、ストレス解消にも役立つように。

小さな子供たちには、健全な体力、気力、知力の成長につながるように。すべては楽しみながら。

そして何よりも誰もが自然の陽のもとで、伸び伸びと、ふれあいを楽しめるように。

**健康遊具、「エルフィット」&「エルウェル」。**

いつの間にか40代から50代、気づくと60、70代：加齢は常に「いつの間にか」の連続ですね。

エルフィット&エルウェルは、予防医学の観点から中高齢者の、正しい姿勢と体力の回復、そしてバランス感覚を養い、運動能力を促進させます。





# STArt

STArtは三協立山アルミがご提案するアーバンファニチュア  
街並みづくりはここからスタート

心地よい空間を演出したい。いろんな人の夢を叶える空間をご提案したい。  
外に広がる空間をもっと素敵に自在に活用してもらいたい。これは「景観を  
形づくる商品」を提案する三協立山アルミの基本コンセプト。

まず、ユニバーサルデザインの目線で子供や高齢者の方、車いすや杖を利用  
される方の動きを忘れないこと。環境にやさしいアルミニウムによる景観エ  
クステリア商品で、地域の人々が誇りを持てる街づくりに貢献すること。

これらを細かくチェックして、人の利便性や安全性をサポートしながら暮ら  
しよさを高めるアーバンファニチュアを提案し、魅力ある景観づくりを皆様  
と共に考え、取り組んでいきたいと考えています。

S三協  
Structure  
&  
Sustainable

T立山  
Technology  
&  
Traditional

Aアルミ  
Amenity  
&  
Art



*New Value Creator*  
新たな価値創造へのビジネスフィールドへ



三協立山アルミ株式会社

URL <http://www.sankyotateyama-al.co.jp/>

本社 〒933-8610 富山県高岡市早川70  
パブリックエクステリア部  
TEL(0766)-20-2264 FAX(0766)-20-2071



SHOWA

# 継承。

葉梢(はずえ)の街路 アルミキャスト天井

## 福岡の街景

Urban Style of Fukuoka

### 新天神地下街(平成17年2月竣工)

約30年ぶりに延伸された新天神地下街の「梢の街路」と「葉梢の街路」の天井には、アーチ型のアルミキャスト天井が建設されました。既設の継承をテーマにしながらも、新たな福岡オリジナルを目指したキャストデザインは、地下空間では類をみない圧倒的な景観を形成しています。弊社では、既設の天神地下街に続き、新天神地下街プロジェクトでも、この天井をはじめとする金属工事を担当しました。

昭和鉄工株式会社 都市景観部 <http://www.showa.co.jp>

本社 〒812-8587 福岡市東区箱崎ふ頭3丁目1番35号 TEL 092-651-2939 FAX 092-651-0558  
仙台営業所 〒982-0012 仙台市太白区長町南4丁目1番20号 TEL 022-246-7413 FAX 022-246-7417  
東京営業所 〒144-0045 東京都大田区南六郷3丁目10番16号 TEL 03-3730-1066 FAX 03-3730-1937  
大阪営業所 〒550-0011 大阪市西区阿波座2丁目2番18号 TEL 06-6578-2414 FAX 06-6578-2415  
広島営業所 〒732-0052 広島市東区二葉の里2丁目5番16号 TEL 082-568-7566 FAX 082-568-7588  
鹿児島営業所 〒892-0847 鹿児島市西千石町3番21号 TEL 099-805-2031 FAX 099-805-2032  
工場 福岡(宇美・古賀・久山)・北海道・中国(大連)





# ハニカム パネル + スマート

50mm厚パネルにLED照明内蔵  
ソーラーとあわせても100mm  
軒先からのミスト噴霧も可能  
すべて一枚に納める。これが  
スマートシェルターという発想

**SN** 株式会社  
住軽日軽エンジニアリング

□ 本 社 〒116-0071 東京都江東区亀戸2-35-13 新永ビル TEL. 03-5628-8540

<http://www.sne.co.jp>

□ 北海道支店 〒080-0051 札幌市中央区南1条東3 北海道日伊文化会館 TEL. 011-261-4111

□ 東北支店 〒980-0852 仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル TEL. 022-292-7011

□ 新潟支店 〒950-0985 新潟市新光町17 TEL. 025-283-6895

□ 静岡支店 〒420-0859 静岡市葵区栄町1-5 ホームスト静岡ビル TEL. 054-273-8851

□ 名古屋支店 〒460-0008 名古屋市中区栄2-9-26 ポーラビル TEL. 052-209-6901

□ 北陸支店 〒920-0022 金沢市北安江1-3-24 ピア金沢 TEL. 076-222-3299

□ 大阪支店 〒641-0045 大阪市中央区道修町1-5-18 道修町ビル TEL. 06-6223-3561

□ 九州支店 〒812-0013 福岡市博多区博多駅東2-6-23 博多駅前第2ビル TEL. 092-436-6910

□ 沖縄支店 〒900-0003 沖縄県那覇市安謝2-1-25 コウチビル 2-Aビル TEL. 098-863-3723

□ 広島営業所 〒730-0841 広島市中区舟入町2-20 第2アイエスビル TEL. 082-297-5455

繊細で豊かな表情を見せる「絹織物」のように  
ふんわりと優しい和の雰囲気  
醸し出す舗装ブロックです

### ◆ 絹のような繊細で優雅な雰囲気

柔らかく温かみのある感触は歩行者に歩きやすさと安心感を与え、  
自然な質感によって光の反射を抑え、人に優しい空間を演出することができます。

### ◆ 天然石のような細やかな表情

ブロックの表面に大きさの異なる天然石の粒が  
バランスよく浮かび上がるように製造しました。

### ◆ 日本の四季を色彩に表現

街並に調和する優しい風合いの華・月・草・雪・雲・炭の  
6色揃えました。

### ◆ 雨が降っても快適で安全な歩行性を確保

透水製品は透水係数「 $1.0 \times 10^{-2}$ cm/sec」以上を確保。  
雨が降っても水たまりができず、歩行中の跳ね返りも減らすことができます。



ILB® 天然石風舗装用コンクリートブロック

# シルキーストーン

## 絹の石畳

透水タイプ

非透水タイプ

TPC 太平洋プレコン工業株式会社  
TAIHEIYO PRECAST CONCRETE INDUSTRY CO.,LTD.

東京支店 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-27-9 新宿パークビル4F  
TEL:03-3350-0681(代) FAX:03-3352-0793  
多摩支店 〒197-0023 東京都福生市志茂154  
TEL:042-551-0863(代) FAX:042-553-1421  
仙台営業所 〒980-0811 宮城県仙台市青葉区一番町2-2-11 TKビル5F  
TEL:022-263-2839(代) FAX:022-261-3110  
大阪支店 〒530-0003 大阪府大阪市北区堂島2-1-16 フジタ東洋紡ビル9F  
TEL:06-6344-6212(代) FAX:06-6344-9280  
名古屋支店 〒489-0951 愛知県瀬戸市石田町118  
TEL:0561-84-7688(代) FAX:0561-84-7691





ひとつに美意識、  
ふたつにクラフトマンシップ  
そして、心に響くこと。

あらゆる建築の内外に活かされ、都市環境に息づく金属製品を生み出しているユニオン。「景観製品ヒューランドスケープ」は都市の景観と安全性を高めることを目指し生まれてきたもの。一つひとつの製品が使う人の審美眼に叶い、都市景観全体に生き生きと働きかける“アートウェア”であるために、私たちは第一に作り手としてのレベルの高い美意識を大切にしています。そして第二に、これを余すところなく形にするクラフトマンシップ。素材にこだわり、道具にこだわり、芸術的な手の動きにこだわる。製品のみならず、こうした美意識やクラフトマンシップもまた、私たちはアートと呼びたいのです。ユニオンの思考、活動のすべてがアートであり、製品のすべてがアートウェア。私たちのスピリッツと製品が都市景観に活かされるとき、またひとつ空間が輝きを増し、またひとつ心が豊かになること。それが、私たちユニオンの願いです。

# Union's Philosophy

ART WARE

[www.artunion.co.jp](http://www.artunion.co.jp)

UNION 建築文化を創造する  
株式会社 ユニオン

本社  
〒550-0015  
大阪市西区南堀江2-13-22

大阪支店  
〒550-0015  
大阪市西区南堀江2-13-22  
tel 06-6532-3731  
fax 06-6533-2293

東京支店  
〒135-0021  
東京都江東区白河2-9-5  
tel 03-3630-2788  
fax 03-3630-4043

## 編集後記

1992年にプレモニターメッセとして始まった都市環境デザイン・モニターメッセ（以下、モニターメッセ）は、ある意味、都市環境デザイン会議の歴史、ひいては我が国における都市環境デザインの歴史そのものであった。本冊子はそのモニターメッセの20年を振り返り、これからの都市環境デザインを考える契機とすべく企図されたものであり、2011年のモニターメッセ報告書との合併号として出版されたものである。

これまでに発表された数多くの製品や技術をレビューすることは、単にモニターメッセの足跡を振り返ることのみならず、製品メーカー等との協働によってより優れた都市環境製品を世に送り出すことを目的としたモニターメッセが、その役割を果たし得たかを確認する上で、事業委員会のみならず都市環境デザイン会議がその責務として行わなければならないと日々考えていたことである。

『出展企業からみたモニターメッセ』は、以前から参加されている企業と近年参加されるようになった企業の皆さんが、どのようにモニターメッセを見ておられるかを掲載したものである。厳しい評価をいただくこともあるかと思っていたが、都市環境デザイン会議20周年というご祝儀もあり、随分と好意的な評価をいただく結果となった。

『第1回パブリックデザイン賞』は、これまでにモニターメッセに出展いただいた製品やJUDI会員の作品を顕彰したものである。特に前者はモニターメッセのレビューの一環として位置づけられたものであり、都市環境デザインに資する参加企業の持続的な製品・技術開発を表彰し、さらなる発展を促す仕組みとして、今後事業委員会が展開する新たな事業のひとつである。今回、受賞された製品・企業はもとより、これまでに参加された数多くの出展企業に対して、心から感謝すると同時に、これからも良好な都市環境を形成するパートナーとしてともに歩んでいくことに期待したい。

田中一雄氏による『ストリートファニチャーからパブリックデザインへの歩み』と題する基調講演は、まさに都市環境デザインの歴史を振り返り、これからのあり方を展望する機会を私たちに与えてくれた。心から感謝の意を表したい。

2011年のモニターメッセは、都市環境デザイン会議創立20周年の節目の年となることから、「都市環境を形成するパブリックデザインの新しい力」をテーマに据え、準備をはじめた。しかし、世界中を震撼させた東日本大震災による多大な影響のため、10月に順延して開催することとなった。モニターメッセに6社、ポスターセッションには5社の参加をいただいて無事開催できたことに、関係各社のご理解とご協力で改めて深謝する次第である。都市環境デザイン会議創立20周年の節目の年は、東日本大震災を契機とした新たなまちのあり方やつくり方を考える節目の年となった。都市環境デザイン会議と出展企業とがともに考え、行動することで、新たな時代の要請に応じていく必要性がこれまで以上に高まったといえる。最後に、これまでにモニターメッセに参加された企業、都市環境デザイン会議会員、そしてモニターメッセを企画・運営し、本冊子の編集を担った事業委員全員、事務局の中村さんに感謝したい。

## 都市環境デザイン会議・事業委員会

横川 昇二 / 東京工科大学（事業委員長）

伊藤 登 / プランニングネットワーク

須田 武憲 / GK設計

茂手木 功 / 日本都市総合研究所

三輪 強 / 昭和鉄工

小早谷 信之 / アーテック

谷口 雅彦 / 都市環境研究所

工藤 勉 / ヨシモトポール

栗原 裕 / ユー・プラネット

※本冊子とりまとめにあたり、資料作成にご協力頂いた各企業の皆様、また当日の議論のとりまとめを頂いた各コメントーターの皆様に感謝申し上げます。



しあわせな風景  
×  
デザインJAPAN  
JUDI 20th Anniversary

---

### JUDI 都市環境デザイン会議 モニターメッセ20周年記念集

2012年2月発行

編集・発行 都市環境デザイン会議・事業委員会  
レイアウト・制作 (株)アーバンプランニングネットワーク  
印刷・製本 (株)プリントパック

<http://www.judi.gr.jp>

---